

秋田県文化財調査報告書第282集

# 池 内 遺 跡

——国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書IX——

遺物・資料篇

1999・3

秋田県教育委員会

いけ　　ない　　い　　せき  
池　　内　　遺　　跡

—国道103号道路改良事業に係る埋蔵文化財発掘調査報告書Ⅸ—

遺物・資料篇

1999・3

秋田県教育委員会



S T 639谷



S T 639谷 ニワトコ出土状況



ニワトコ塊



S T639谷 土器出土狀況



S T639谷 シカ骨出土狀況



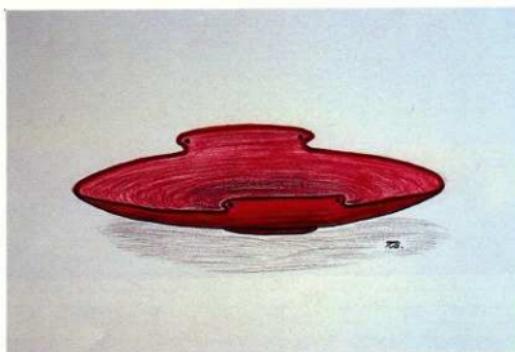
S T639谷 漆塗皿片出土狀況



S T 639谷 出土漆塗皿片



同上 裏面



同上皿複原想像図



S T 639谷出土の彫刻されたクルミ・研磨されたクルミ



同上裏面



S T 639谷 出土琥珀玉

## 序

秋田県には先人たちが豊かな自然のもとで築き上げた歴史があり、埋蔵文化財もその遺産のひとつであります。それは、現代に生きるわたしたちに託されたものであり、損なう事なく未来へと伝えていくべきものであります。

一方、より快適な生活環境の整備は、今日的な課題であり、このために失われる埋蔵文化財を調査し記録の保存を図ることも大切であります。

平成4年から4ヶ年にわたりて発掘調査を実施致しました池内遺跡では、一つの台地に広がる縄文時代と古代の集落跡のほぼ全容を明らかにすることができました。

特に縄文時代前期に東北地方北半から北海道南半に広がる円筒土器文化圏における集落構造と、社会生活を解明する貴重な資料を得ることができ、平成9年度には集落を形成する各種遺構についてまとめ、遺構篇として刊行致しました。

本書は、縄文時代前期にこの集落に生活した人々が、どのような住環境で、何を食糧とし、どのような技術を有したのか、他の地域とどのような交流したのかが解明できるような資料を豊富に発見できました、捨て場群を中心まとめたものであります。

発掘調査での従来の考古学的な所見ばかりでなく、自然科学分野の諸学問研究者との学際的な研究所見も併せた、縄文時代前期の内陸部に形成された集落の分析は、埋蔵文化財に対するご理解と歴史研究にいさかでも役立てば幸いと存じます。

最後に、発掘調査から整理作業、報告書の刊行に至るまで御指導、御協力いただきました国立歴史民俗博物館、秋田県土木部北秋田土木事務所、大館市教育委員会ならびに関係各位に対し厚く御礼申し上げます。

平成11年3月

秋田県教育委員会

教育長 小野寺清

## 例　　言

1. 本書は、国道103号道路改良事業（通称大館南バイパス）に係る大館市池内字上野56外に所在する池内遺跡の発掘調査報告書である。
2. 本遺跡の発掘調査は、平成4年度から平成7年度までの4カ年実施し、整理作業は平成4年度から平成10年度まで6カ年実施した。
3. 本書は、平成9年度刊行の「発掘調査報告書Ⅰ－遺構篇－」に続き、2冊目となる遺物・資料篇である。当初、本書は遺物・総括論として構成した。1冊目の遺構篇は平成9年3月に刊行し、その後に捨て場の遺物の整理に入ったが、事業終了に伴い2冊目となる本書はわずか2年足らずでの刊行となつたため、捨て場からの各種大量の遺物の処理が追いつかなかつた。人的・時間的な制約の中でも、できるだけ多くの遺物を掲載することにしたものの、土器、石器と石製品の実測と写真撮影などが間に合わなかつた。遺物の分類、考察が不完全であり、池内遺跡の全体像を把握するには不完全であるが、「発掘調査報告書Ⅱ－遺物・資料篇－」とし、章立ては平成9年度刊行の「発掘調査報告書Ⅰ－遺構篇－」に引き続き、第5章からとした。

本書は、平成10年12月5日全線開通した、国道103号道路改良事業（通称大館南バイパス）に係る埋蔵文化財の発掘調査報告書としては、9冊目となる。

4. 整理作業は、秋田県埋蔵文化財センターで行っていたが、平成5年度からは、センターと大館整理室の2カ所で並行して続けた。大館整理室では主として土器の接合・復原・実測・写真撮影を行い、センターでは、現場図面の整理と土器の採拓・実測、石器・木製品等の実測・写真撮影・原稿執筆・編集を行つた。
5. 本書に使用した地形図は、建設省国土地理院発行25,000分の1「大館」、50,000分の1「大館」「鷹巣」、秋田県土木部北秋田土木事務所作製1,000分の1工事計画図である。これらの地形図と、発掘調査時に作製した測量図面を組み合わせ調整して掲載した。
6. 本書に使用した土色表記は、農林水産省農林水産技術会議事務局監修・財団法人日本色彩研究所色票監修『新版標準土色帖1989年版』である。
7. S T639谷の中に形成された捨て場の動・植物遺体包含層の調査と整理については、下記の諸氏を専門指導員に委託して指導と玉稿を賜つた。

植物全般指導：辻 誠一郎（国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授）

木材樹種同定：鈴木 三男（東北大学理学部附属植物園長）

植田 弥生（大阪市立大学理学部植物分類学研究室）

現 株式会社パレオ・ラボ）

木製品鑑定：山田 昌久（東京都立大学人文学部助教授）

大型植物遺体：南木 瞳彦（流通科学大学助教授）

住田 雅和（国立歴史民俗博物館歴史研究部研究推進員）

微小植物遺体：辻 誠一郎（国立歴史民俗博物館歴史研究部助教授）

後藤香奈子（国立歴史民俗博物館歴史研究部研究推進員）

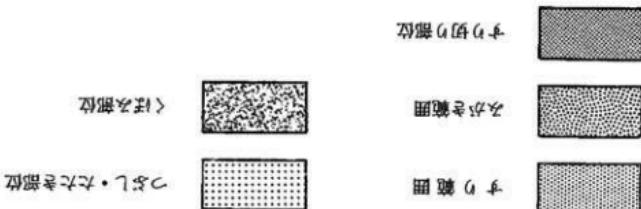
動物遺体：西本 豊弘（国立歴史民俗博物館考古研究部教授）

8. S T396・504谷の中から出土した自然木と、上部平坦面に構築された縄文時代の遺構や、古代の竪穴住居跡から出土した炭化材と種子の同定、植物珪酸体分析、花粉分析を、パリノ・サーヴェイ株式会社に委託した。
9. S T639谷の中に形成された捨て場の動・植物遺体包含層と、S T396・504谷の中から出土した木材により年代測定するため、株式会社パレオ・ラボに委託した。
10. S T639谷の中に形成された捨て場の動・植物遺体包含層から出土した木製品・木材等の一部は保存処理することになり、株式会社吉田生物研究所に委託した。
11. 石匙のみ製作された黒耀石の原産地推定については、京都大学原子炉実験所の薬科哲男氏に依頼し、玉稿を賜った。
12. 本書に掲載した土器実測図と拓影・実測図の一部については、アイシン精機株式会社に委託した。
13. 本書に掲載した石器実測図には、株式会社シン技術コンサルに撮影委託した実測用写真を一部使用したが、大部分は上方から照射して複写できる複写機で実測用下絵を作り、マイラーベースにトレースする方法を採用した。
14. 本書に掲載した土器・石器・石製品・木製品等の遺物写真は、櫻田が撮影した。
15. 本書に掲載した植物遺体の顕微鏡写真は、国立歴史民俗博物館歴史研究部の辻 誠一郎助教授と住田雅和研究推進員の撮影による。
16. 本報告書の刊行に至るまでに、諸氏の御指導とご教示、資料提供を賜った。記して謝意を表したい。(順不同・敬称略)

成田滋彦・木村鐵次郎・畠山昇・斎藤由美子(青森県埋蔵文化財調査センター)	
遠藤正夫・児玉大成・北林八洲晴(青森市教育委員会)	佐藤智雄(函館市教育委員会)
鈴木克彦・三宅徹也・大湯卓二(青森県立郷土館)	長谷部一弘(函館市立函館博物館)
古屋敷則雄(青森県東北町教育委員会)	福田裕二(北海道南茅部町教育委員会)
千野裕道((財)東京都埋蔵文化財センター)	小林和彦(八戸市教育委員会)
岡田康博・小笠原雅行(青森県教育庁文化課三内丸山遺跡対策室)	
那須孝悌(大阪市立自然史博物館)	阿部義平(国立歴史民俗博物館)
村田健二((財)埼玉県埋蔵文化財調査事業団)	
17. 本書の編集は、櫻田が行った。

## 附 录

1. 本報告書之取樣之大形圖之付之六方體土、國家標準X射線土壤北之統一法。
2. 搞圖之中之、個之遺物之付之六方體土、( ) 前之數字之遺物之遺圖之番號名。( ) 內  
①數字之付之遺物之付之六方體土、出土之遺物之圖有番號之付之六方。
3. 搞圖之付之大形圖之付之六方體土、原土之土壤之大形圖之付之六方體土之統一法。  
用鋼尺量 T1/2551/3161/L。
4. 本報告書之取樣之大形圖之付之六方體土、未算品之實測圖、時間之制約付之六方體土之統一法、總數之  
實測之大形圖之付之六方體土之統一法。未大、實測圖之制約付之六方體土之統一法、總數之  
付之六方體土之統一法。



# 目 次

序	
例 言	ii
凡 例	iv
目 次	v
第5章 地形と地質	1
第1節 地形の成因と地質	1
第2節 層序	3
第6章 平坦面の遺構出土遺物	5
第1節 概要	5
第2節 土器	5
第3節 石器と石製品等	5
第7章 捨て場とその出土遺物	23
第1節 捨て場の概要	23
第2節 発掘調査の方法	24
第3節 北西斜面の捨て場	27
第4節 S T156谷の捨て場	88
第5節 S T396・504谷の捨て場	161
第6節 S T505谷の捨て場	340
第7節 S T639谷の捨て場	352
第8節 その他の谷	692
第8章 池内遺跡の自然科学的分析	703
第1節 S T639谷の第IV層・第V層から出土した動・植物遺体について	703
第2節 S T639谷の第VI層・第V層から出土した動物遺体について	754
第3節 各種試料分析委託結果	761
第9章 池内遺跡の考古学的分析	802
第1節 縄文時代の集落構成について	802
第2節 古代の集落構成について	809
第10章 まとめ	812
報告書抄録	813

## 第5章 地形と地質

### 第1節 地形の成因と地質

池内遺跡の所在する大館盆地は、ほぼ二等辺三角形を呈し、奥羽脊梁山地の西縁部に位置するグリーンタフ地域である。この構造性の山間盆地と接する四つの山地は、一大断層により区画されていて東側の山地は傾斜、起伏量、標高も大きく、海拔500m内外で早壯年期の地域である。西側の山地は摩当山山地の東縁部と大山山地から成り、海拔高度も200~300mである。

地史的には、先西黒沢期における浅海性堆積物の堆積→西黒沢期初期における直径30kmの広さで中央部が陥没した沈降堆積盆の形成→堆積盆内部における西黒沢期から女川期にかけての海底における活発な酸性火山活動による火山岩と火山碎屑岩の堆積→女川末期から船川期における上昇運動による褶曲構造、断層群の形成と共に沿う火山岩の貫入という第三系の地質運動を経て、第四紀の十和田火山噴出物を主とする各種堆積物が分布し、各水系の侵食・開析作用により現地形が表出したと考えられている。

大館盆地を東西に流れる米代川は南から引欠川、犀川を、北からは長木川、下内川を合わせて広く沖積低地をつくり、それぞれの河間地には上・中・下三段の段丘地が発達し、これらの段丘は半島状に東から西へ細長く発達している。大館市の主市街区はこの中位段丘面に位置している。

上・中・下三段の段丘のうち、上位段丘は小坂軽石質火山灰層から成り比内段丘と呼ばれる。中位段丘は、鳥越面と呼ばれる鳥越軽石質火山灰層と、鳥越軽石質火山灰層の二次的河成堆積物である関上面から成っている。下位段丘は毛馬内面と呼ばれている。

池内遺跡は、表層多腐植質黒ボク土に覆われている鳥越軽石質火山灰層が3~4mの厚さで堆積した中位段丘面に立地している。この鳥越軽石質火山灰層の直下にはトウヒ属の森林が埋没しており、滯水層を形成している。この森林層の下位には八戸火山灰層など十和田火山起源の軽石質火山灰層が厚く堆積している(第386図)。

第386図の凡例は、下記のとおりである。

K E	毛馬内段丘	S E	関上段丘	T o	鳥越段丘	a	礫・砂・粘土(沖積層)
H b	スピライト質玄武岩・同質火山碎屑岩(保溝沢層)	O t	石英安山岩質巖灰岩(大葛層)				
O d	石英安山岩(大葛層)	H t	石英安山岩質巖灰岩(保溝沢層)	H s	礫岩・砂岩(保溝沢層)		
H m	黒色硬質泥岩(保溝沢層)	d	粗粒玄武岩(中新世・貫入岩類)	T d	石英安山岩(遠部層)		
I m	黒色泥岩(一通層)	O T d	石英安山岩(大滻層)	O T t	浮石巖灰岩(大滻層)		
O T m	硬質泥岩(大滻層)	O a t	泥岩・巖灰岩互層(大葛層)				
O T a t	硬質泥岩・巖灰岩互層(大滻層)			T w i p	軽石流堆積物(更新世・十和田火山噴出物)		



### 第386図 地形区分図

## 第2節 層序

池内遺跡は、台地の上部平坦面とその斜面に立地しており、道路建設のための買収が開始されるまでは、畠・杉造成林・雜木林・原野・農道となっていた。杉造成林は第二次大戦の戦中・戦後の一時期には食糧増産のため開墾され、昭和30年代になってから植林されたとのことである。耕作されていた畠部分とその周囲の原野では、買収された後で地元農業団体がビニールハウスの耕作土として使用する目的で不法にも大型機械で地山部分まで削り取って盛土していたのを発見・通報して原状回復させた経緯があり、層序の乱れがある。(この不法な行為により、県立大館桂高等学校が発掘調査し、埋め戻したはずの古代の竪穴住居跡1軒が所在不明となってしまった。)

人工的なあるいは自然な搅乱は所々に認められたが、上部平坦面の基本層位は、北東側では

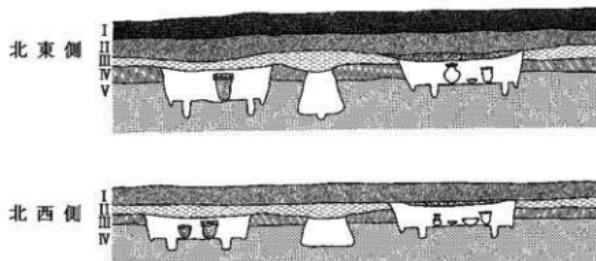
- |               |                |
|---------------|----------------|
| I層：黒褐色土（表土）   | 層厚10～13cm      |
| II層：黒褐色土      | 層厚3～10cm       |
| III層：暗褐色土     | 層厚8～23cm       |
| IV層：地山粒混入暗褐色土 | 層厚5～10cm (漸移層) |
| V層：にぶい黄褐色地山   |                |

であるが、局部的に古代の十和田火山起源の降下火山灰である大湯浮石層（広域火山灰名：十和田a火山灰）がIII層とIV層の間に薄く（層厚2～5cm）堆積していた。III層とIV層上面が古代と縄文時代の遺構確認面となったが、大湯浮石粒が所謂霜降り状を呈して堆積分布していたら古代の竪穴住居跡と判断できる場合が多かった。

北西側では

- |              |                 |
|--------------|-----------------|
| I層：黒褐色土（表土）  | 層厚10～20cm       |
| II層：暗褐色土     | 層厚7～15cm        |
| III層：褐色土     | 層厚15～25cm (漸移層) |
| IV層：にぶい黄褐色地山 |                 |

であるが、局部的に大湯浮石層がII層とIII層の間に薄く（層厚1～4cm）堆積していた。II層とIII層上面が古代と縄文時代の遺構確認面となった。北西側でも大湯浮石が堆積分布していたら古代の竪穴住居跡と判断できる場合が多かった。



第387図 上部平坦面堆積層序模式図

北東側と北西側で大湯浮石層の堆積層序に差異を生じているが、北西側では北東側のⅠ層（表土）が強い米代川方向からの風のため、堆積していなかった、あるいは堆積しても薄くて北東側では分層できたⅠ層とⅡ層が北西側では同一視されてしまったためと考えられた。

斜面部分では、北西側で開墾による土の投棄と、農業資材・耐久消費財の不法放棄を隠蔽する目的での土の廃棄（盛土）、さらには古代における自然營力による地山自体の地滑りなどが見られた。（地山自体の地滑りと判断したのは、地滑りするまえの原状地形の周囲にもほぼ同心円状の亀裂が何条も確認できたことによる。）

南東～南側の斜面には雨水・雪解け水・湧水等による開析谷が形成され、所謂黒ボク土が厚く堆積していた。この谷の幾つかでも古代（ほぼ10世紀初頭以前）に地山自体の地滑りがあったことが確認できた。この地滑りが台地全体に同時に発生したのか、局部的に雨水・雪解け水・湧水等による開析作用に伴って発生したのかは確認できなかった。

また、幾つかの谷では平坦面で竪穴住居跡・プラスコ状土坑・竪穴状遺構等を掘った際の堆土や、建物構造材・生活残滓などを投棄していた。



写真1 調査風景1  
(S T396・504)



写真2 調査風景2  
(S T396・504)

## 第6章 平坦面の遺構外出土遺物

### 第1節 概要

台地上面の平坦面は、道路建設のための買収が開始されるまで畑・杉造成林・雜木林・原野・農道となっていた。杉造成林は、開墾され畑として耕作されたあと植林されたという。遺物は遺構の集中する北西側区域から多く出土していたことから、遺物の一部あるいは相当数は竪穴住居跡の埋土に包含されていたものが、竪穴住居跡プラン確定前に掘りあげられたものと推測できよう。

### 第2節 土器

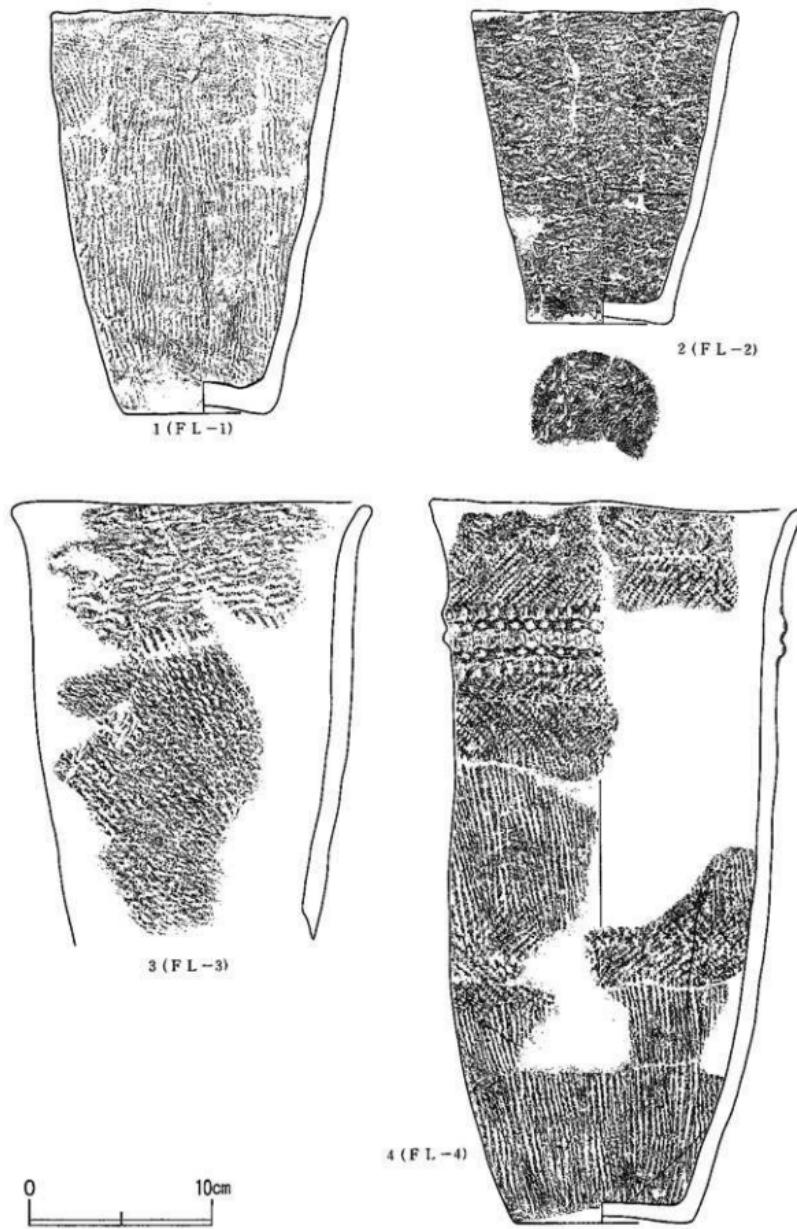
前期の円筒下層式土器様式と大木式土器様式の土器が出土したが、復元できたのはわずかである。円筒下層式土器様式では、同一施文具の回転方向を変えて口縁部文様体と胴部文様体を作出（FL-1）、同一施文具の回転方向を変えずに全面に同一文様を施したバケツ形を呈する土器（FL-2）、あるいは異なる施文具で口縁部文様体と胴部文様体を作出（FL-3）した土器、頸部に隆帯を巡らせる逆ペル・ボトム風な形を呈する土器（FL-4～6）、頸部に繩文原体を巡らせたボリューム感のある土器（FL-7・8・10）が見られる。大木式土器様式では、口径と底径がほぼ同一で、頸部がすばまるキャリバー形を呈し、底辺に指を4カ所押し付け窪ませて器形を整え、縦方向に極細の粘土紐を列点状に4条1単位で6単位垂下させたあと、単位間に縦方向の鋸歯文（連続山形文）を充填している土器（FL-12）が見られる。

### 第3節 石器と石製品等

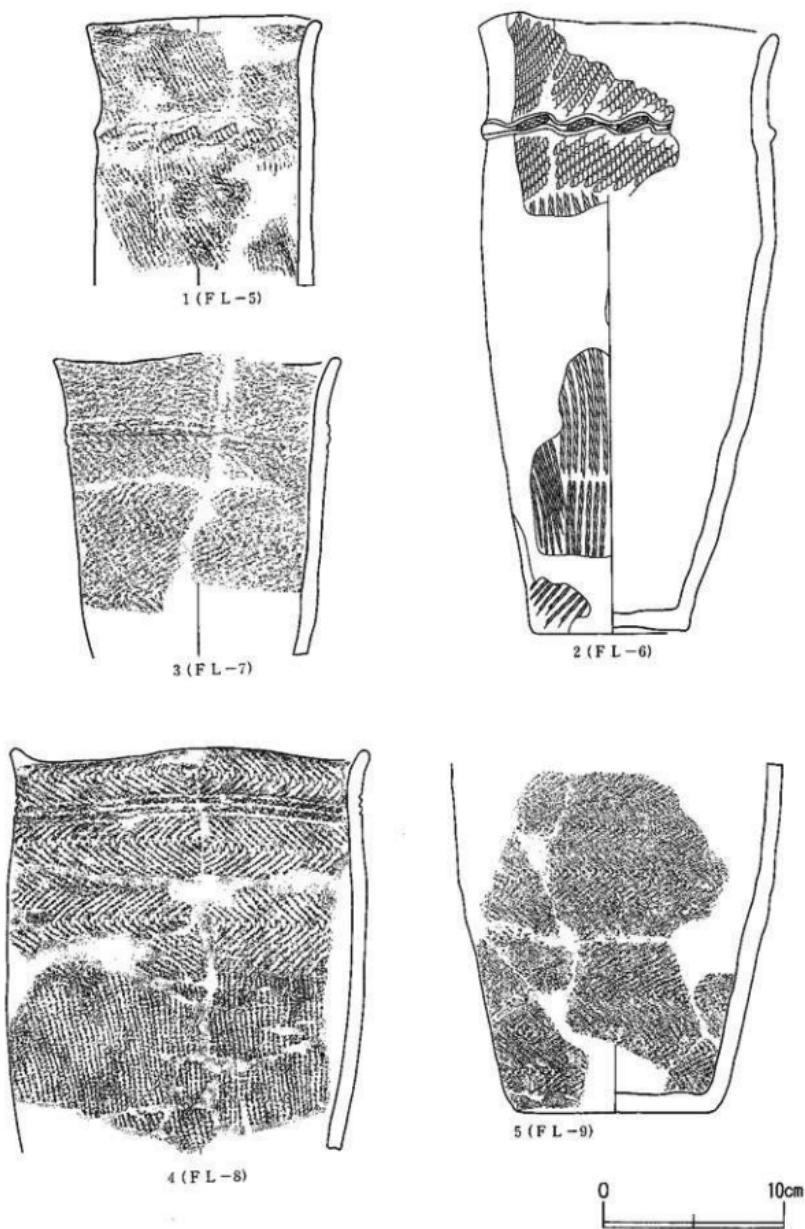
石器は、1,059点出土した。その内訳は石鎌14点（I層：3、II層：4、IV層：6、層位不明1）、石槍72点（I層：49、II層：9、IV層：6、層位不明：8）、石錐8点（I層：4、II層：1、層位不明：3）、石匙137点（I層：38、II層：34、III層：6、IV層：11、層位不明：46）、笠状石器72点（I層：12、II層：31、III層：1、IV層：8、層位不明：15）、削器150点（I層：67、II層：38、III層：1、IV層：6、層位不明：38）、搔器144点（I層：19、II層：16、III層：1、IV層：89、層位不明：19）、剥片・不定形石器91点（I層：32、II層：18、III層：3、IV層：9、層位不明：28）、磨製石斧28点（I層：9、II層：11、IV層：1、層位不明：7）、石鍤43点（I層：12、II層：11、III層：7、IV層：6、層位不明：14）、半円状扁平打製石器139点（I層：45、II層：27、III層：2、IV層：12、層位不明：53）、くぼみ石84点（I層：25、II層：27、IV層：10、層位不明：22）、敲石37点（I層：10、II層：18、III層：3、IV層：4、層位不明：2）、擦石17点（I層：4、II層：5、III層：1、IV層：5、層位不明：2）、石皿20点（I層：7、II層：5、III層：1、IV層：1、層位不明：6）、台石3点（II層：1、IV層：2）である。

石製品は、36点出土した。その内訳は、浮子5点（層位不明：5）、石棒2点（層位不明：2）、岩偶1点（IV層：1）、岩版1点（層位不明：1）、刻線碟14点（I層：2、II層：3、III層：1、IV層：2、層位不明：6）、有溝石製品5点（I層：1、層位不明：4）、円盤状石製品8点（I層：2、II層：3、IV層：1、層位不明：2）である。

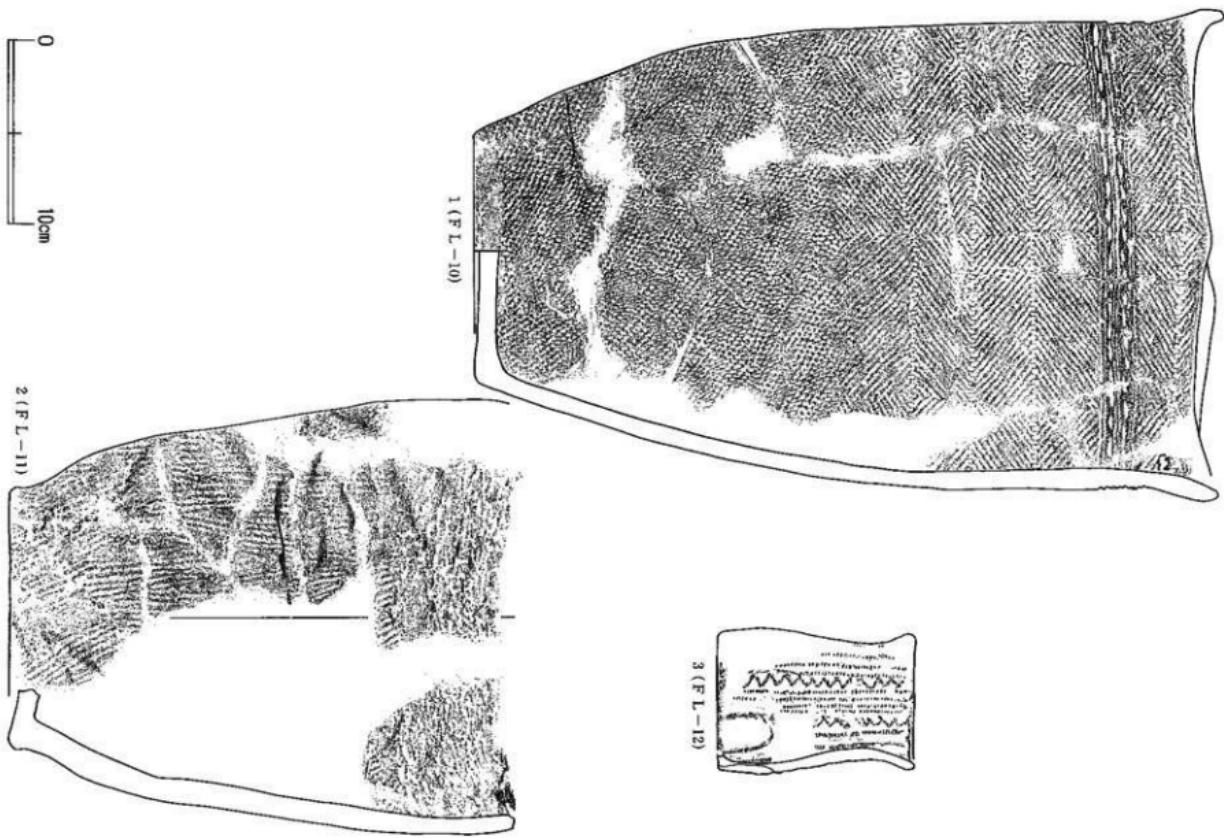
このほかに、自然碟に穴を開いた有孔碟7点（I層：1、II層：3、IV層：2、層位不明：1）、石核33点（I層：4、II層：1、III層：1、層位不明：26）、軟質碟7点（IV層：1、層位不明：6）が出土している。



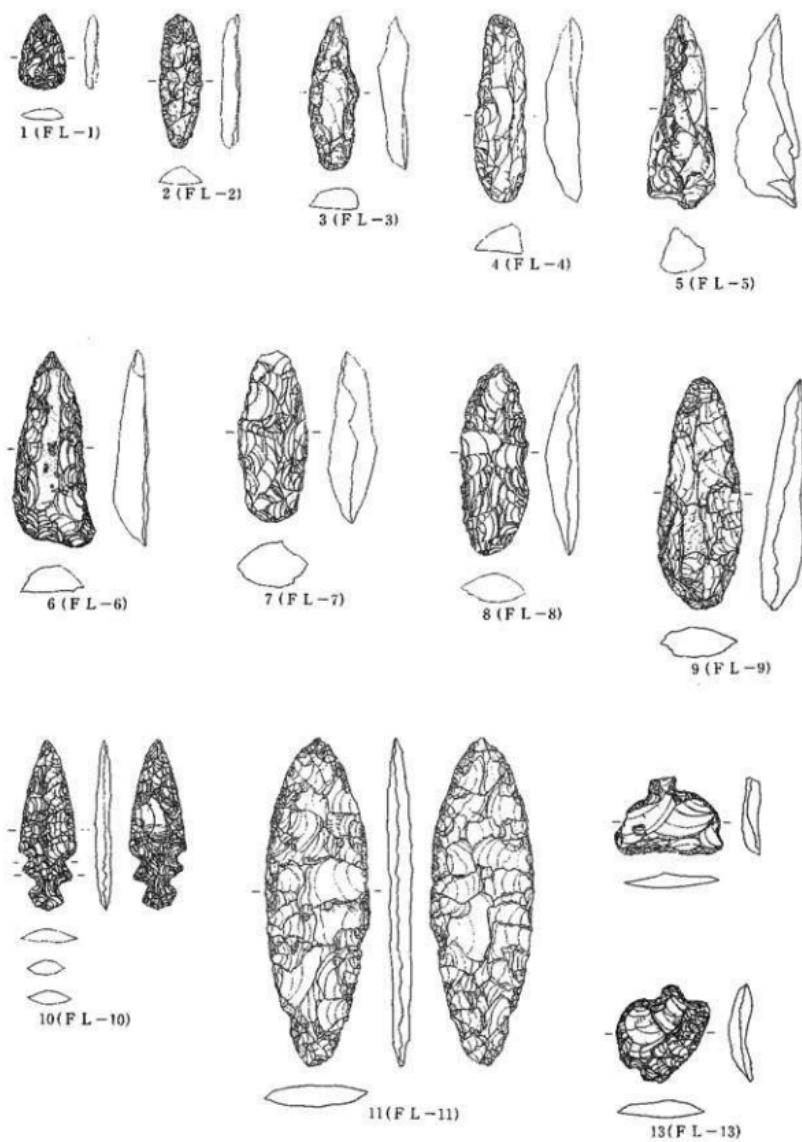
第388図 平坦面出土土器（1）



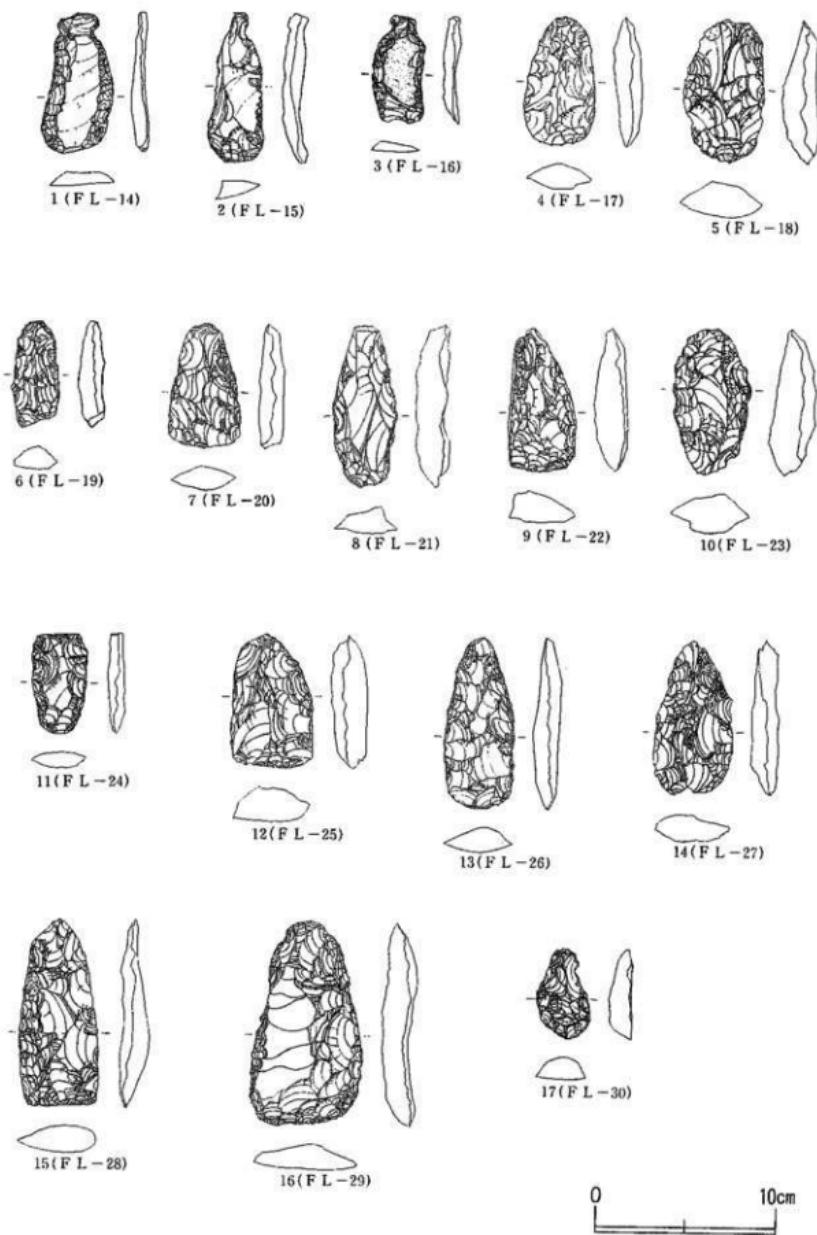
第389図 平坦面出土土器（2）



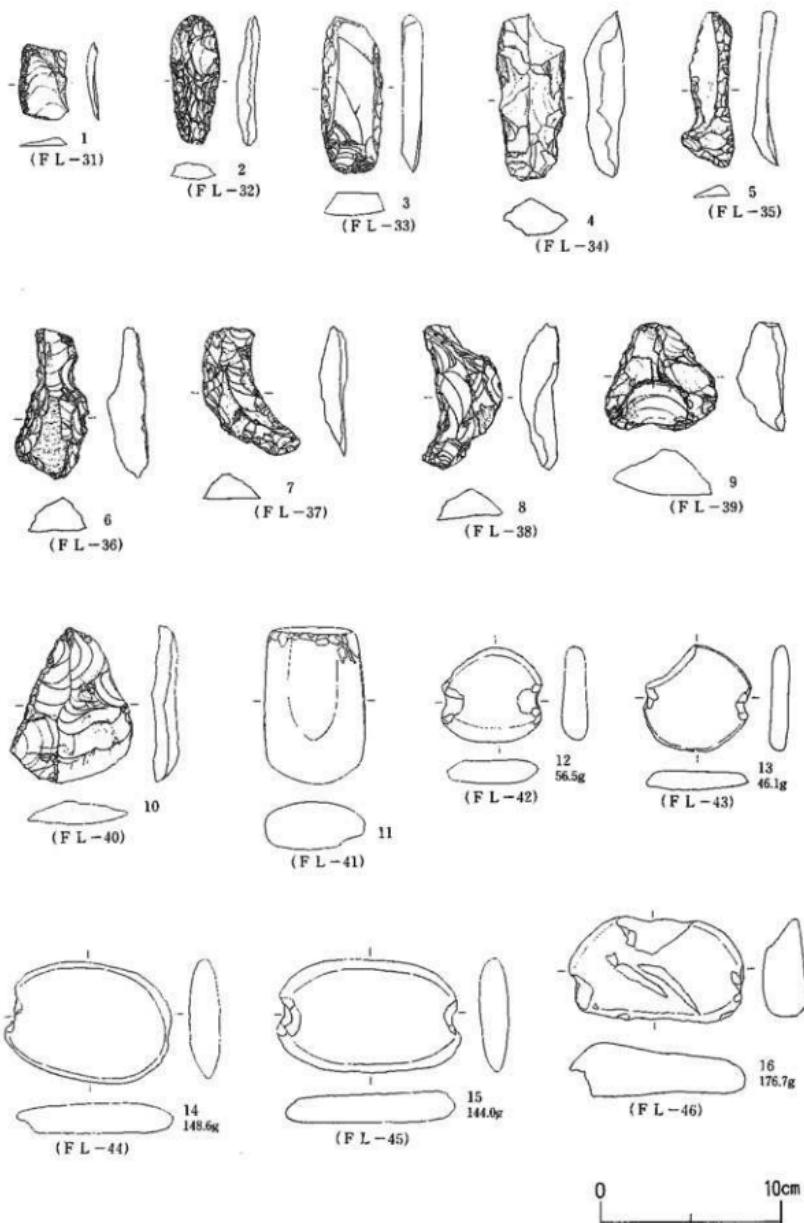
第390図 平坦面出土土器(3)



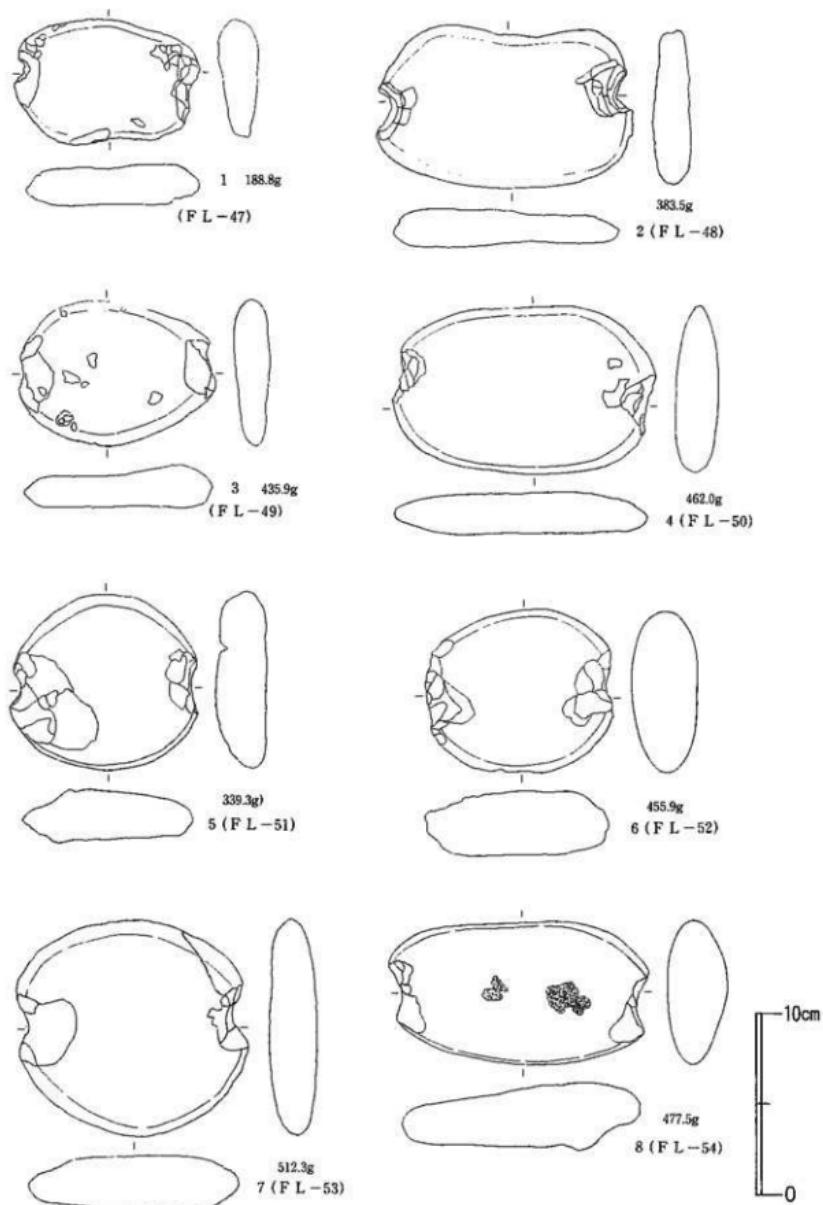
第391図 平坦面I層出土石器(1)



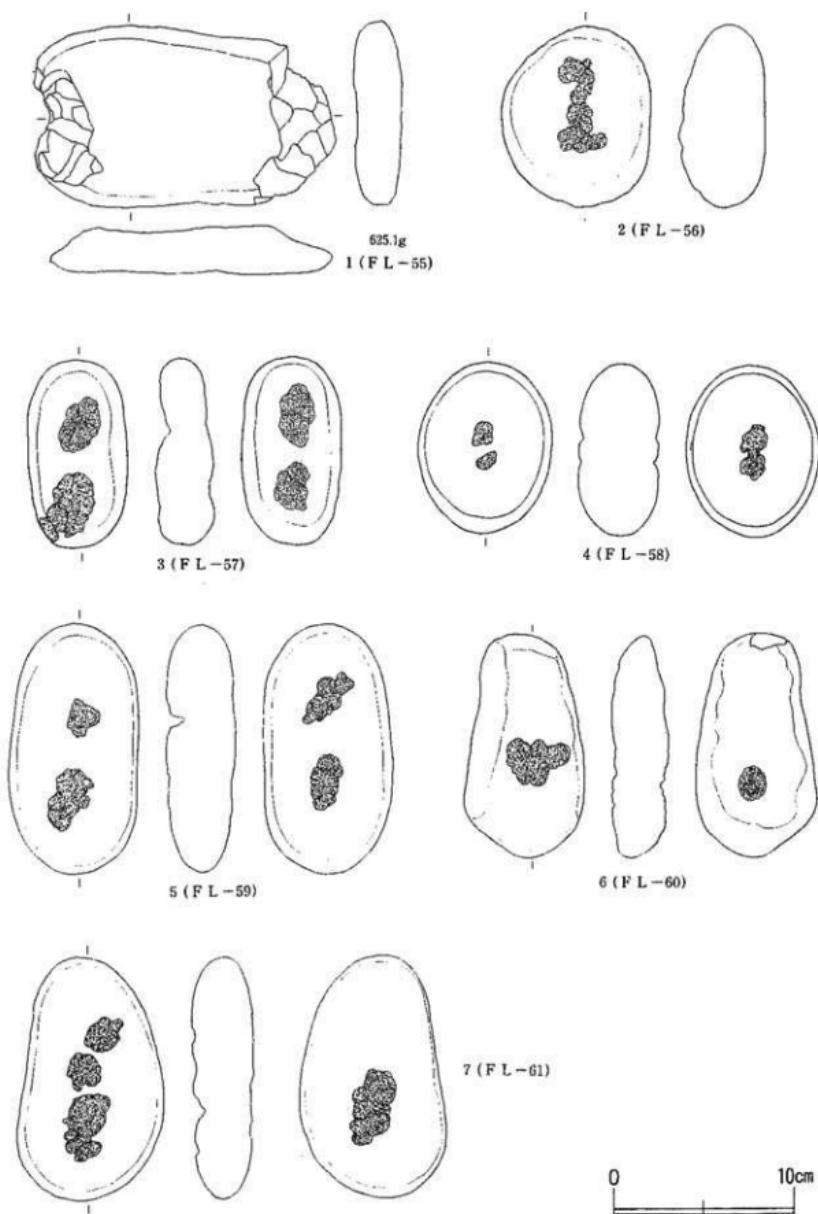
第392図 平坦面I層出土石器(2)



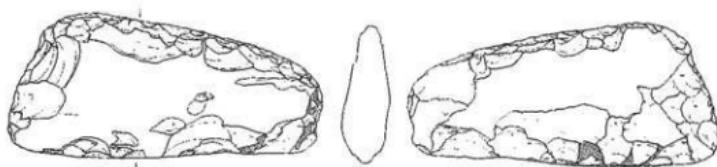
第393図 平坦面I層出土石器(3)



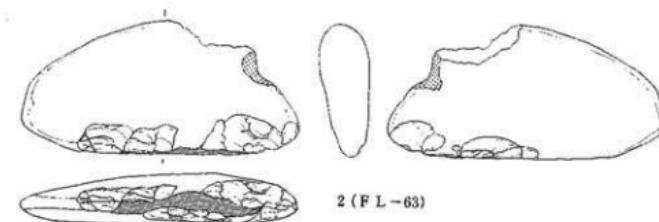
第394図 平坦面I層出土石器(4)



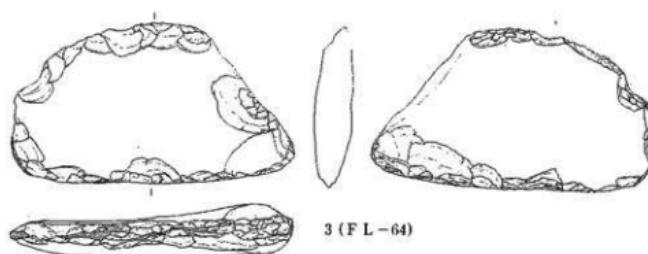
第395図 平坦面I層出土石器 (5)



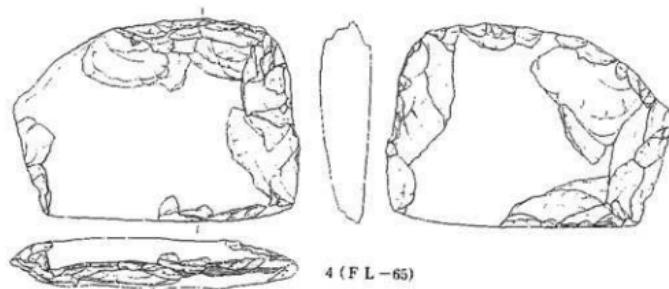
1 (F L - 62)



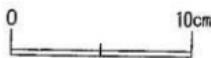
2 (F L - 63)



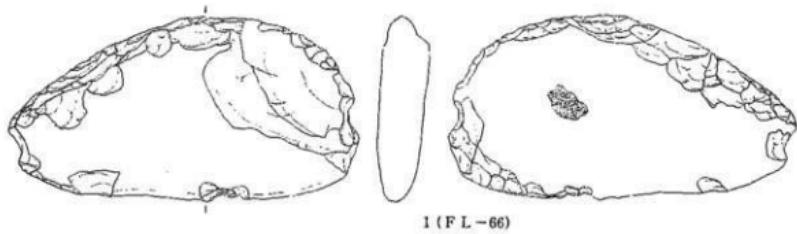
3 (F L - 64)



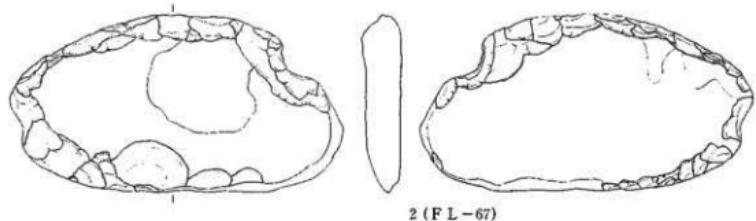
4 (F L - 65)



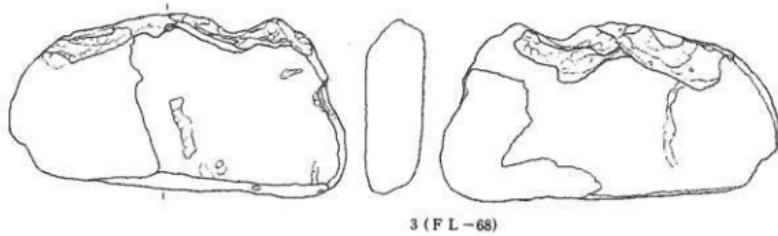
第396図 平坦面I層出土石器 (6)



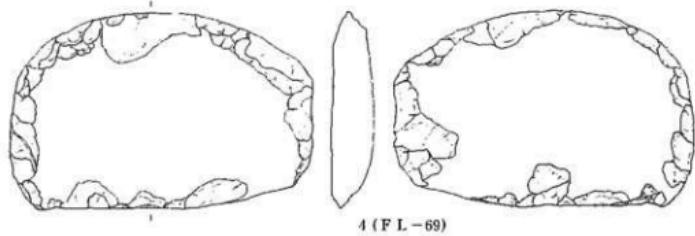
1 (FL-66)



2 (FL-67)



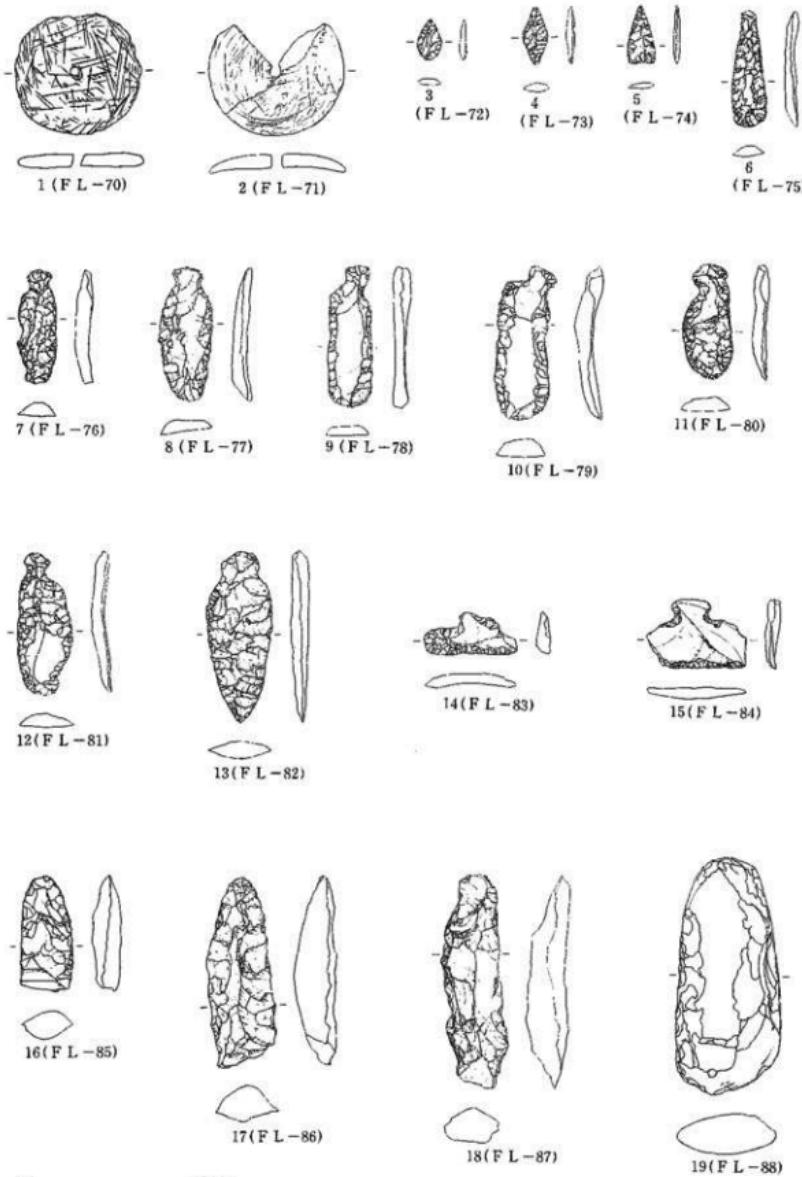
3 (FL-68)



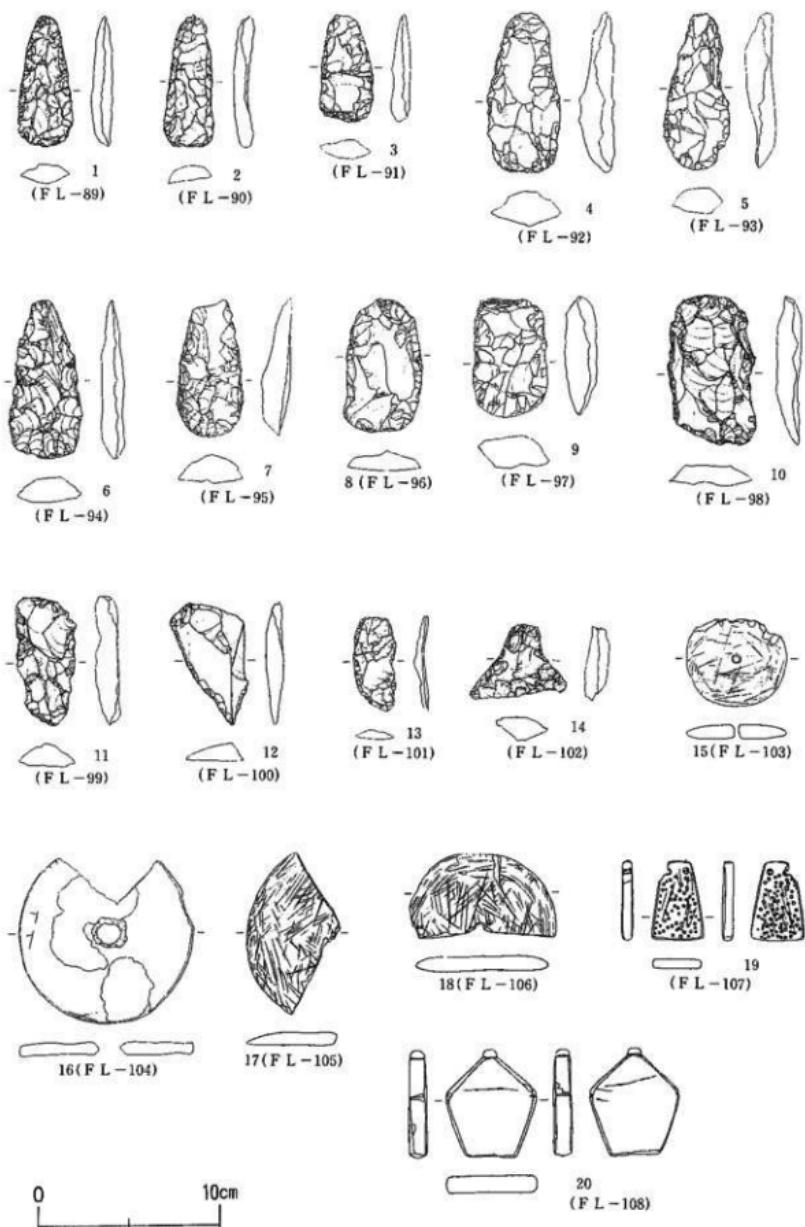
4 (FL-69)



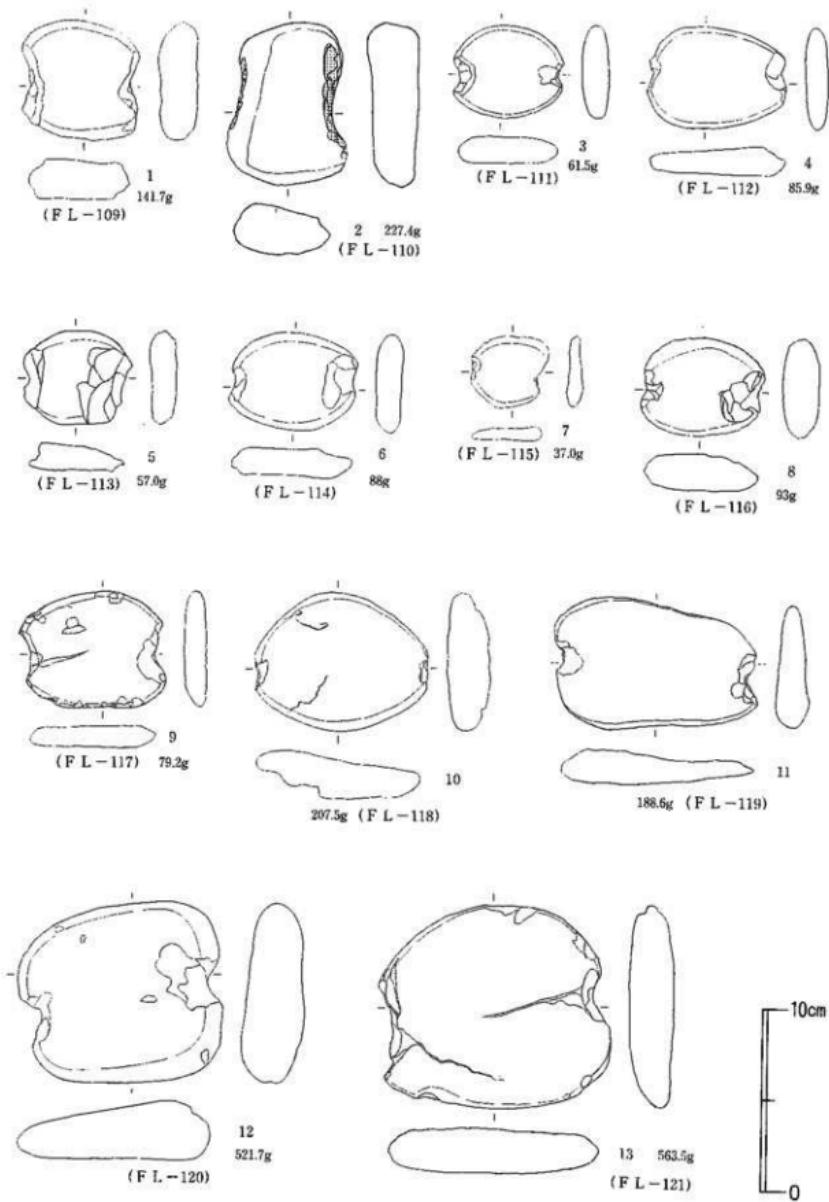
第397図 平坦面Ⅰ層出土石器 (7)



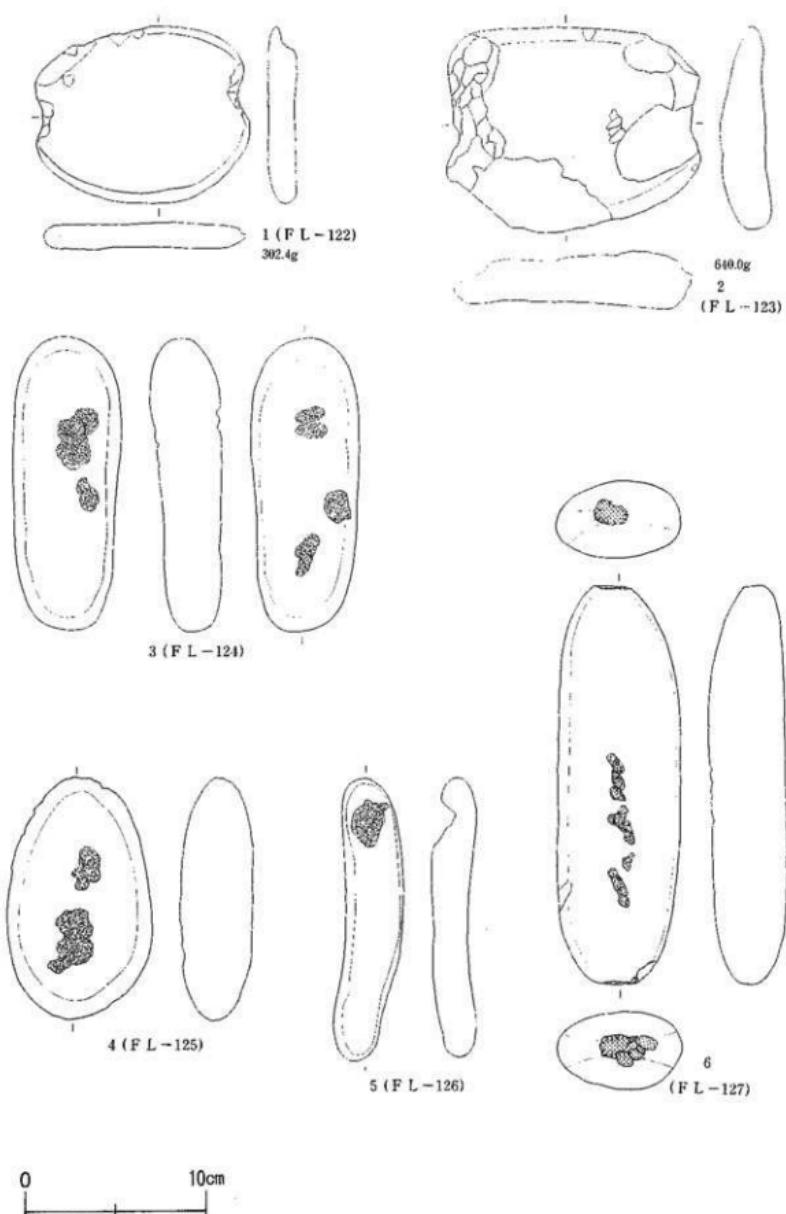
第398図 平坦面I層・II層出土石器(1)



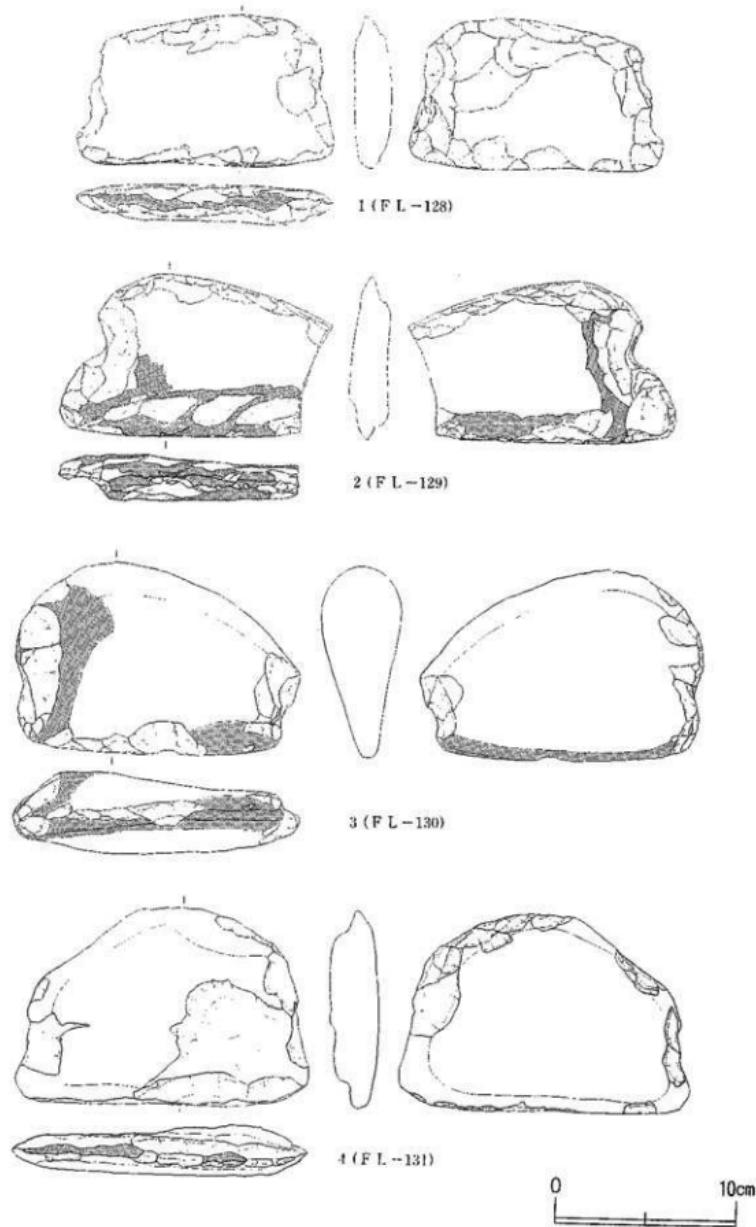
第399図 平坦面Ⅱ層出土石器（2）



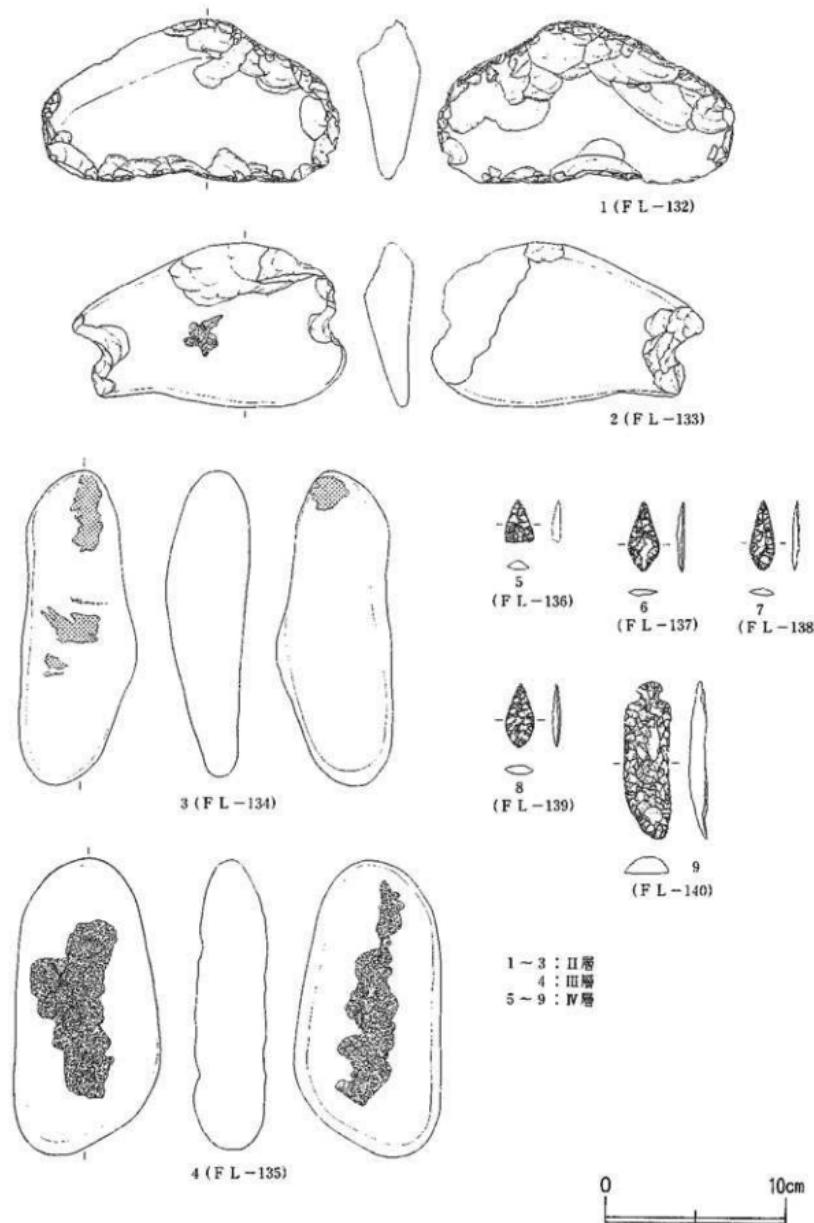
第400図 平坦面II層出土石器（3）



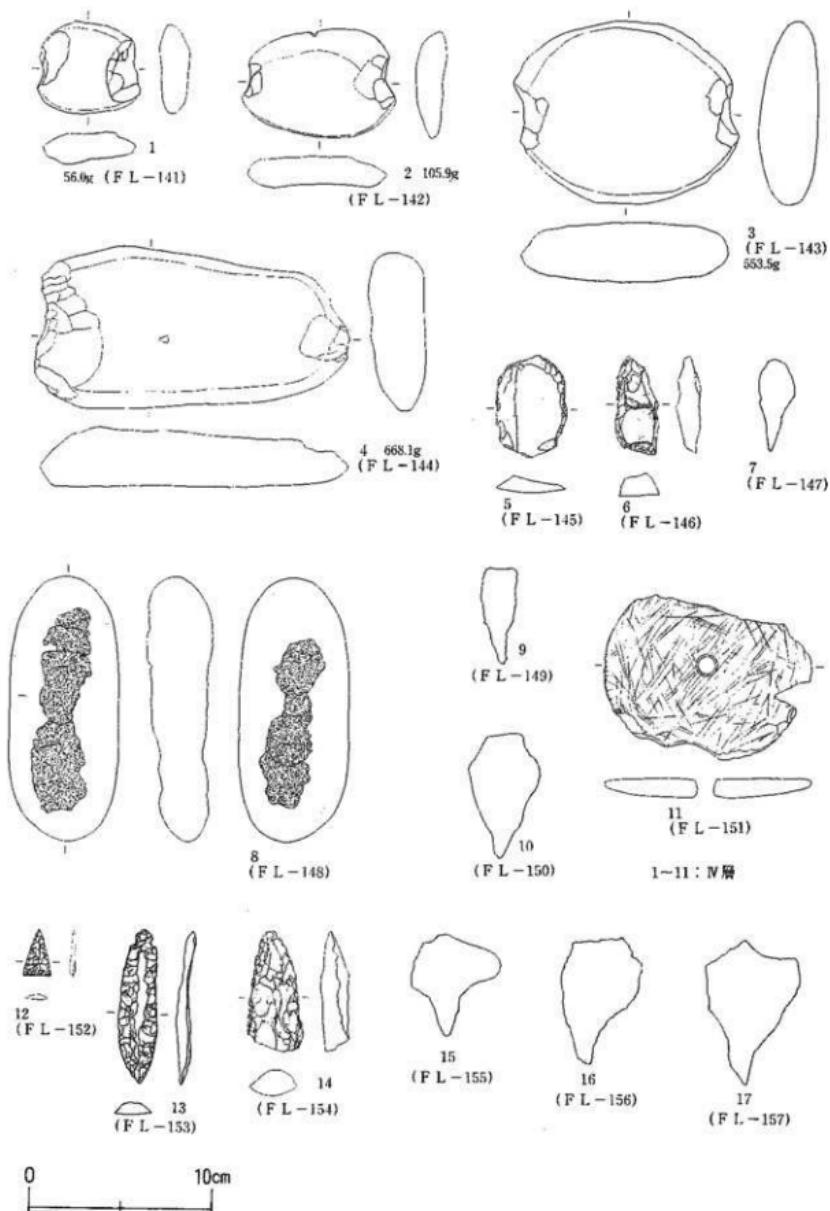
第401図 平坦面Ⅱ層出土石器 (4)



第402図 平坦面II層出土石器（5）



第403図 平坦面II層～IV層出土石器



第404図 平坦面N層・V層出土石器

## 第7章 捨て場とその出土遺物

### 第1節 捨て場の概要

池内遺跡の立地する台地は、最大150m、最小40m、平均120mの幅をもち、北東から南西に200mの長さで米代川右岸の沖積地に臨む。台地上面は、北東側から南西側に1.2~1.5m傾斜しているが、肉眼ではほぼ平坦な広がりと感じる。

北東側を除く北西側、南西側、南東側の三面に急傾斜の斜面が存在する。北西側は河岸段丘が開析されてできた上幅26~40m、深さ約6m、底幅4~10mの大きな谷状地形となっており、谷を挟んだ通称萩ノ台の台地上には縄文時代前期から後期にかけての集落跡である萩ノ台Ⅱ遺跡が所在し、谷の斜面には捨て場が形成されている。米代川沖積地に9~10mの比高差をもって臨む南西側は、米代川の氾濫を主原因とすると思われる崩落により、60~80度の急傾斜崖となっている。この南西側では北東に伸び、谷頭が東側に屈曲する谷が1カ所(ST156谷)形成されている。沖積地と6~12mの比高差をもつ南東側斜面には、開析谷が西寄り(ST639谷)、中央(ST396・504谷-ST505谷-ST528谷-ST529谷)、東寄り(ST1301谷-ST1302谷-ST1303谷-ST1304谷-ST1305谷)の計3カ所に形成され、谷頭が西寄りでは東側に屈曲、中央では又状、東寄りでは四又状に分岐している。

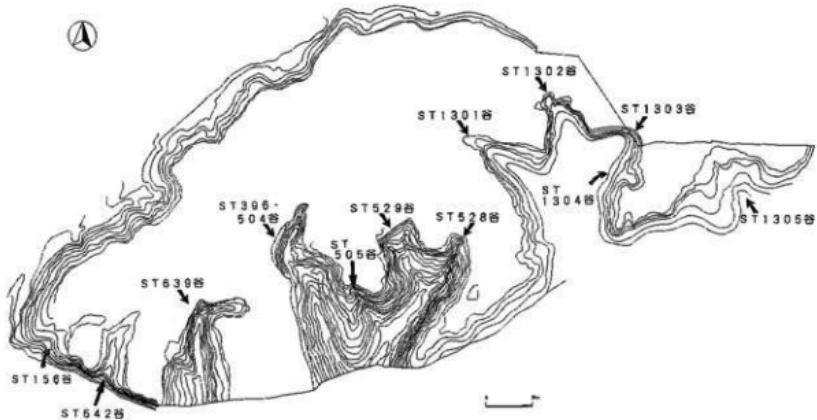


第405図 捨て場配置図

調査の過程で、南西側の急傾斜崖の上部に2つの隠れ谷を、南東側斜面でも小さな隠れ谷を発見し、最終的に12の谷（ST156谷、ST396・504谷、ST505谷、ST528谷、ST529谷、ST639谷、ST642谷、ST1301谷、ST1302谷、ST1303谷、ST1304谷、ST1305谷）を発見・調査し、谷番号を付した。

調査年度で番号を付しており、ST396谷とST504谷が同一の谷と確認した段階でそれまでの実測図面や遺物の取り上げ番号等を、変更することが困難であったため、ST396・504谷という連結した番号で呼称している。

このうち、遺物が大量に出土した谷は、南西側で2カ所（ST156谷、ST639谷）、南東側で2カ所（ST396・504谷、ST505谷）の計4カ所であった。また、遺物が大量に出土した斜面は、北西側の1カ所のみであった。（第405図）



第406図 各配置図

## 第2節 発掘調査の方法

現地形で確認できる谷については、谷頭から谷尻へ上幅の真ん中を通るように縦の基線を設定し、その基線に沿って1～2m幅のトレンチを設定することにした。この基線に直交するように横方向の基線を、地形と調査区の広さを考慮して任意に1～数本設定し、同じようにトレンチを設定した。現地形で谷頭と観察したもの、調査が進みさらに延びる場合はその方向に合わせて延長することにした。

地表面からの深さが2mを超えて底面が確認できない場合は、「秋田県埋蔵文化財センター発掘調査安全基準」と「労働安全衛生法」の規定に違反しないよう、その深さまでの土層断面を記録し、そのレベルまでの堆積土を排除するか、トレンチの一方の壁面を1～2m幅で残して土層観察用ベルトとし、その両側を谷斜面に合わせて全面排土する方法を探った。

遺物が出土した場合は、写真撮影後に各グリッド毎に遺物番号を付して平面図に記入（形をそのま



写真3 平成6年夏の調査状況



写真4 平成6年秋の調査終了時（十字ベルト部分がST639谷）

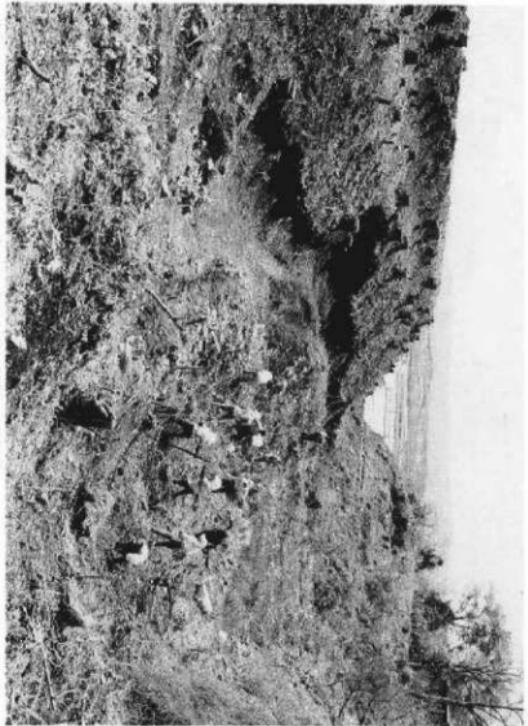


写真 5 北西斜面捨て場調査前現況（写真右側が萩ノ台Ⅱ道路）

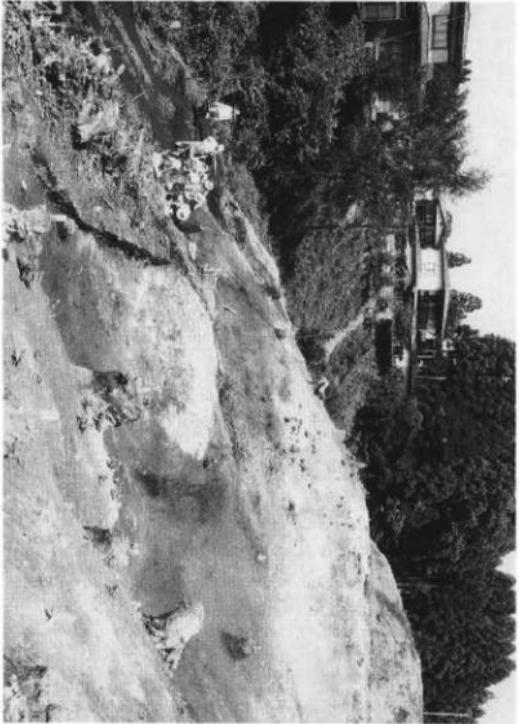


写真 6 北西斜面捨て場の地図り現

ま記録した場合と、その遺物の中心位置をドットで表現した場合があった) し、標高レベルと出土層位を計測した。

遺物の収納方法は、破片等はグリッドと層位で一括し、遺物番号を付した完形品および復元可能なものはそれぞれ一袋にまとめるようにした。

プラン確認段階で発見した離れ谷についても上記の方法を踏襲することにしたが、斜面の堆積土か谷を埋没させた土かの判断が遅れてしまい、土層観察用ベルトが設定できない場合があった。

斜面には、土層観察用のベルトを随時設定し調査することにした。遺物が出土した場合は、各グリッド毎に層位で一括し、遺物番号を付した完形品および復元可能なものはそれぞれ一袋にまとめるようにした。

### 第3節 北西斜面の捨て場

#### (1) 概要と土層堆積状況

萩の台地と上野台地を区画する大きな谷の左岸にあたる斜面、MQ75・76、MR74~76、MS70~76、MT70~76、NA68~75、NB67~74、NC66~72、ND65~73、NE65~71、MF66~72、MG66~72の各グリッドにまたがる範囲に土器、石器等が大量に出土した。

この斜面部分は、現状地形の観察や試掘調査のトレンチでも、地滑りがあったのではないかと思われていた箇所である。この地区の斜面上方の平坦面地山の縁辺には、同心円状のクラックが多数確認され、地滑りがあったことがうかがわれた。

斜面に2本の土層観察用のベルトを設定し掘り下げるに、台地斜面の地山土の上位に漸移層を挟んで黒色土→黒褐色土の遺物包含層が堆積し、その上方に褐色土層が堆積していた。褐色土層には炭化物が多量に混入しており台地上方の平坦面から投げ捨てられた土が堆積したものと観察した。この投棄行為は、縄文時代の竪穴住居跡やフ拉斯コ状土坑などを構築した際に排出したり、日常生活における残土や残滓等の廃棄が主因と思われたが、地山における地形観察から、地滑り自体はこれらの投棄行為が行われる前に既に起こっており、遺物包含層上に堆積した日常生活における残土や残滓等の堆積土が、谷底を流れる水力による開析作用の結果としての自然營力による亀裂・崩落、地滑りが繰り返し起きていたことも推察された。

#### (2) 表土層から出土した遺物

表土層は、厚く堆積していたが搅乱されていたことが判明している。

① 土器 復元できた土器は4個体である。低い波状口縁を呈し、羽状縄文が全面に施文された土器 (NW-1)。口縁部に縄文を押捺し、以下に細かな羽状縄文が施文された土器 (NW-2)。口縁部に縄文を押捺し、以下に撚糸文を施文した土器 (NW-3)。縄文地文に横走する平行沈線を施文した土器 (NW-4) である。

② 石器 石匙5点と箆状石器1点、削器4点、剥片石器2点の12点が出土した。

#### (3) 0層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は11点 (NW-5~15) である。頸部に区画帯を設け、幅広な口縁部文様帯をもつ土器 (NW-5~7・10)。頸部に区画帯を設けるが、縄文を押捺する幅の狭い口縁部文

様帶をもつ土器（NW-11～15）である。

② 石器 石槍1点（NW-150）、石錐2点、石匙14点、箆状石器5点（NW-151～155）、削器35点、搔器12点、剥片石器8点、磨製石斧3点、石錘8点（NW-156～160）、半円状扁平打製石器32点（NW-161～165）、くぼみ石3点、擦石1点、石皿2点の126点が出土した。

③ 石製品等 刻線礫2点と軟質礫3点、自然礫に穴の開いた有孔石3点が出土した。

#### （4）第Ⅰ層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は104点（NW-16～120）である。バケツ形を呈し、口縁部に綾絡文を施した土器（NW-16～22）。全面同一文様の土器（NW-23～24・26）。バケツ形あるいはスマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口縁部と胴部中半下位に不整な綾絡文を施した土器（NW-27～32）。スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口縁部に綾絡文を施した土器（NW-33～36）。ボリューム感のある逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口縁部と胴部下半に多段の不整な綾絡文を施した土器（NW-37）。スマートなバケツ形を呈し、口縁部に綾絡文を施した土器（NW-41～45・49・50）。全面同一文様の土器（NW-38～40・46～48）。スマートなバケツ形を呈し、口縁部と胴部下半に不整な綾絡文を施した土器（NW-50～55）。頸部に指頭圧痕あるいは爪形文で飾った隆帯を巡らし、口縁部文様帶を区画する土器（NW-58～67・69）。爪形文で飾った隆帯の上下に押捺繩文を施した土器（NW-68・70～73）。繩の圧痕で飾った隆帯で口縁部と胴部を区画した土器（NW-74～80）。79の口縁部には繩文押捺による不整な鋸歯文（連続山形文）が付加施文されている。施文文様の違いで口縁部と胴部を区画した土器（NW-81～83）。頸部に繩文を押捺して口縁部と胴部を区画した土器（NW-84～86）。繩文を頸部に一巡させ、口辺からも繩文を垂下させた土器（NW-87～89）。頸部に複数条の繩文を押捺して口縁部と胴部を区画した土器（NW-89～98）。隆帯に竹管刺突した土器（NW-99）。口縁部に横走する撚糸文を施したあと、複数条1単位の繩文を垂下させた土器（NW-100・101・108）。口縁部に撚糸文を施し、頸部に繩文あるいは撚糸文を押捺した土器（NW-102～107）。口縁部に複数の繩文を平行に押捺した土器（NW-109～111）。口縁部に複数の繩文を平行に押捺したあと鋸歯（連続山形）状に押捺した土器（NW-112～114）。口縁部に網目状撚糸文を施した土器（NW-115）。狭い口縁部をもち胴部に木目状撚糸文を施した土器（NW-116～117・119）。すん胴な器形を呈し狭い口縁部をもち胴部に細かい羽状繩文を施した土器（NW-118）。球形に近い胴部を呈し結節のある羽状繩文を縱方向に施した土器（NW-120）がある。

② 石器 石鎌1点、石槍21点（NW-166～185・199）、石錐7点、石匙88点（NW-186～198）、箆状石器27点（NW-200～210・212～226）、トランシェ様石器1点（NW-211）、削器185点、搔器42点、剥片石器54点、磨製石斧23点、石錘26点（NW-227～253）、半円状扁平打製石器114点（NW-254～262）、くぼみ石17点、擦石10点、石皿10点、敲石1点の626点が出土した。

③ 石製品等 浮子3点と刻線礫2点、軟質礫4点、自然礫に穴の開いた有孔石2点、円盤状石製品1点が出土した。

#### （5）第Ⅱ層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は21点（NW-121～142）である。バケツ形あるいは胴膨らみなボトム風の形を呈し、口縁部に綾絡文を施した土器（NW-121・123・124）。バケツ形を呈し、口縁部と

胸部下部に不整な綾絡文を施した土器（NW-122）。スリムなバケツ形あるいはやや胴膨らみなボトム風の形を呈し、口縁部に綾絡文を施した土器（NW-125・126）。スリムでやや胴膨らみなボトム風の形を呈し、頸部に隆帯を巡らし全面撚糸文を施した土器（NW-127）。頸部に指頭圧痕で飾った2条の隆帯を巡らし、上下の隆帯を2本1単位の垂下する隆帯で連結させた土器（NW-128）。爪形文で飾った隆帯を巡らし、その上下にも爪形文を施した土器（NW-129・130）。スリムでやや胴膨らみなボトム風の形を呈し、胸部上半に羽状繩文を施した土器（NW-131～133）。スリムなボトム風の形を呈し、頸部に複数条の横走繩文を押捺して口縁部と胸部を区画した土器（NW-134・135）。口縁部に羽状繩文、胸部に多軸絡条体圧痕文を施した土器（NW-136）。口縁部に複数条の横走繩文を押捺し2本1単位の垂下する繩文を押捺した土器（NW-137）。頸部がすばまり口縁部が大きく外反する器形を呈し胸部に木目状撚糸文を施した土器（NW-138）。胸部に木目状撚糸文を施した土器（NW-139）。胸部に付加条の羽状繩文あるいは撚糸文を施した土器（NW-140・141）。胸部に羽状繩文を施した土器（NW-142）がある。

② 石器 石鏃1点、石槍9点（NW-263～270）、石錐1点、石匙30点（NW-271～275）、箆状石器3点（NW-276～278）、削器64点、搔器20点、剥片石器9点、磨製石斧6点、石錘8点（NW-279～286）、半円状扁平打製石器35点、くぼみ石7点、擦石4点、石皿4点の201点が出土した。

③ 石製品等 浮子5点と刻線繩1点、軟質繩1点、自然繩に穴の開いた有孔石2点が出土した。

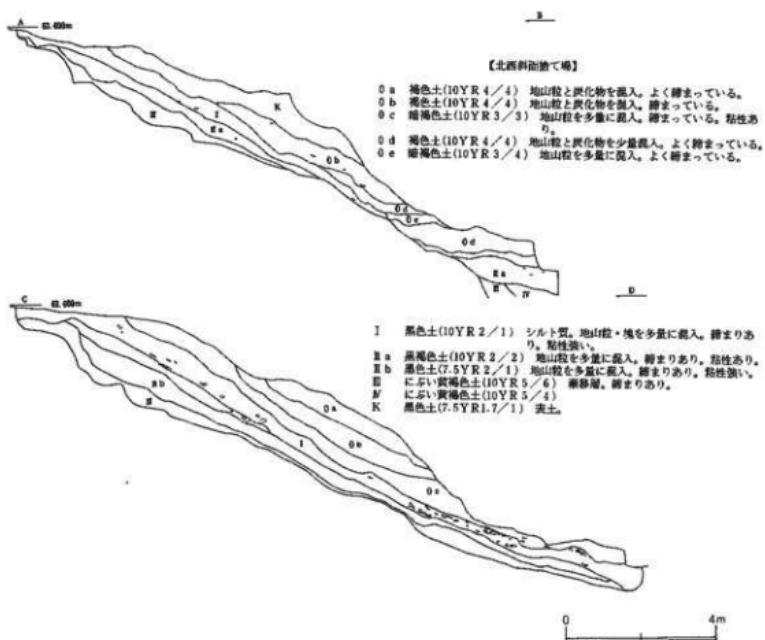
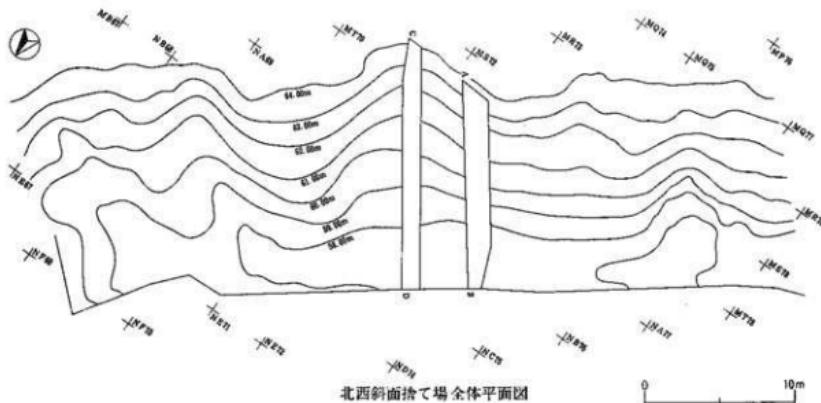
#### （6）第Ⅲ層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は7点（NW-143～149）である。バケツ形あるいは胴のやや膨らむバケツ形を呈し、口縁部に綾絡文を施した土器（NW-143・144）。スリムでやや胴膨らみなボトム風の形を呈し、頸部に爪形文で飾った隆帯を2条巡らし、その上下にも爪形文を施した土器（NW-145）。胸部に条を係締した单軸絡条体圧痕文を施した土器（NW-146）。胴がやや膨らみ、口縁部が外反する形を呈し、頸部に指頭圧痕で飾った隆帯を巡らした土器（NW-147）。胸部に多軸絡条体圧痕文を施した土器（NW-148）。幅広な口縁部に複数条単位の繩文を鋸歯（連続山形）状に位置を換えて2度押捺し菱形文を作出した土器（NW-149）がある。

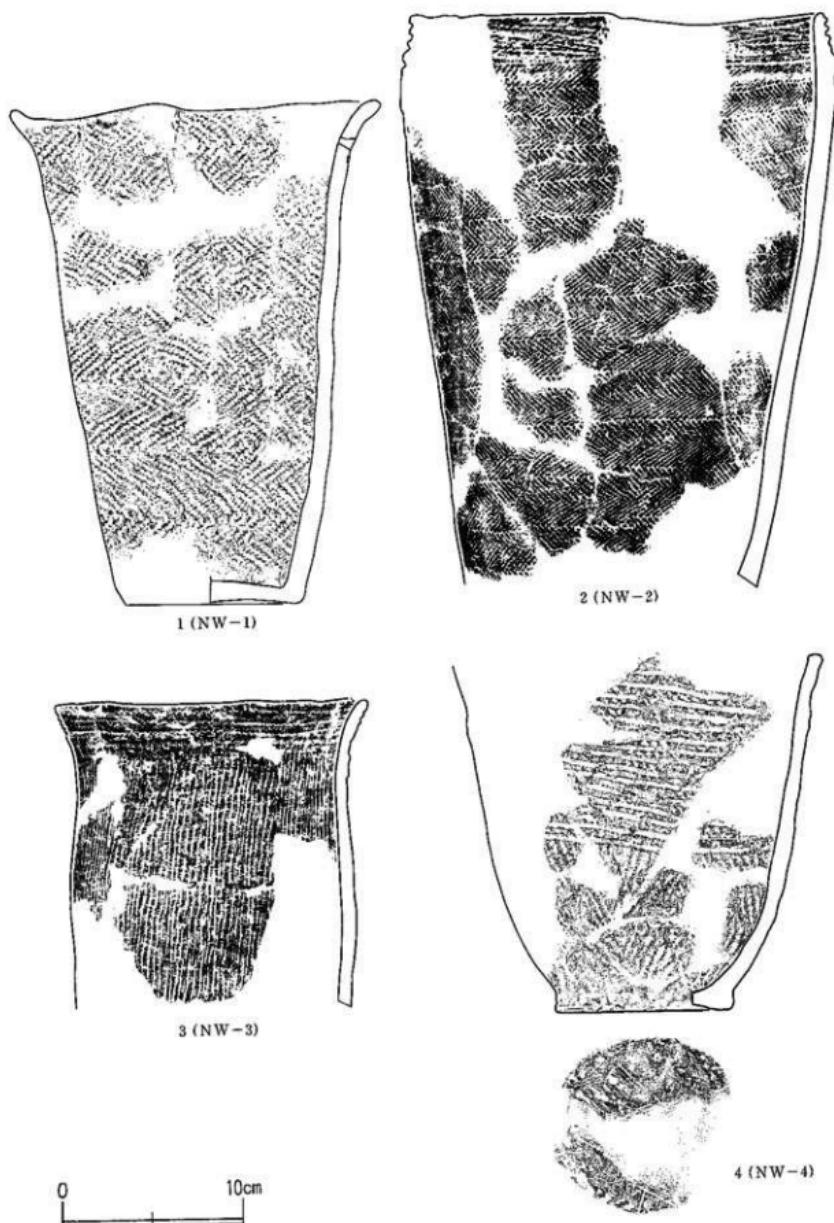
② 石器 石槍1点（NW-287）、石錐1点、石匙4点、箆状石器2点（NW-288）、削器11点、搔器2点（NW-289・290）、剥片石器3点、半円状扁平打製石器2点、くぼみ石1点の27点が出土した。石製品等は出土しなかった。

#### （5）その他の出土遺物

出土層位が明確ではないが、石槍1点（NW-291）、箆状石器3点（NW-292～294）、石匙8点（NW-295・296）、削器10点、搔器2点、剥片石器5点、磨製石斧5点、石錘3点（NW-297～299）、半円状扁平打製石器21点（NW-303）、くぼみ石9点（NW-299～302）、擦石1点、石皿8点の76点が出土した。また、石製品として円盤状石製品1点（NW-304）、抉状耳飾りの未完成品1点（NW-305）が出土した。

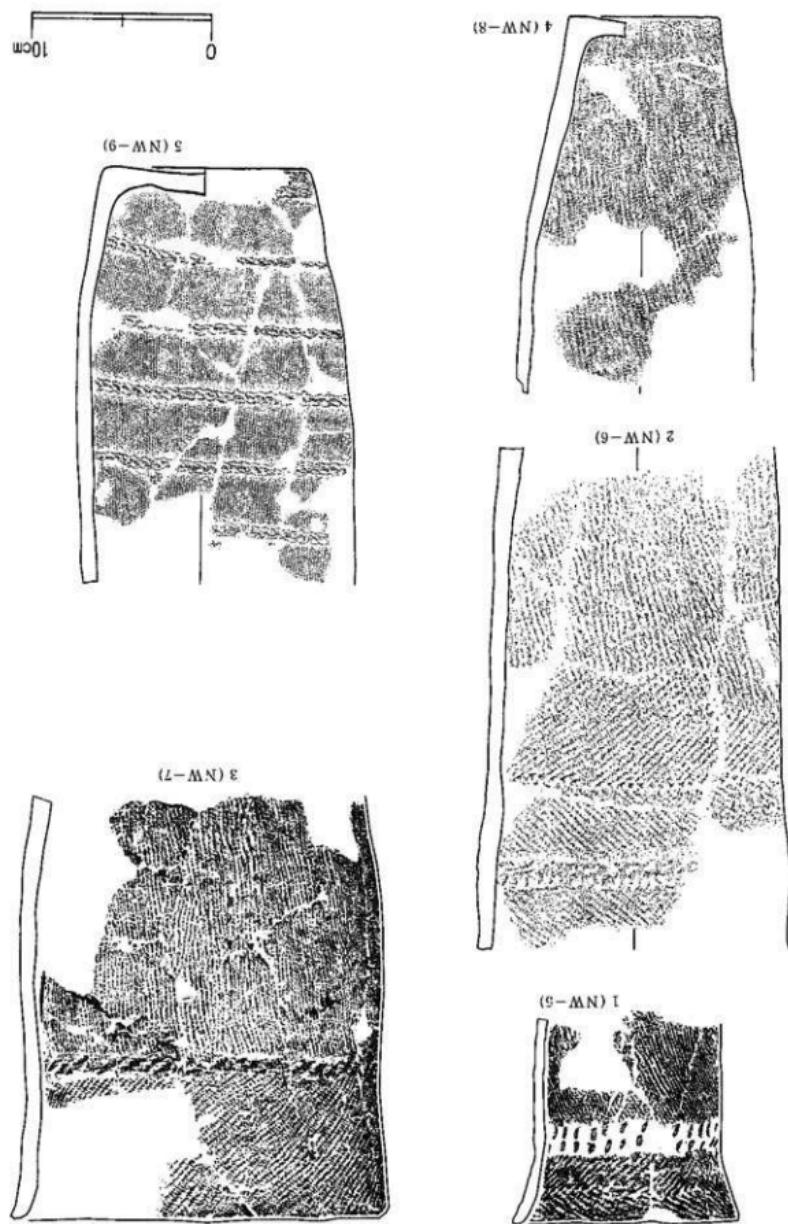


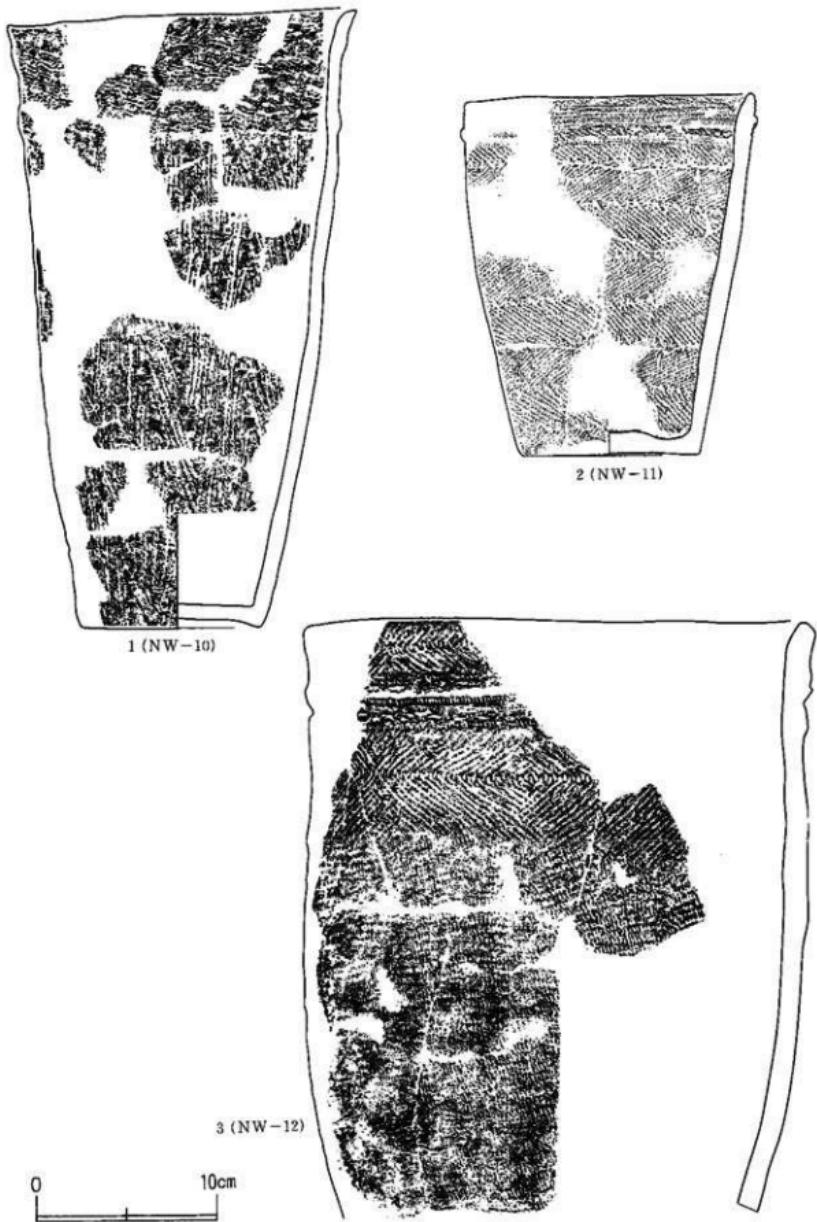
第407図 北西斜面捨て場土壠断面図



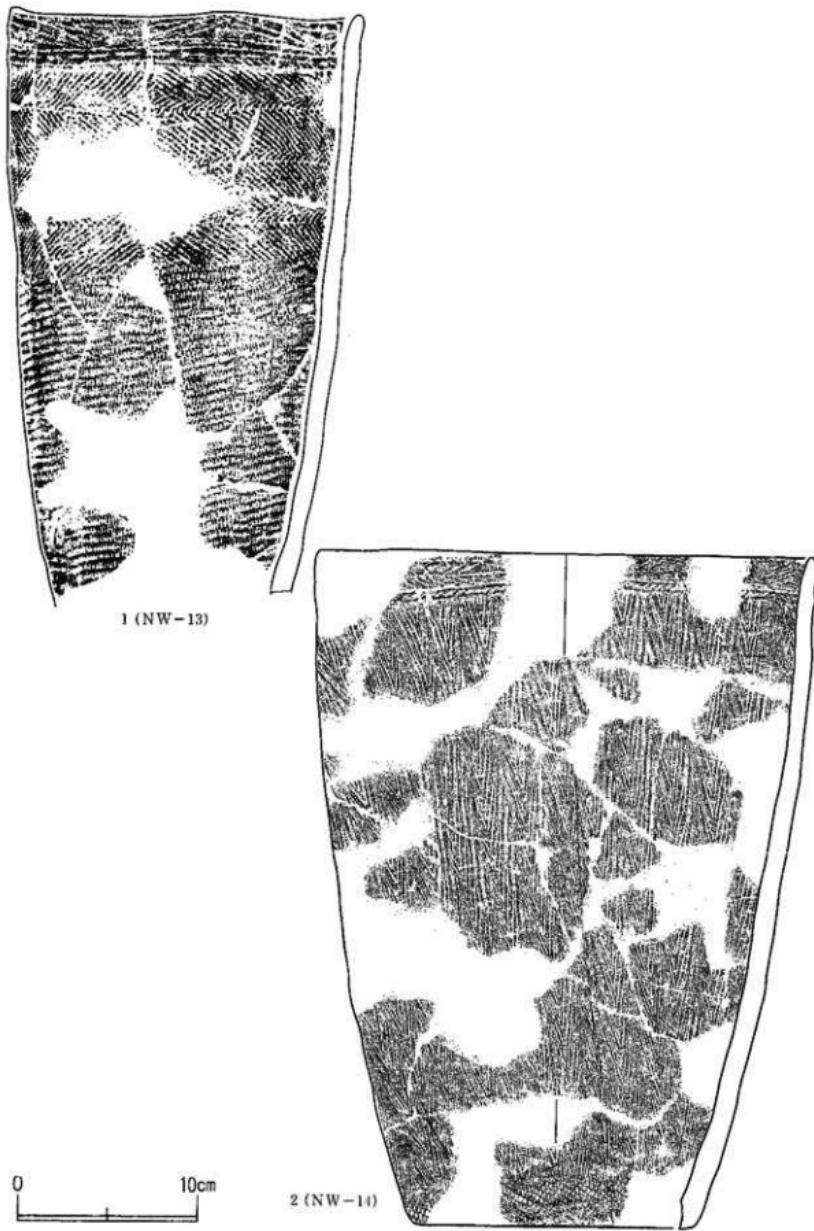
第408図 北西斜面捨て場表土層出土土器

第409圖 北西斜面捨て場の出土土器 (1)

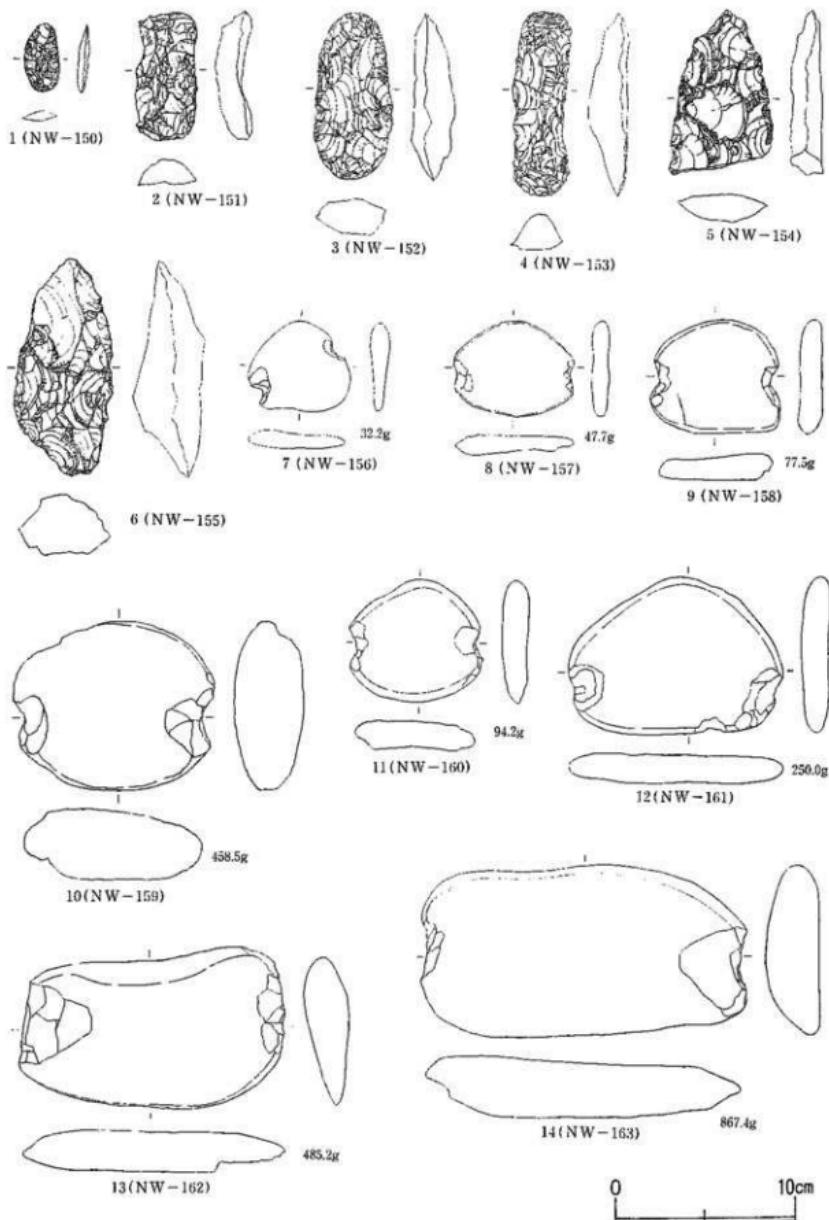




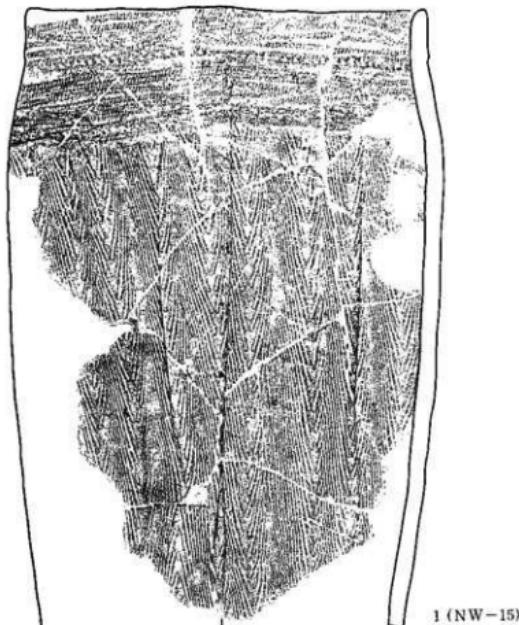
第410図 北西斜面捨て場 0層出土土器 (2)



第411図 北西斜面捨て場 0層出土土器（3）



第412図 北西斜面捨て場 0層出土石器（1）



1 (NW-15)



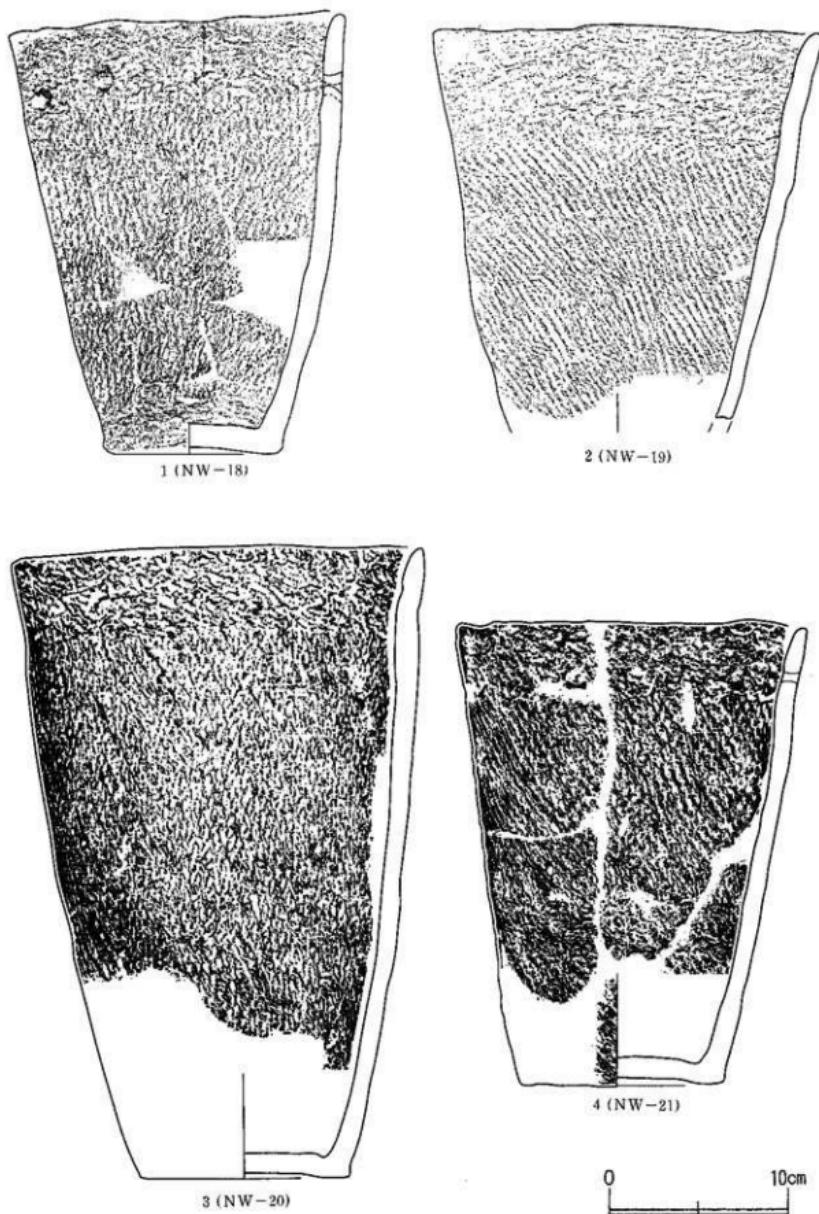
2 (NW-16)



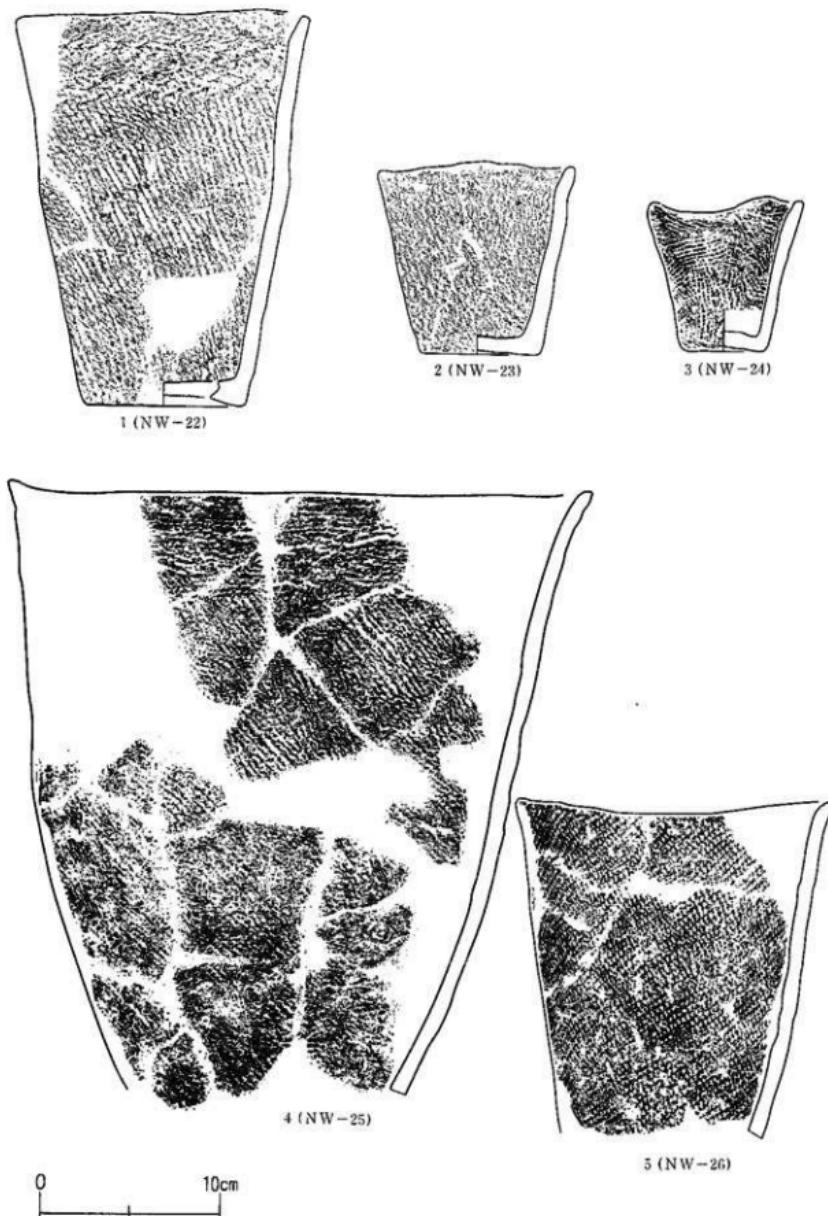
3 (NW-17)



第413図 北西斜面捨て場 0層・I層出土土器 (1)

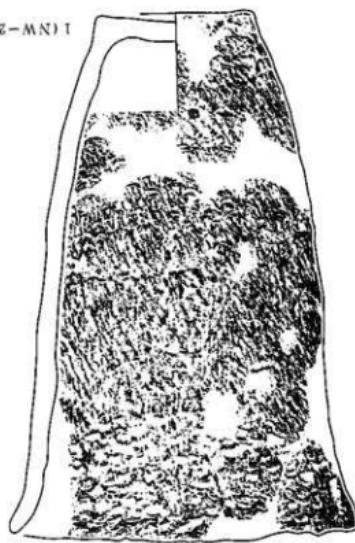
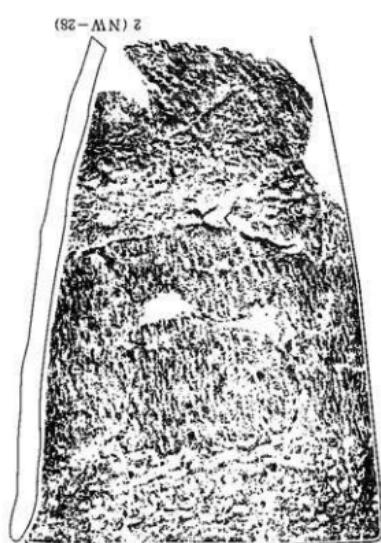
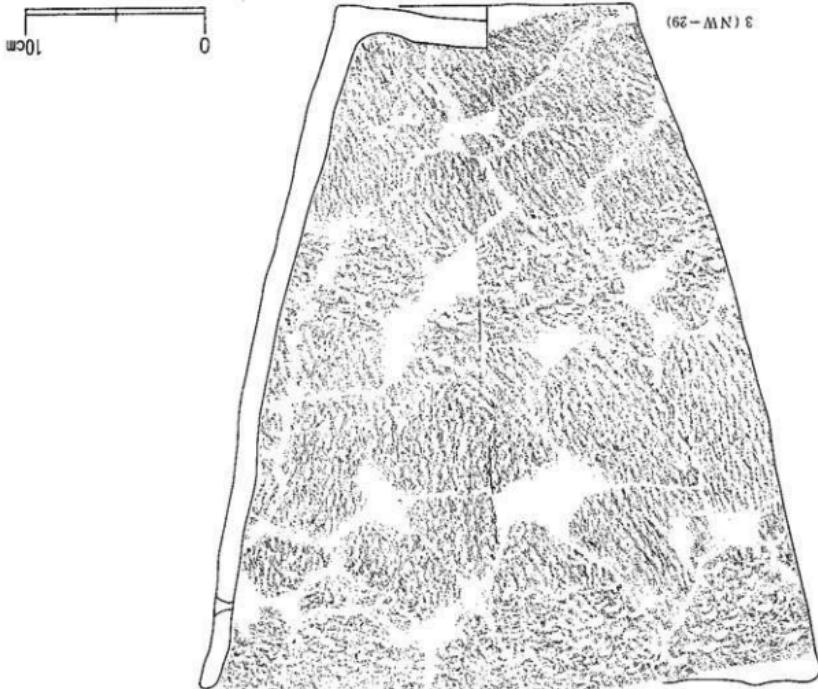


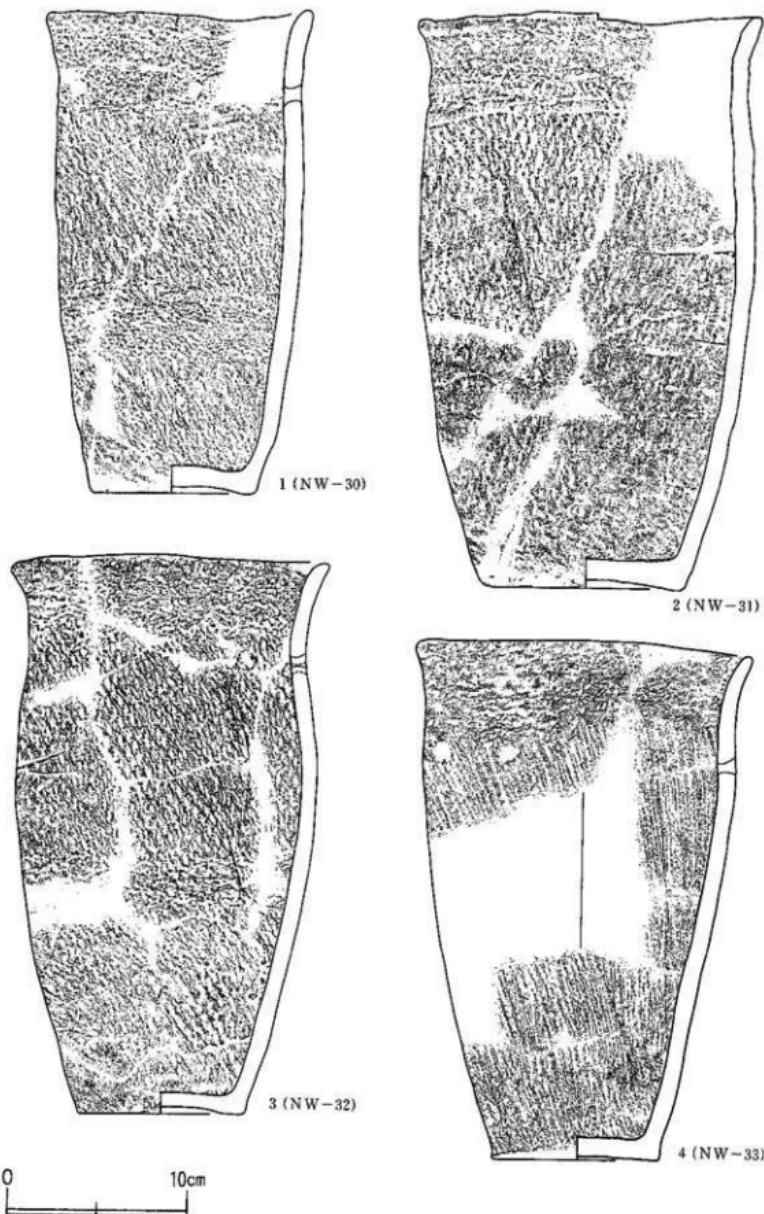
第414図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (2)



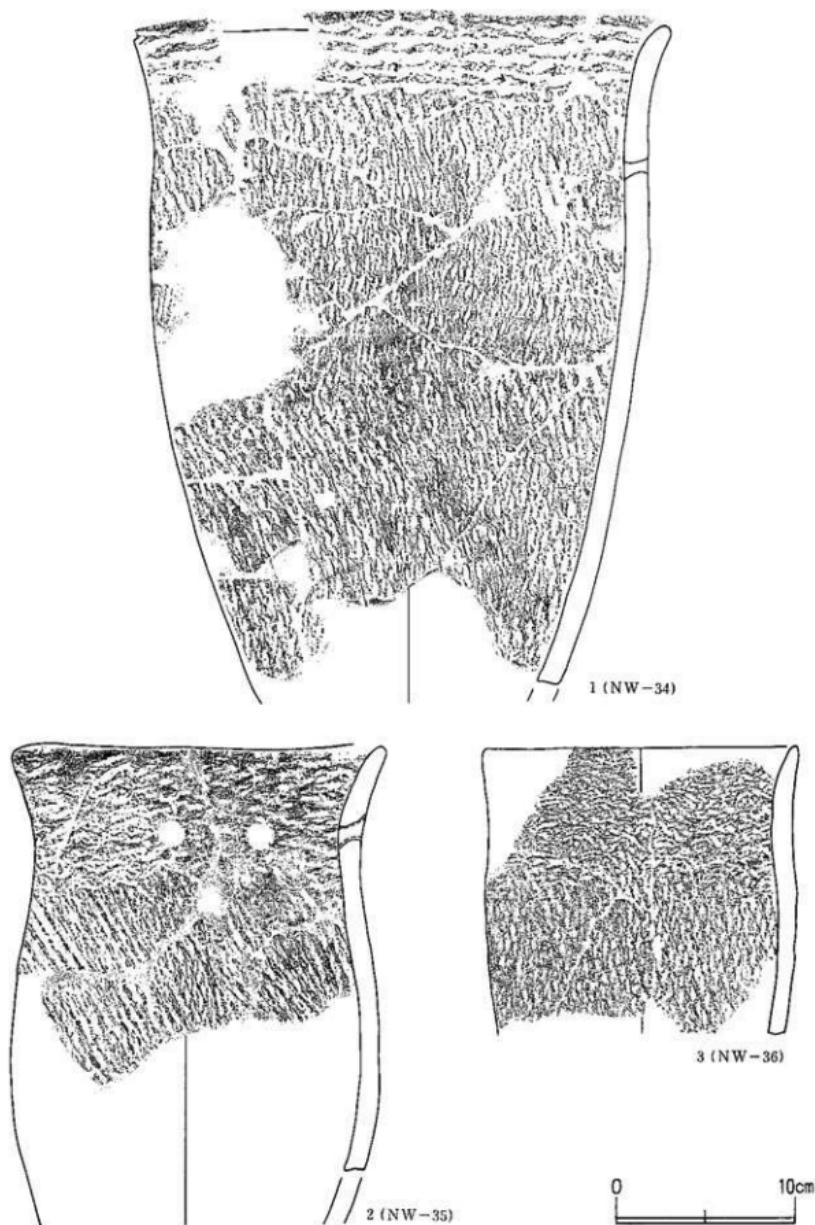
第415図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (3)

第416圖 北西斜面積土器 I 期出土土器 (4)

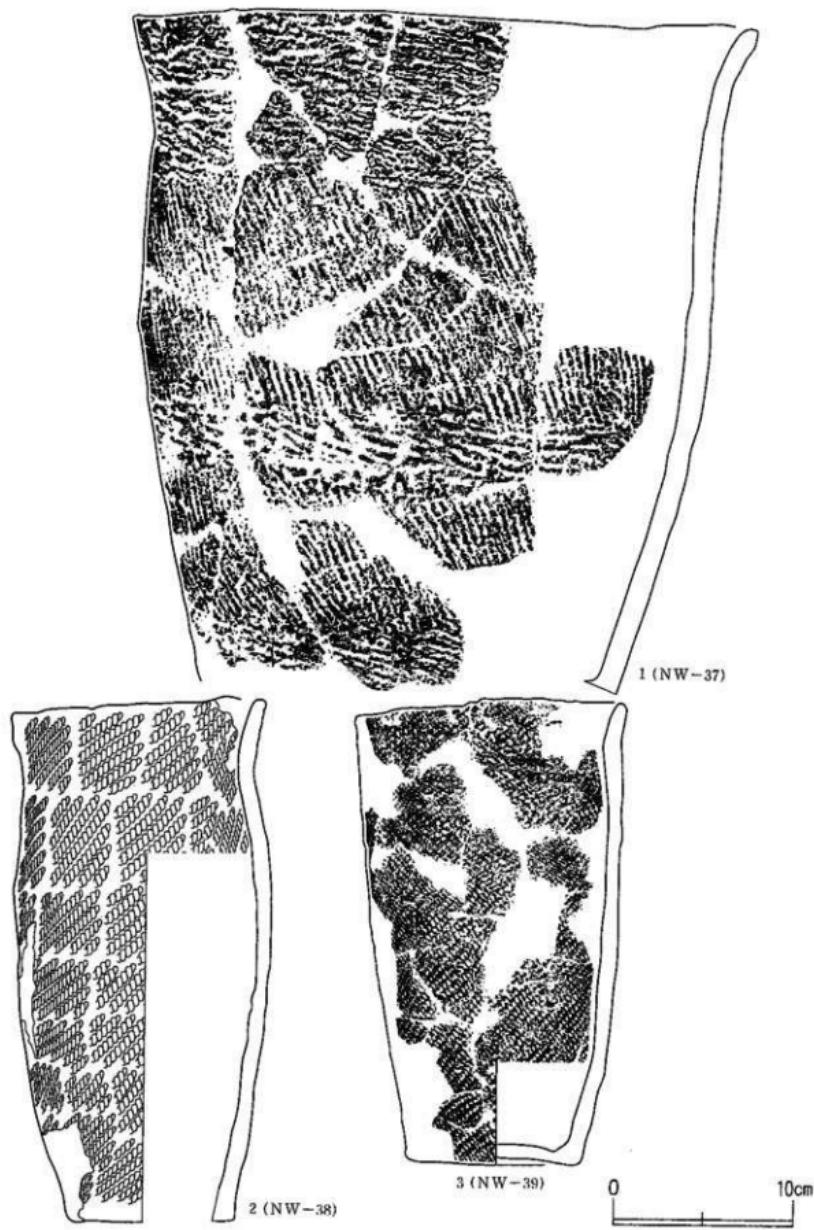




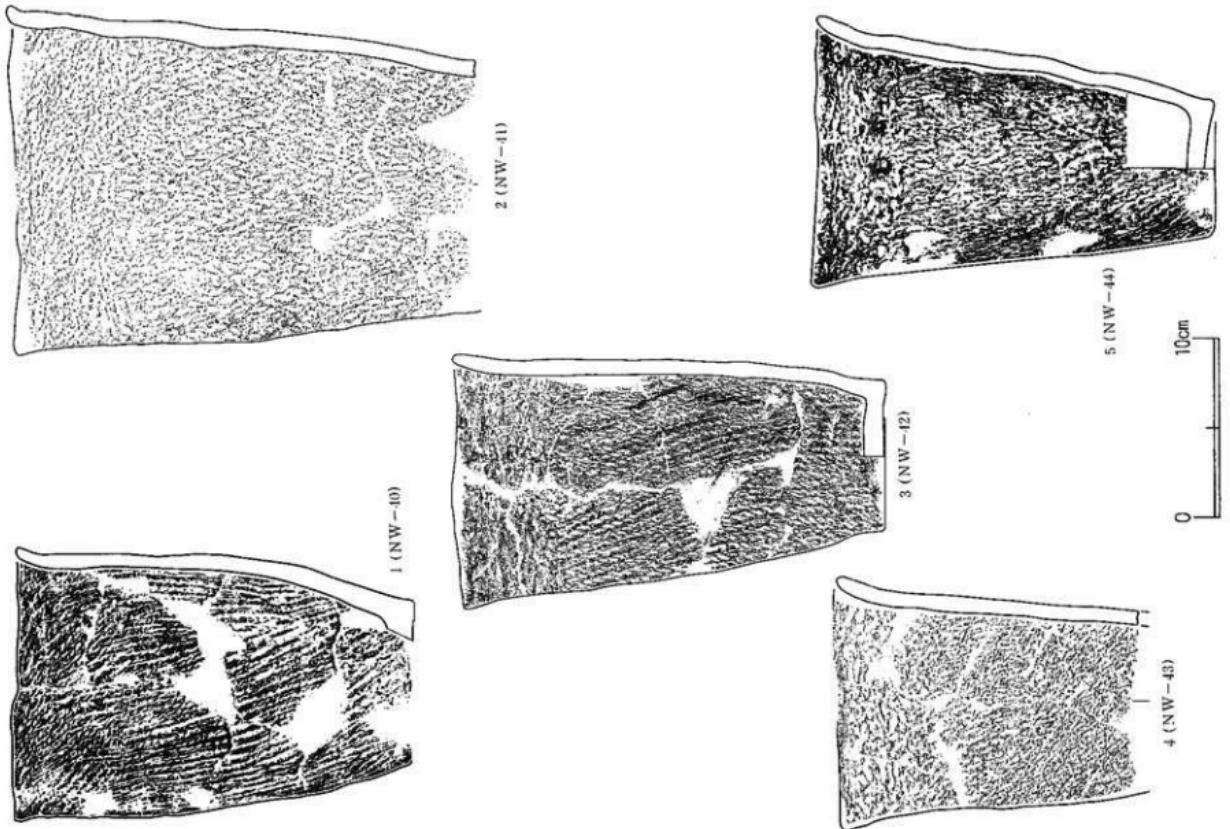
第417図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (5)



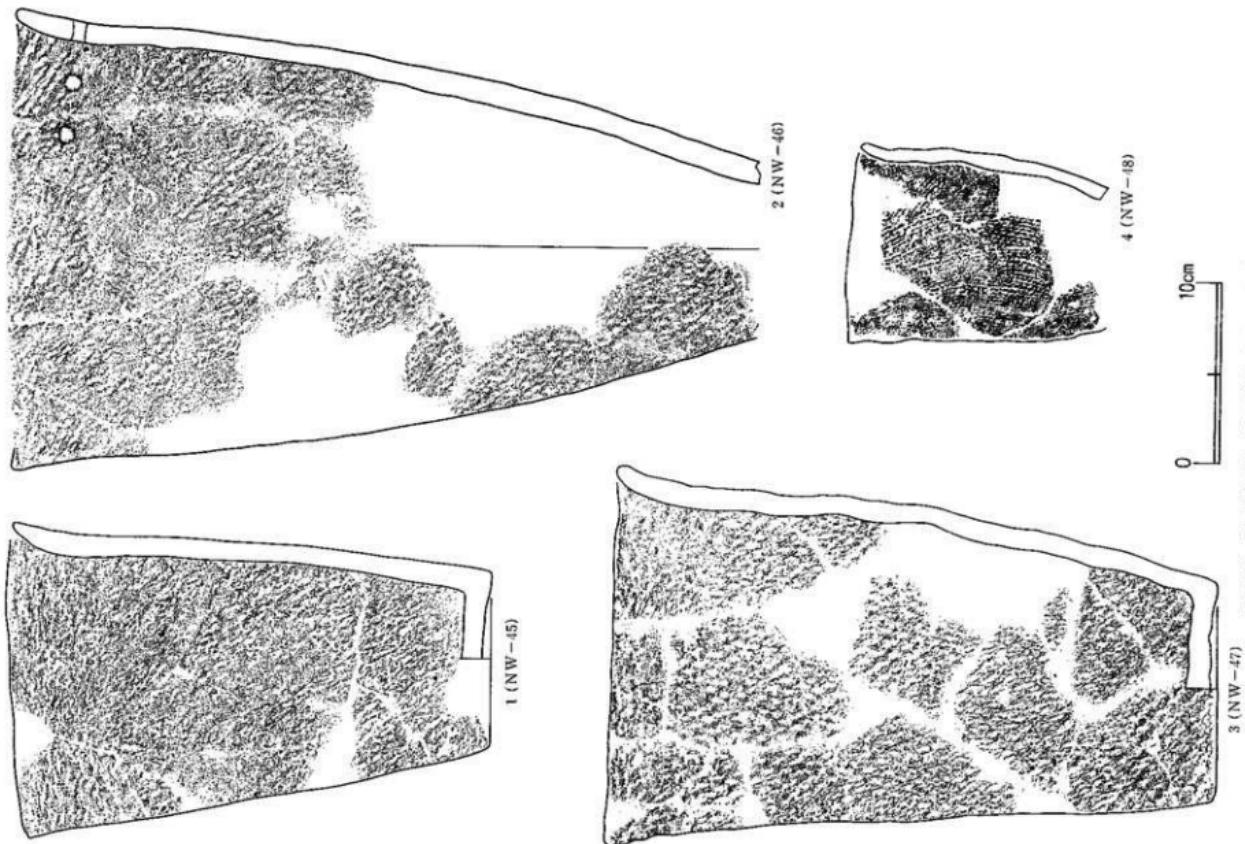
第418図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (6)



第419図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (7)

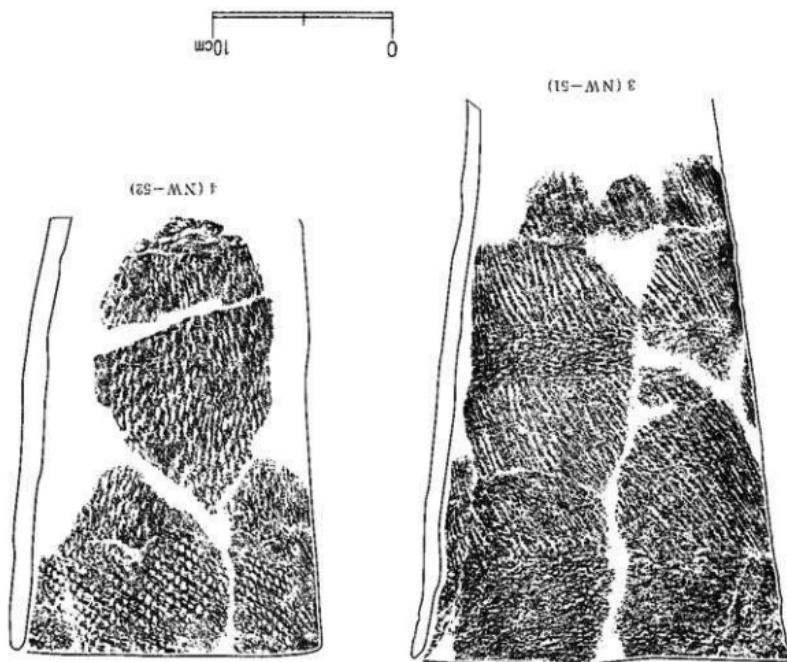


第420図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (8)

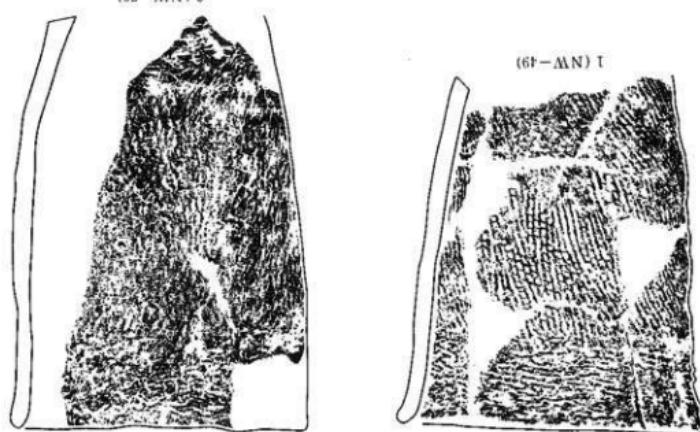


第421図 北西斜面捨て場I層出土土器（9）

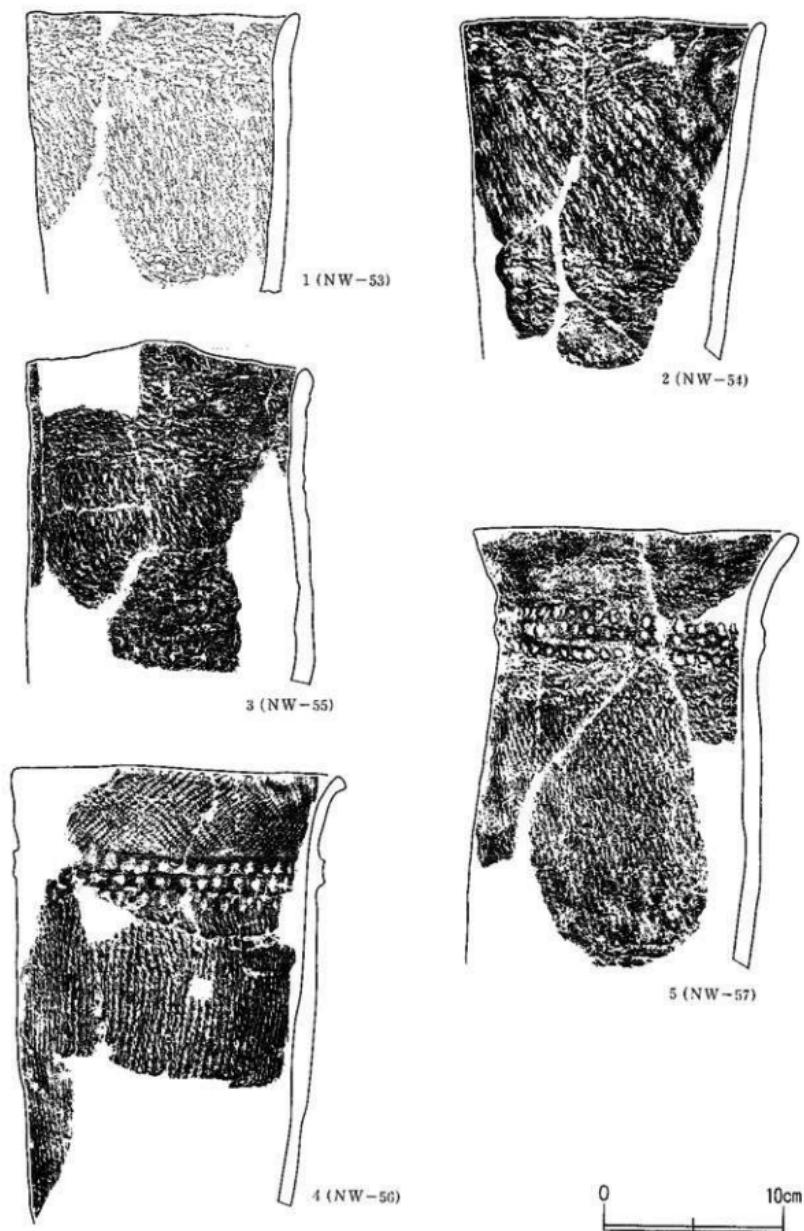
第422圖 北西斜面繪陶器 1層出土土器 (10)



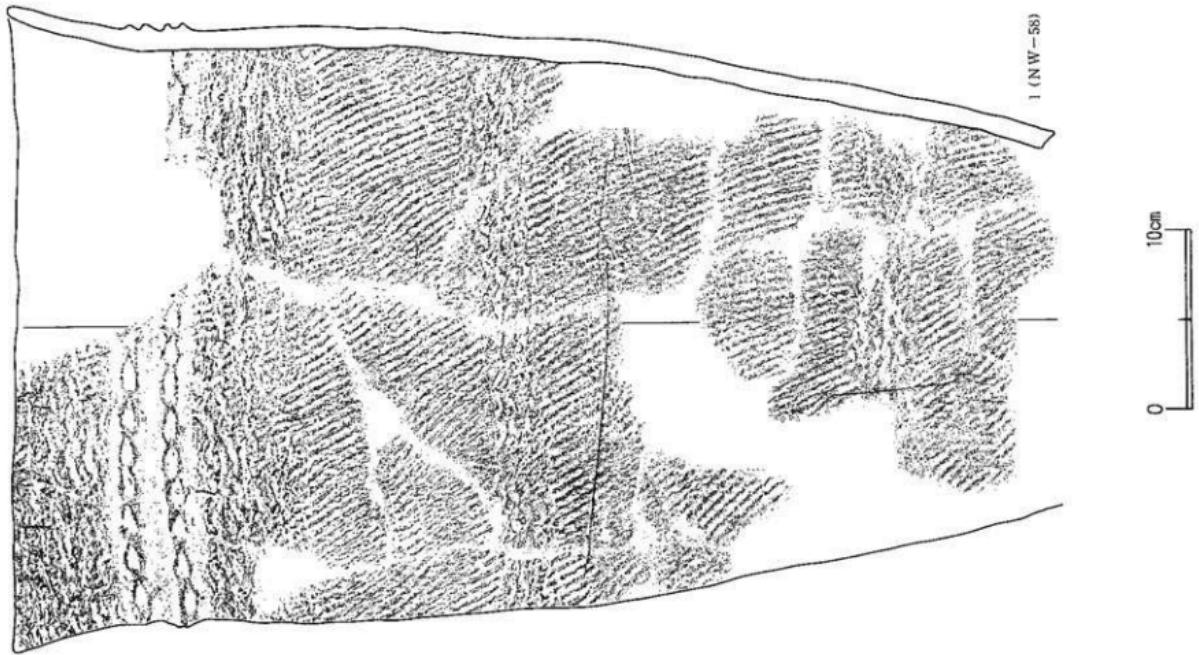
第3圖 北西斜面繪陶器



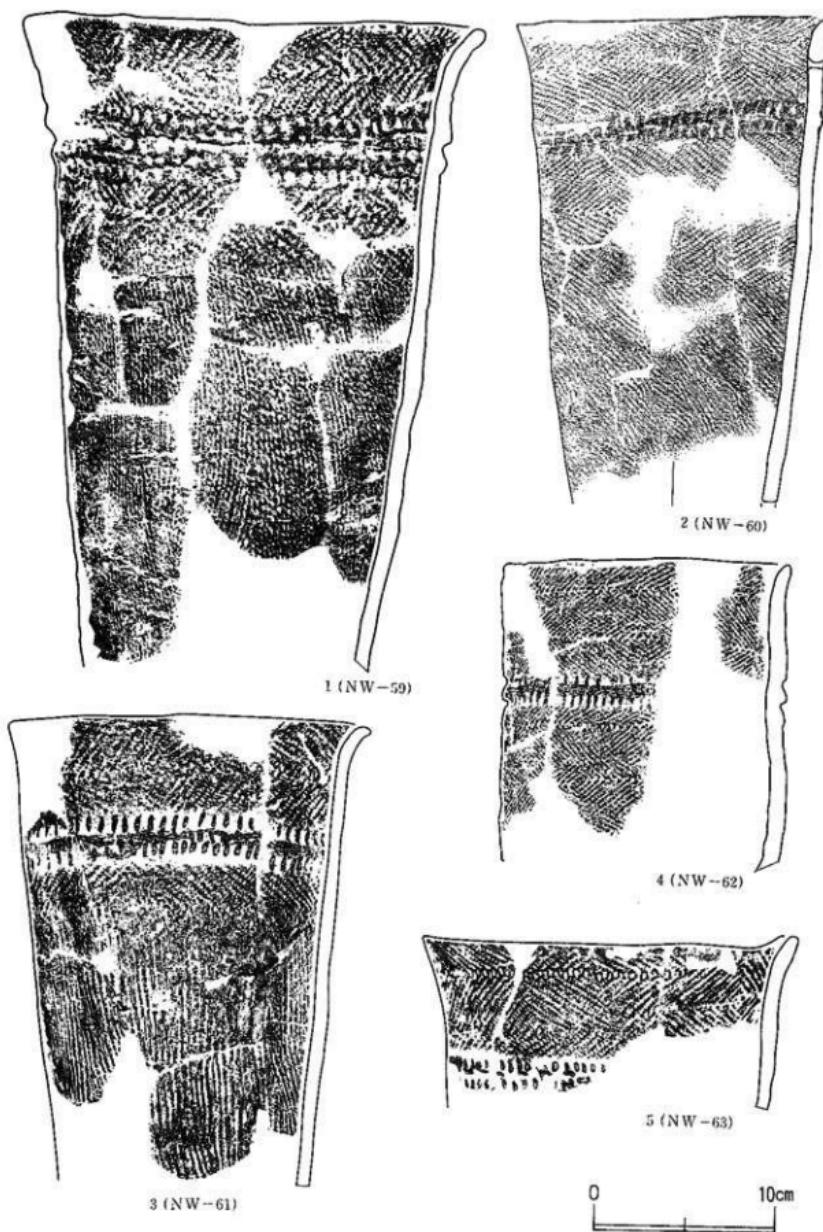
第3圖 北西斜面繪陶器



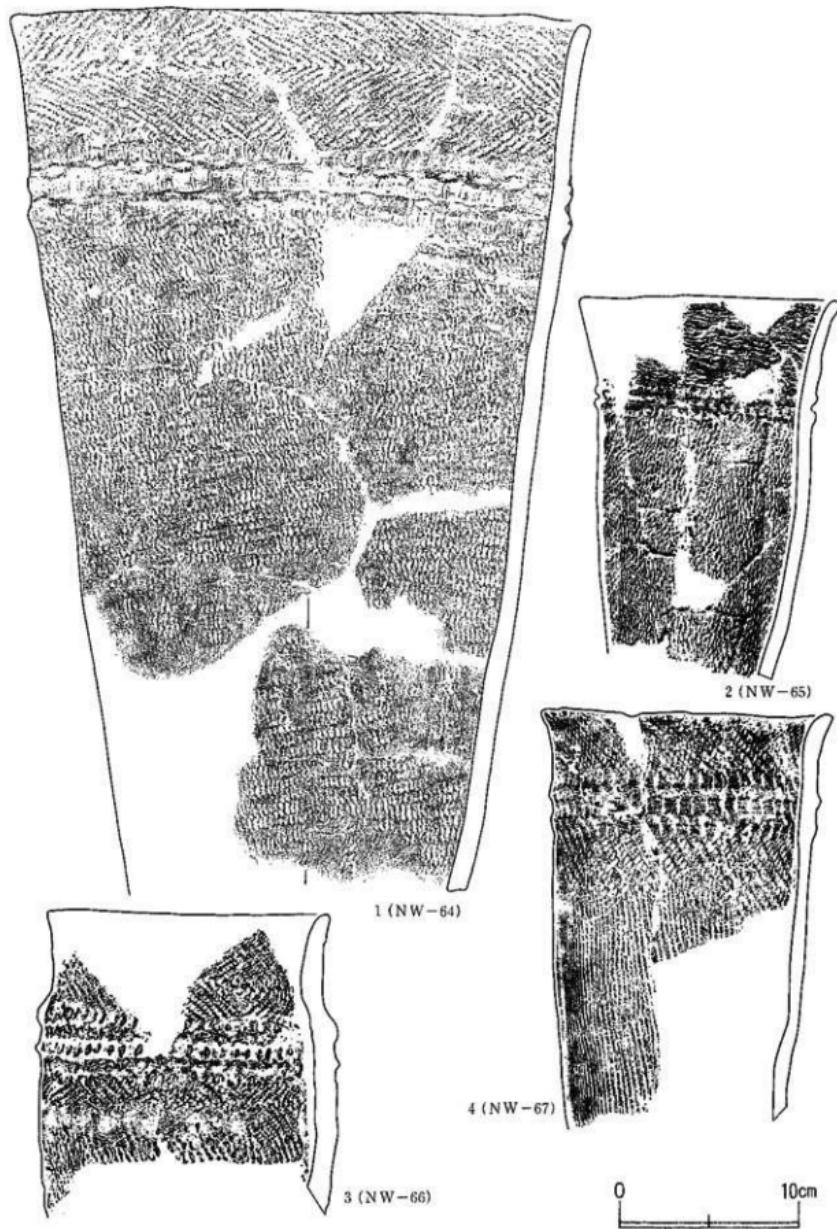
第423図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (11)



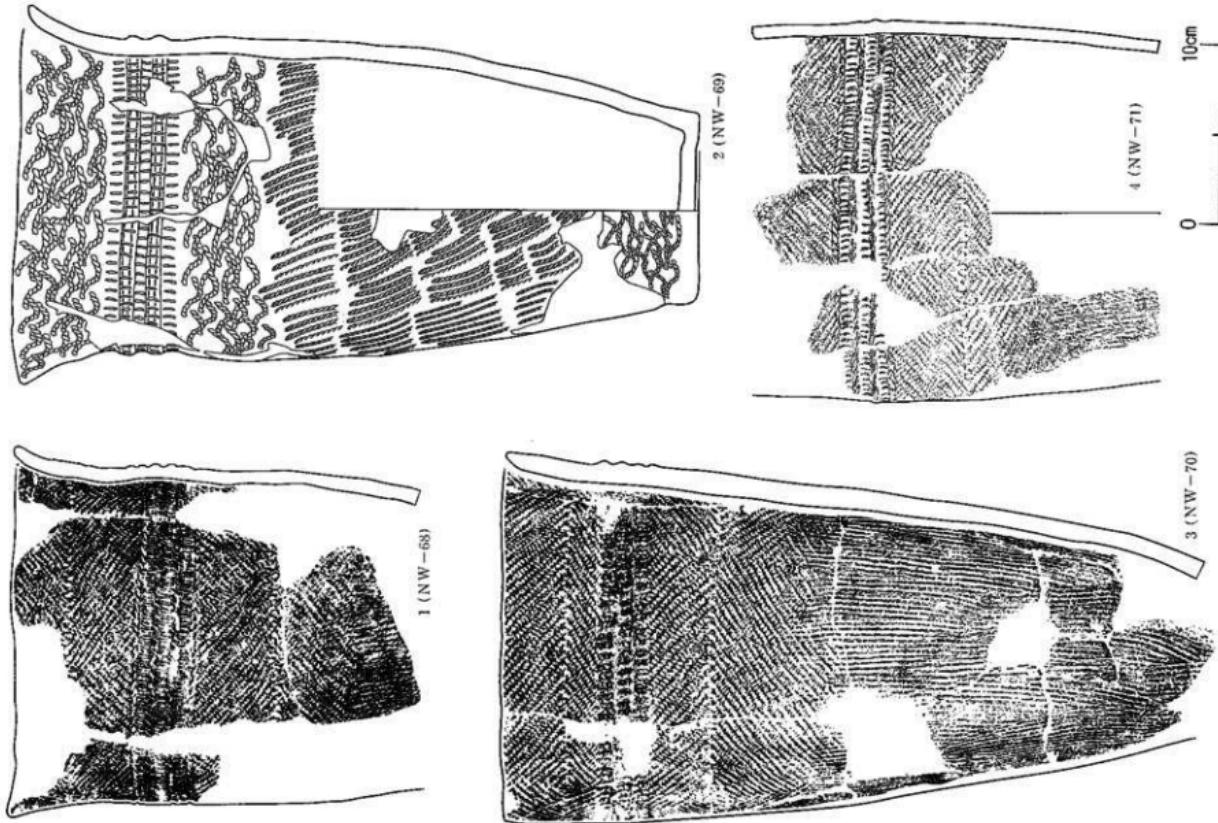
第424図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (12)



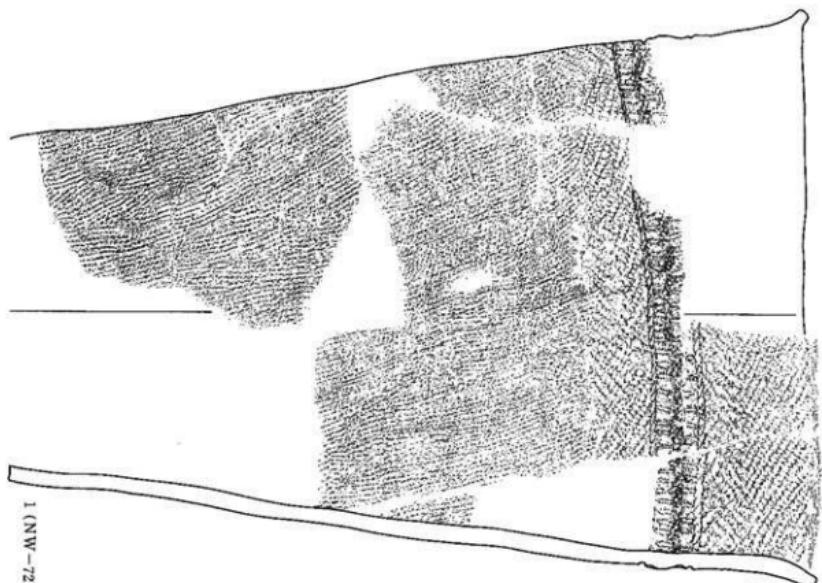
第425図 北西斜面挖て場 I 層出土土器 (13)



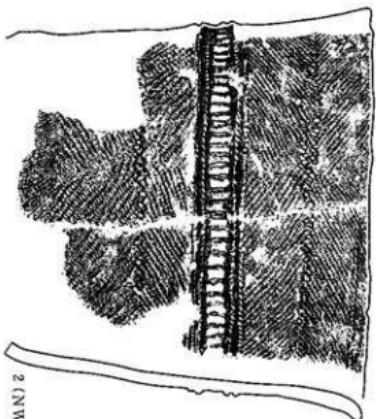
第426図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (14)



第427図 北西斜面捨て場I層出土土器 (15)

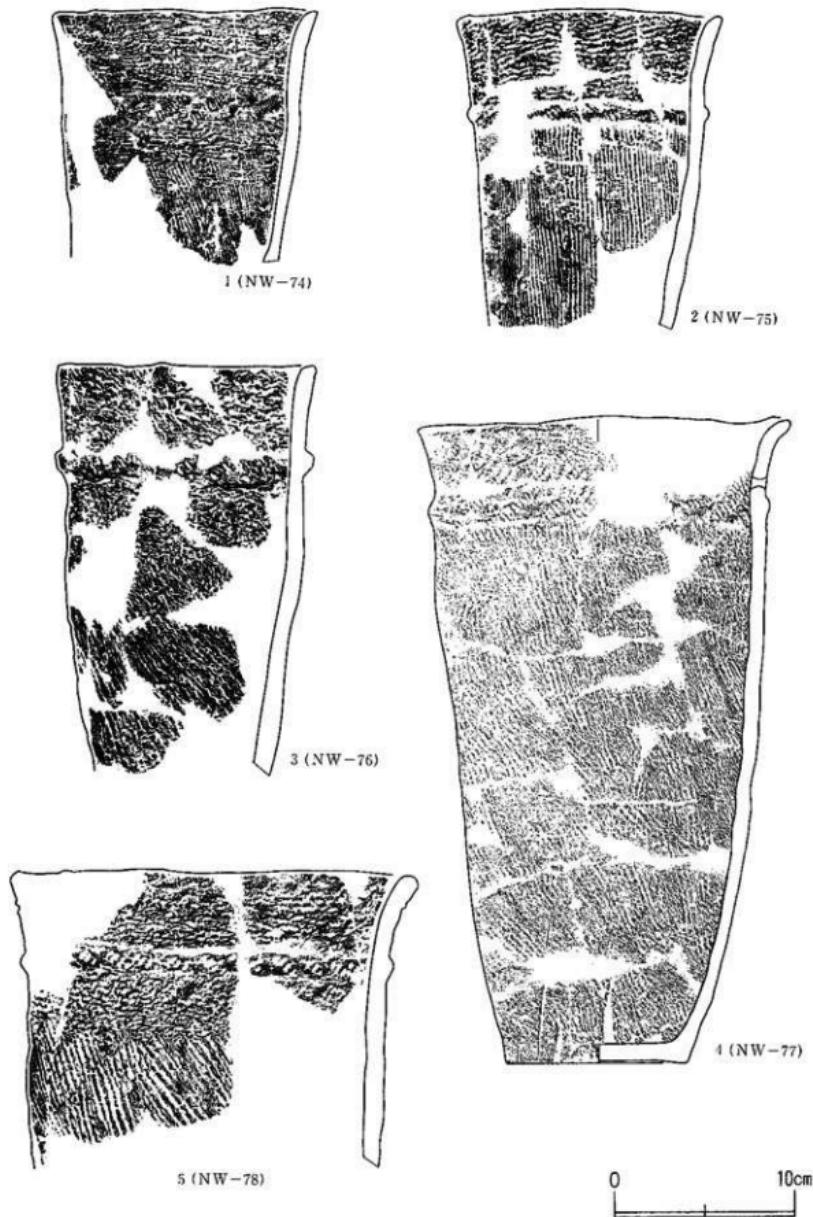


1 (NW-72)



2 (NW-73)

第428図 北西斜面捨て場 I層出土土器 (16)



第429図 北西斜面掻て場 I層出土土器 (17)

圖430圖 北西斜面第7層I層出土土器 (18)

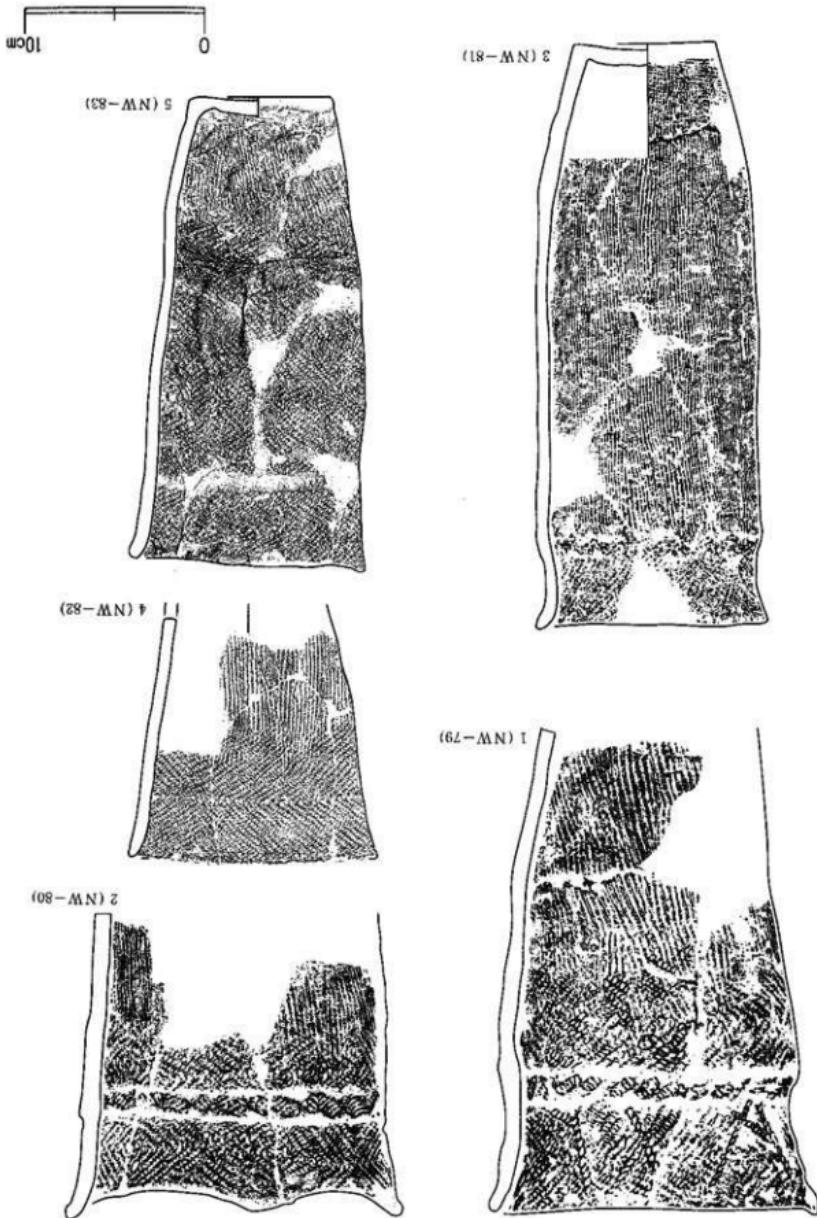


圖3圖 北西斜面⑦層I層

第431圖 北西斜面牆 II 層出土土器 (19)

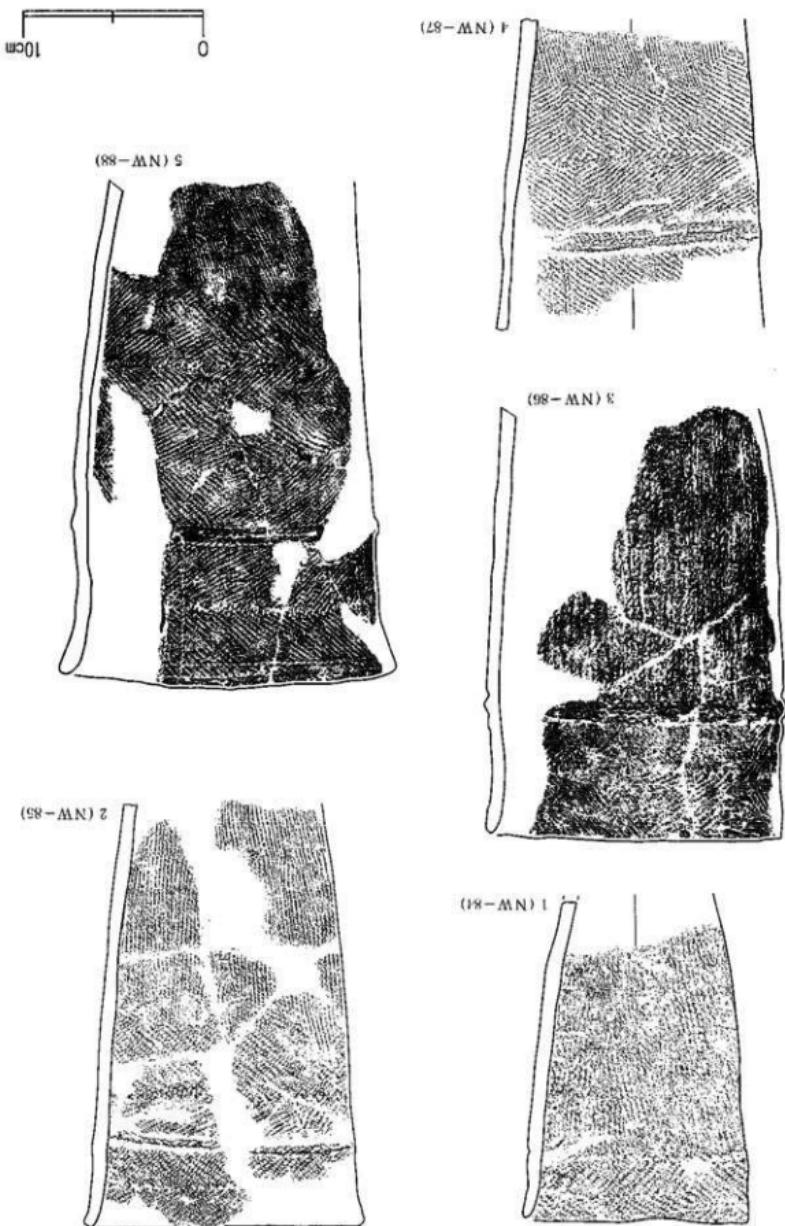


圖422 北西斜面牆之器 I 件出土土器 (20)

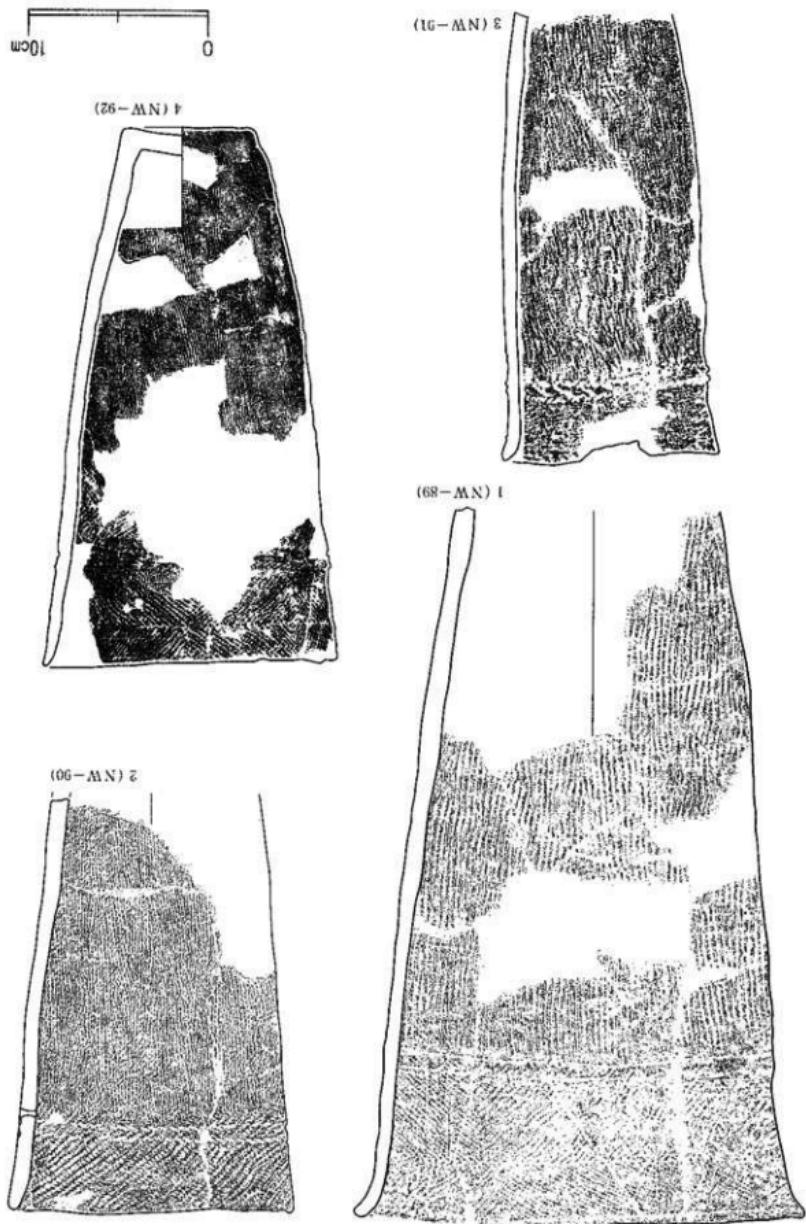
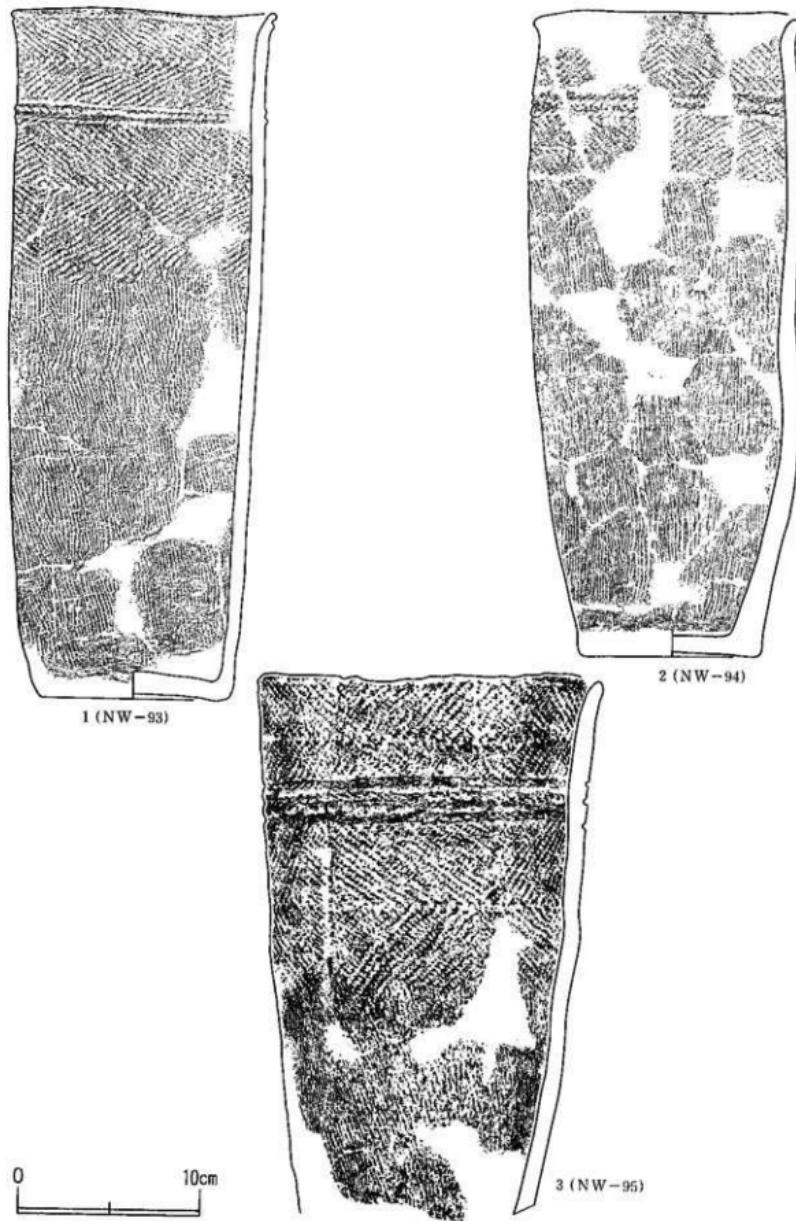
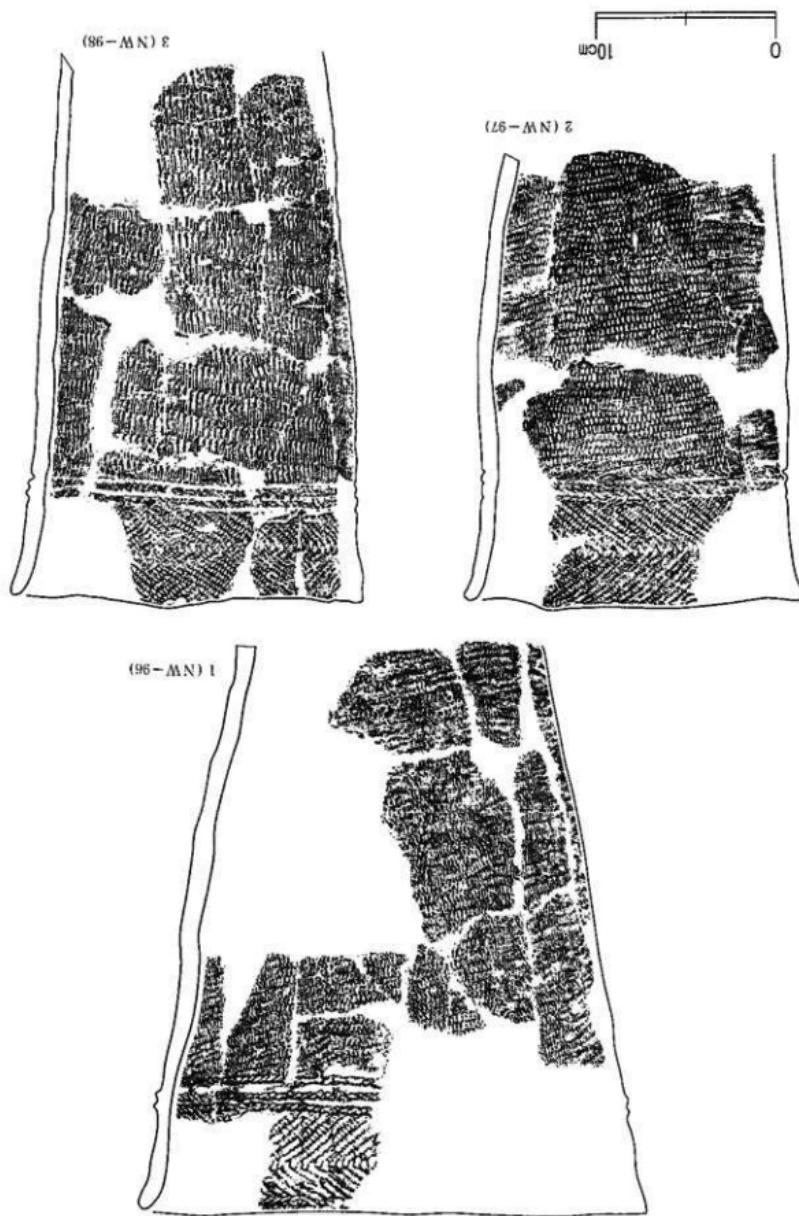


圖3 鋪 北西斜面牆之器

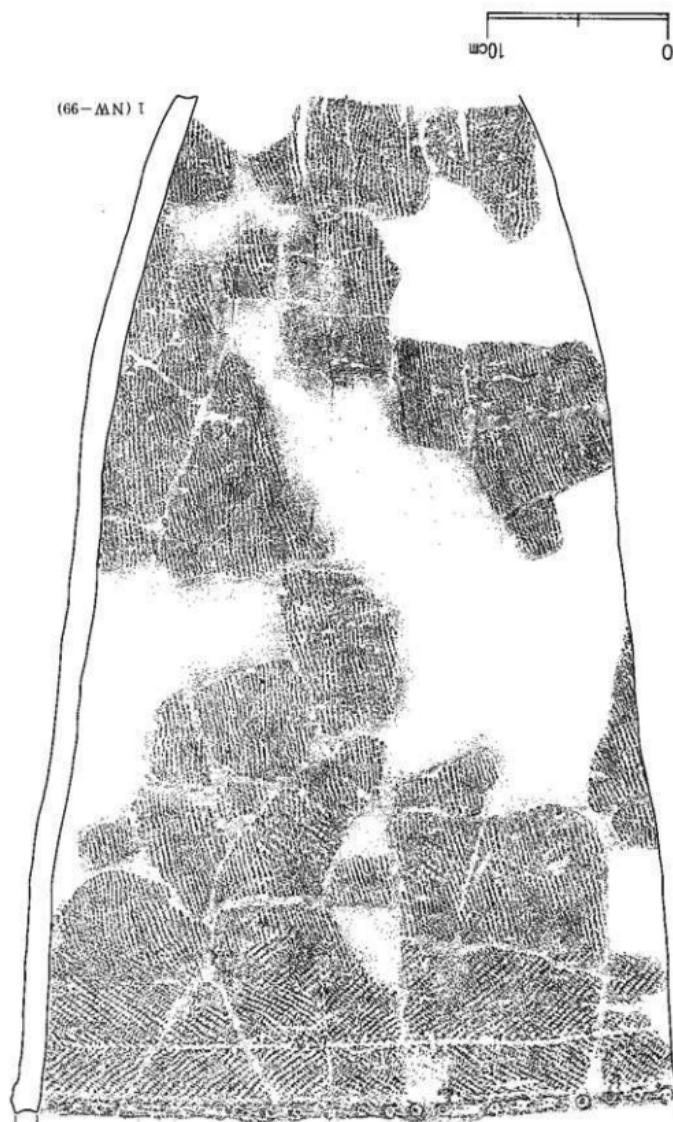


第433図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (21)

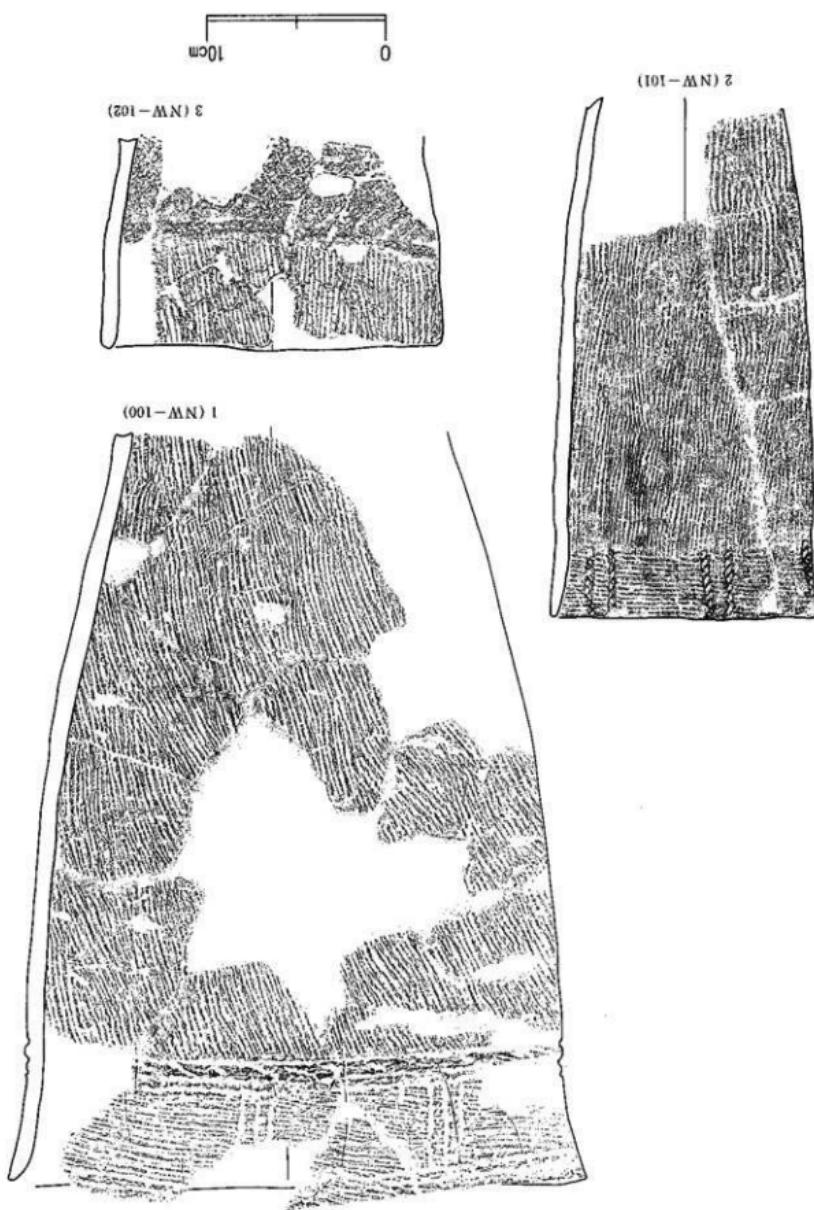
第43圖 北西斜面坑T場I層出土土器 (22)



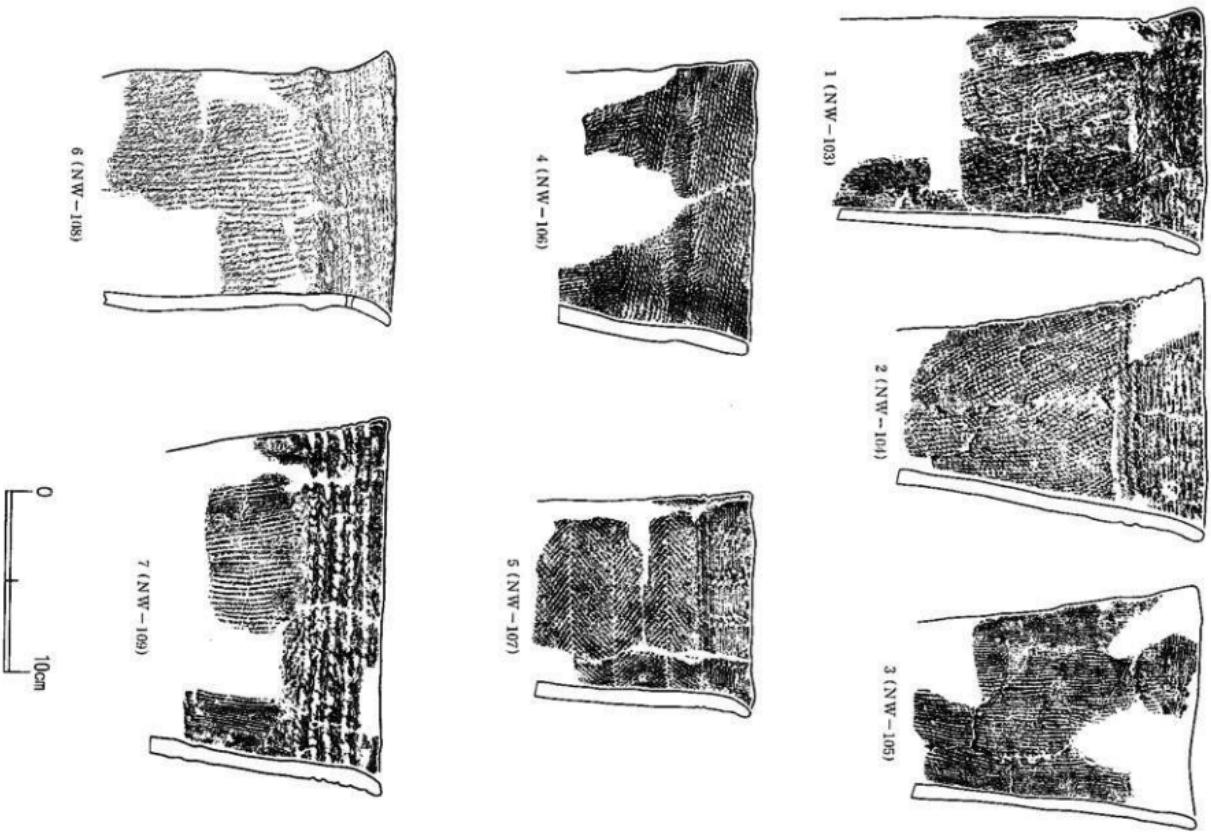
第435圖 北西博面積T形I層出土土器 (23)



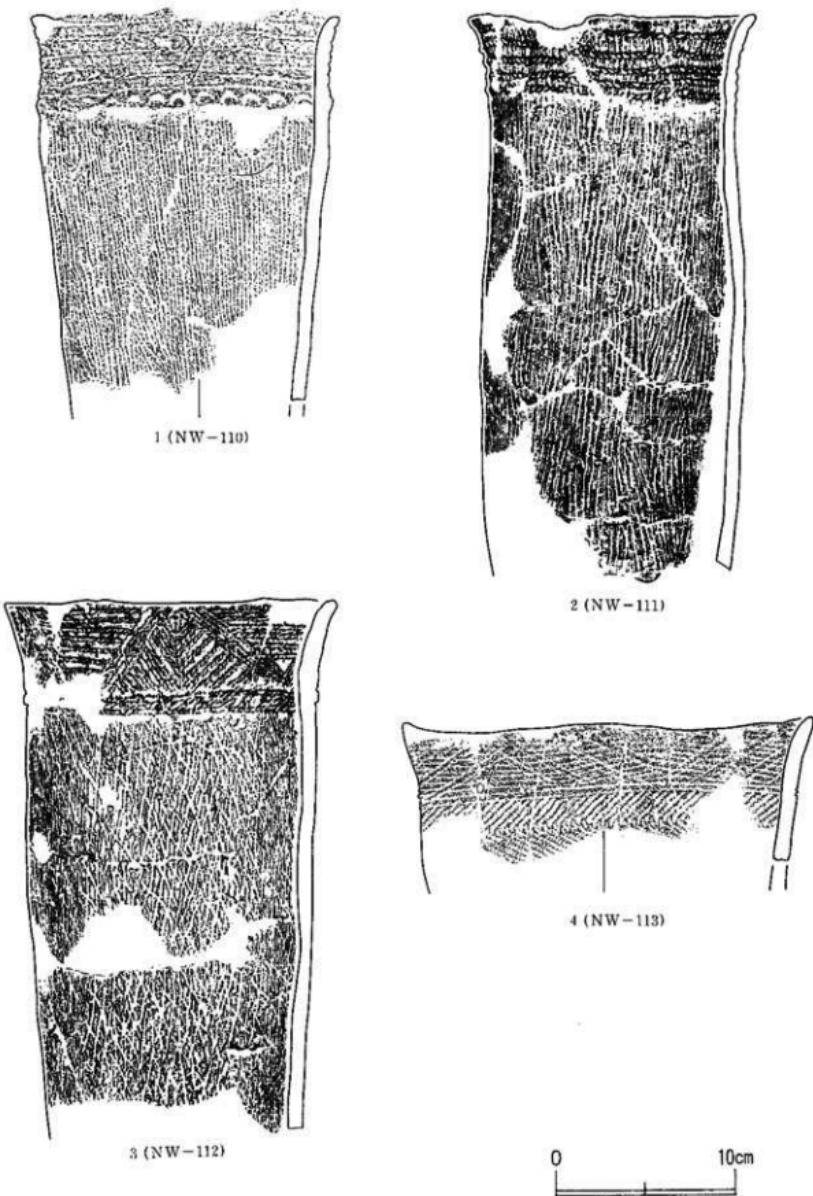
第436圖 北西斜面牆C場 I 層出土土器 (24)



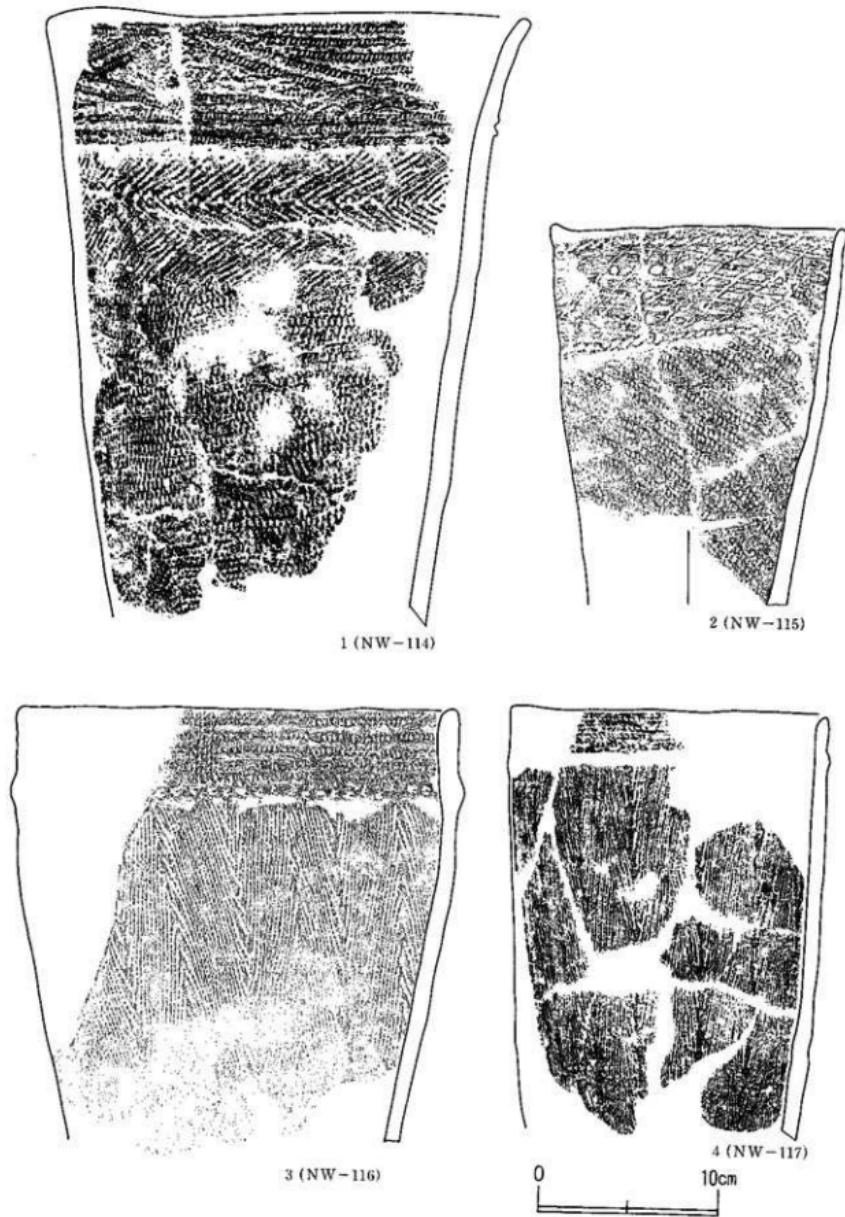
第3圖 北西斜面牆C場



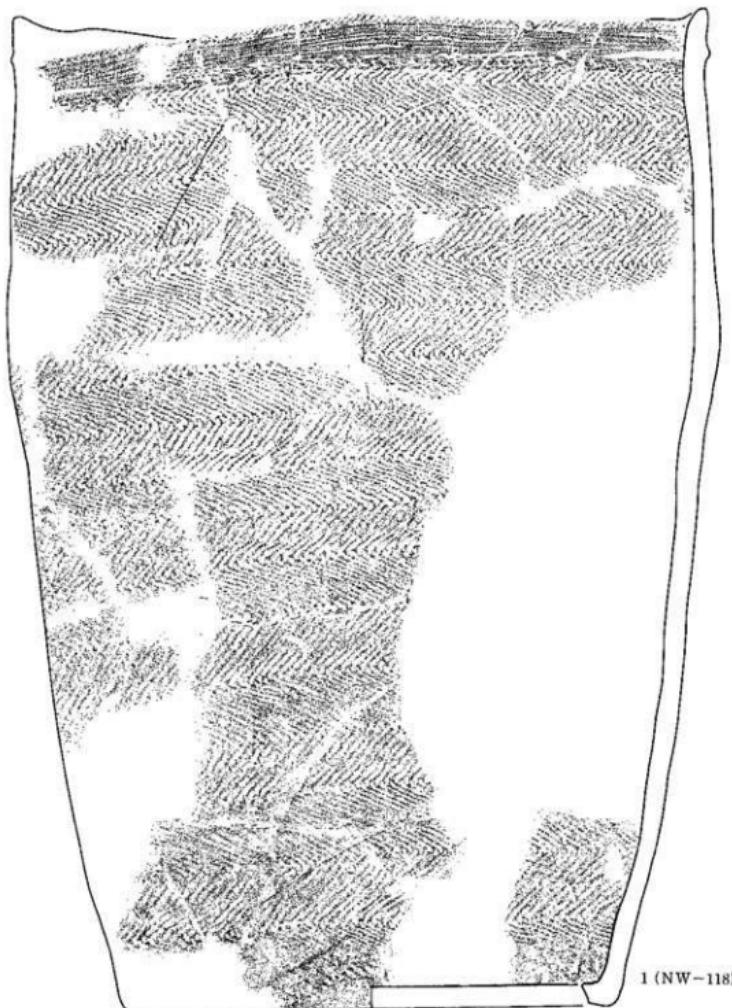
第437図 北西斜面挖て場I層出土土器(25)



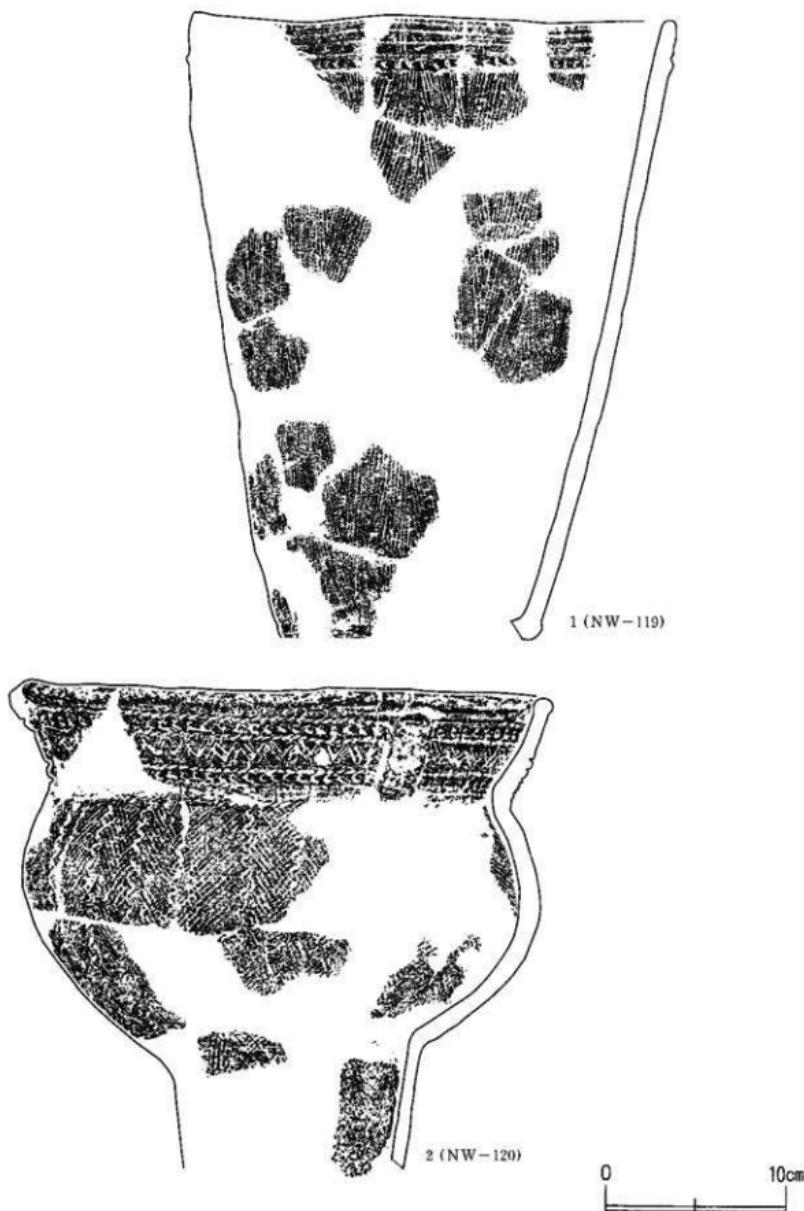
第438図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (26)



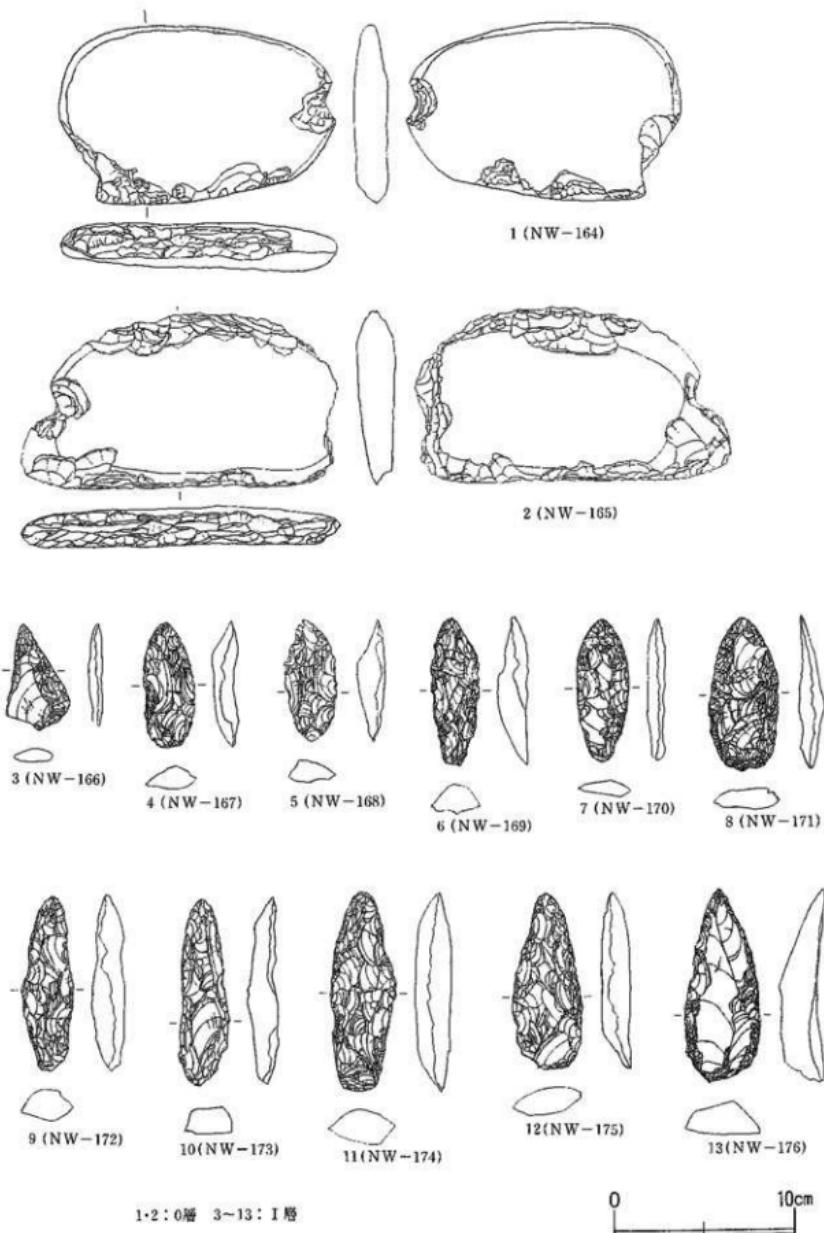
第439図 北西斜面掻て場 I層出土土器 (27)



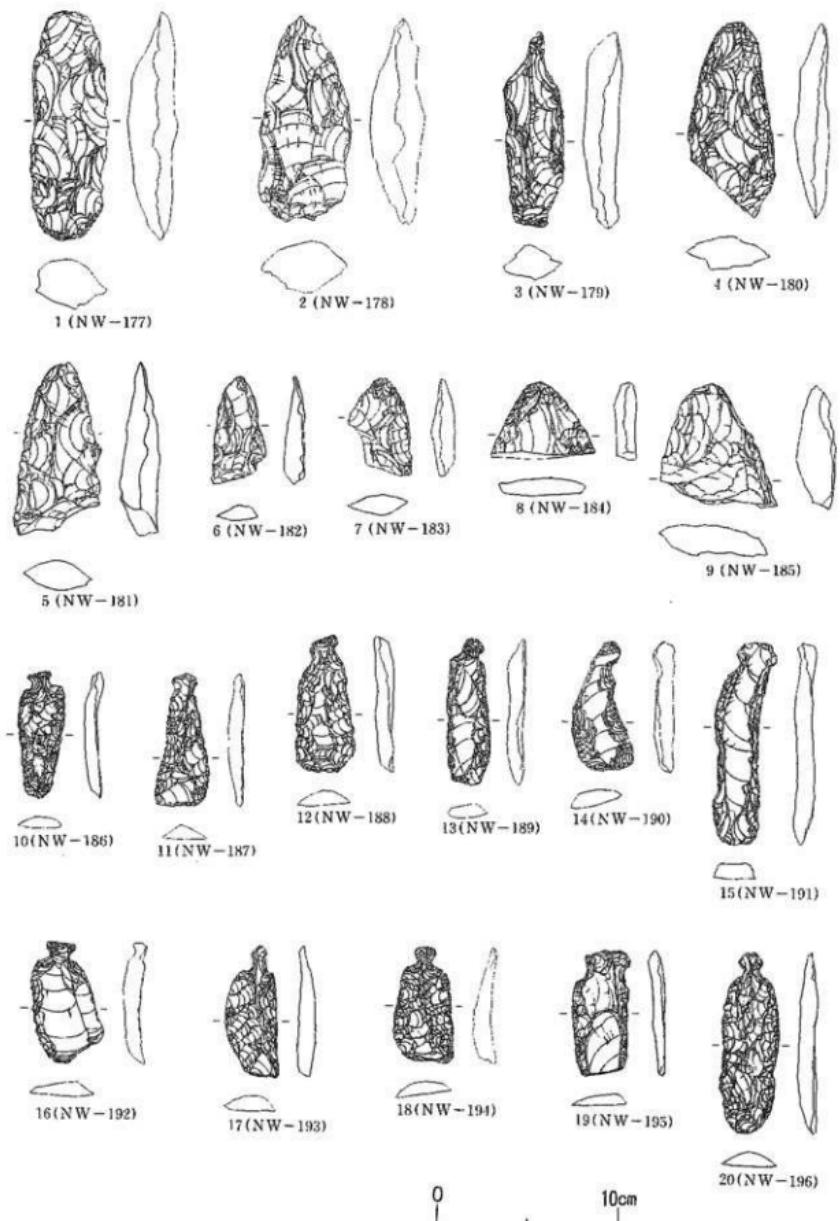
第440図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (28)



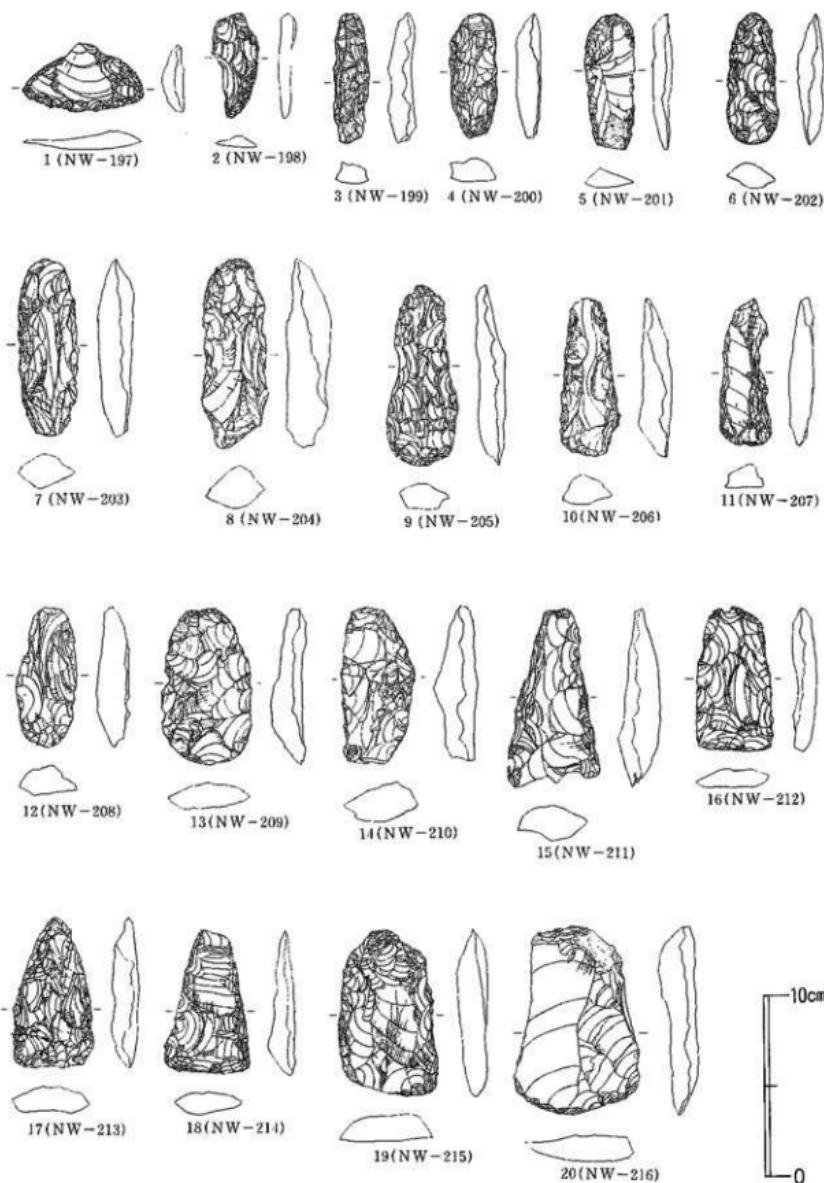
第441図 北西斜面捨て場 I 層出土土器 (29)



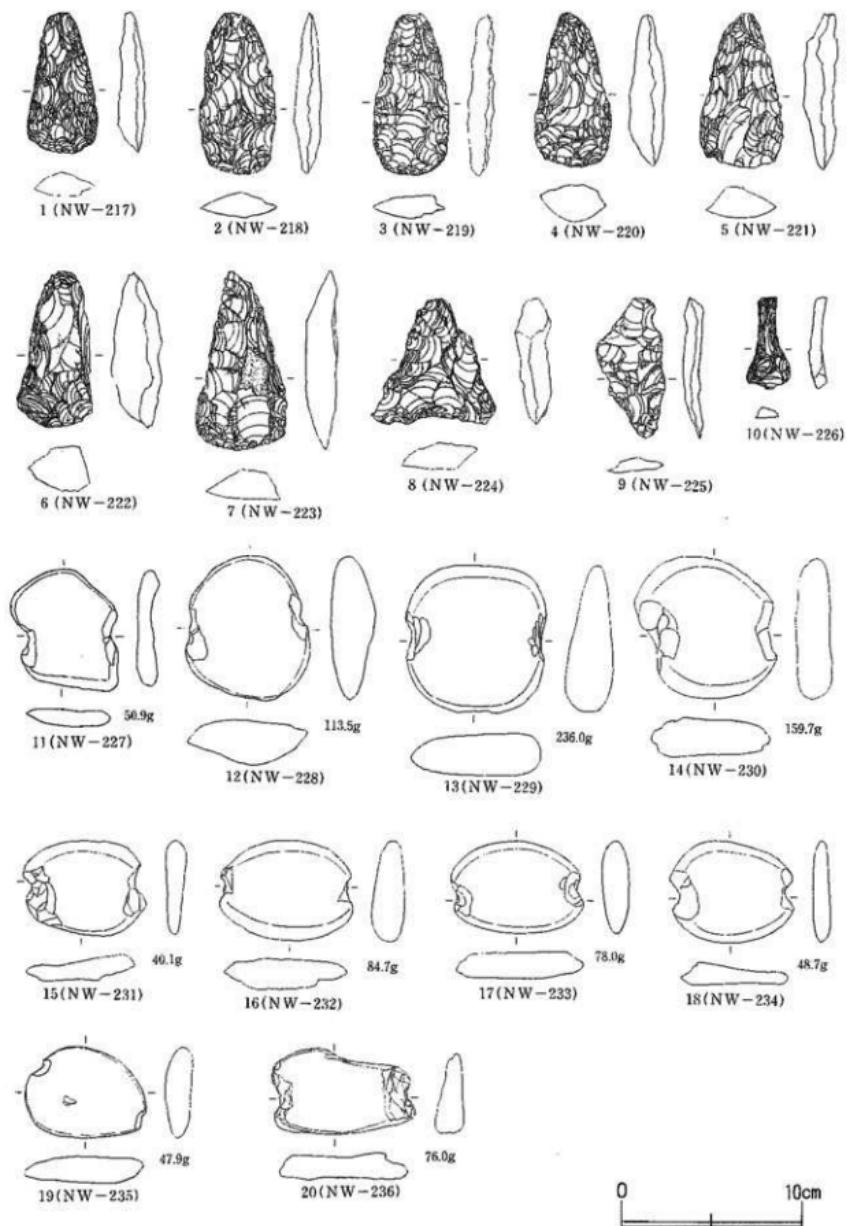
第442図 北西斜面捨て場 0層・I層出土石器（1）



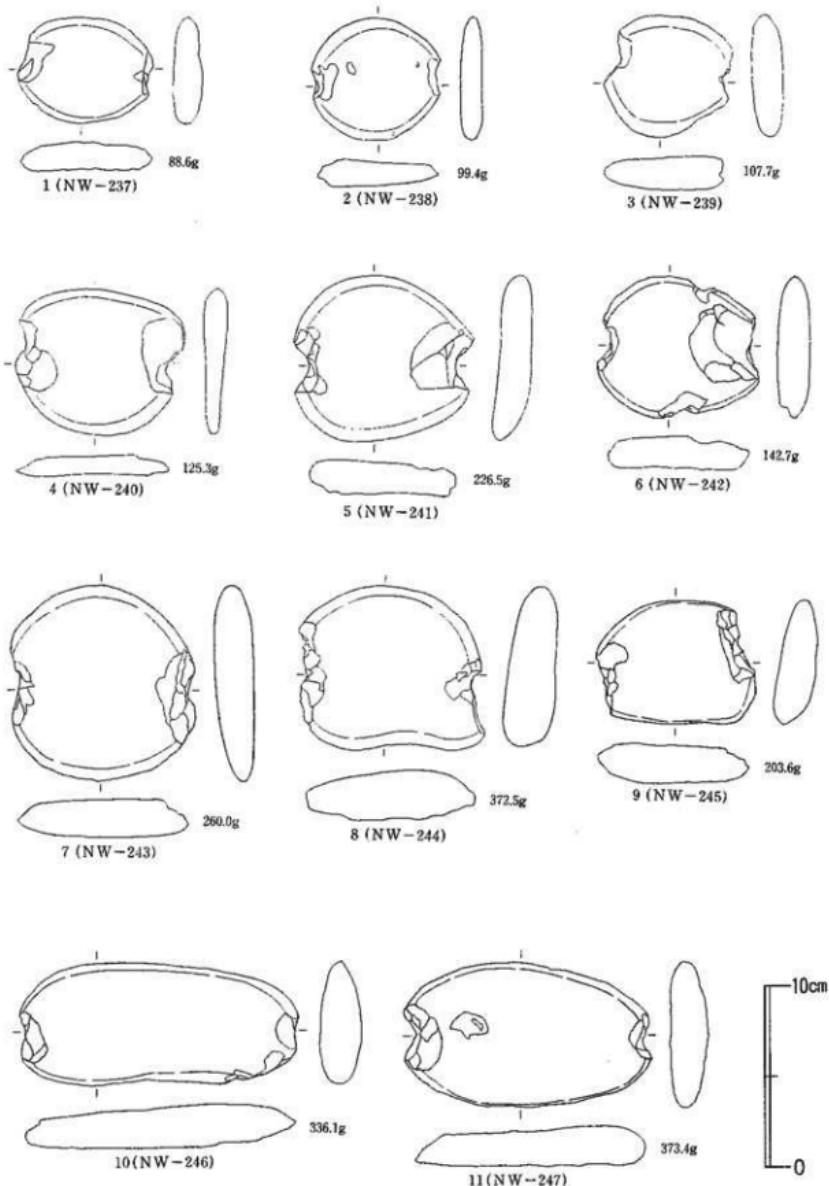
第443図 北西斜面捨て場・I層出土石器（2）



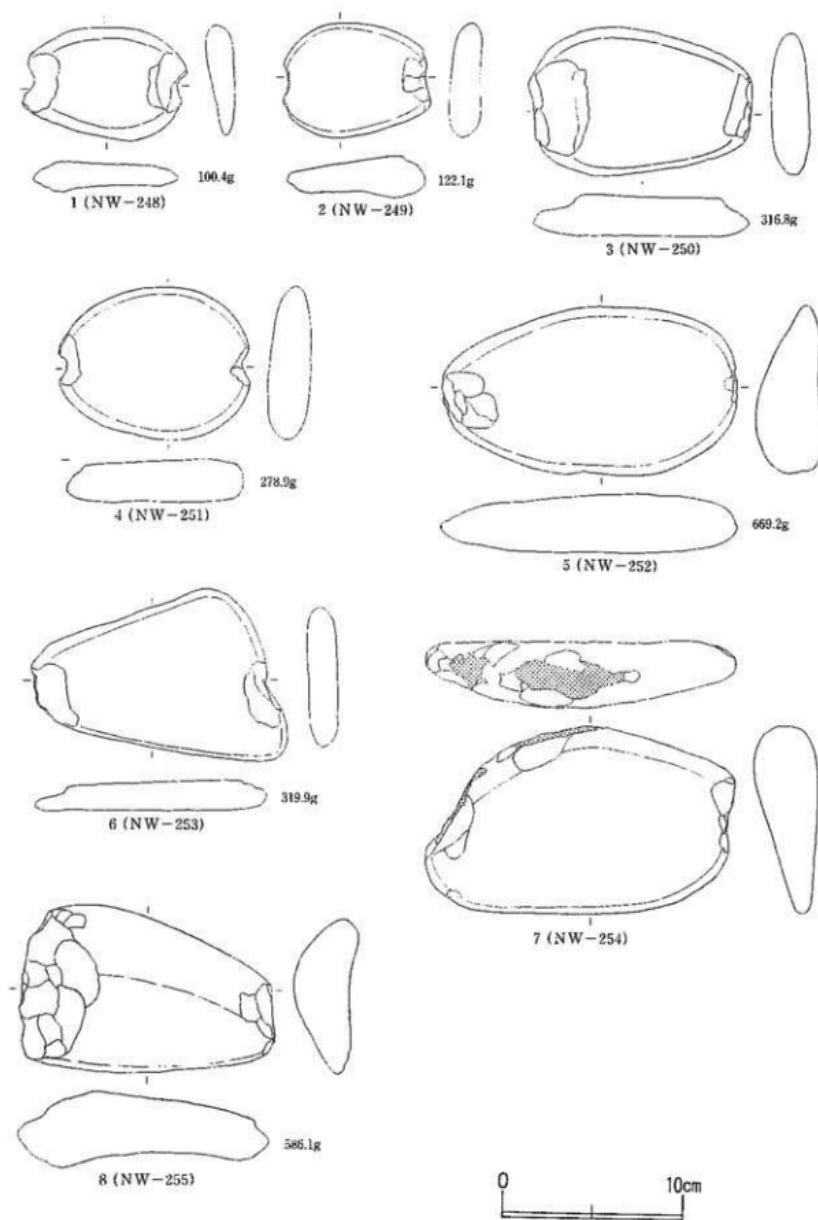
第444図 北西斜面捨て場・I層出土石器（3）



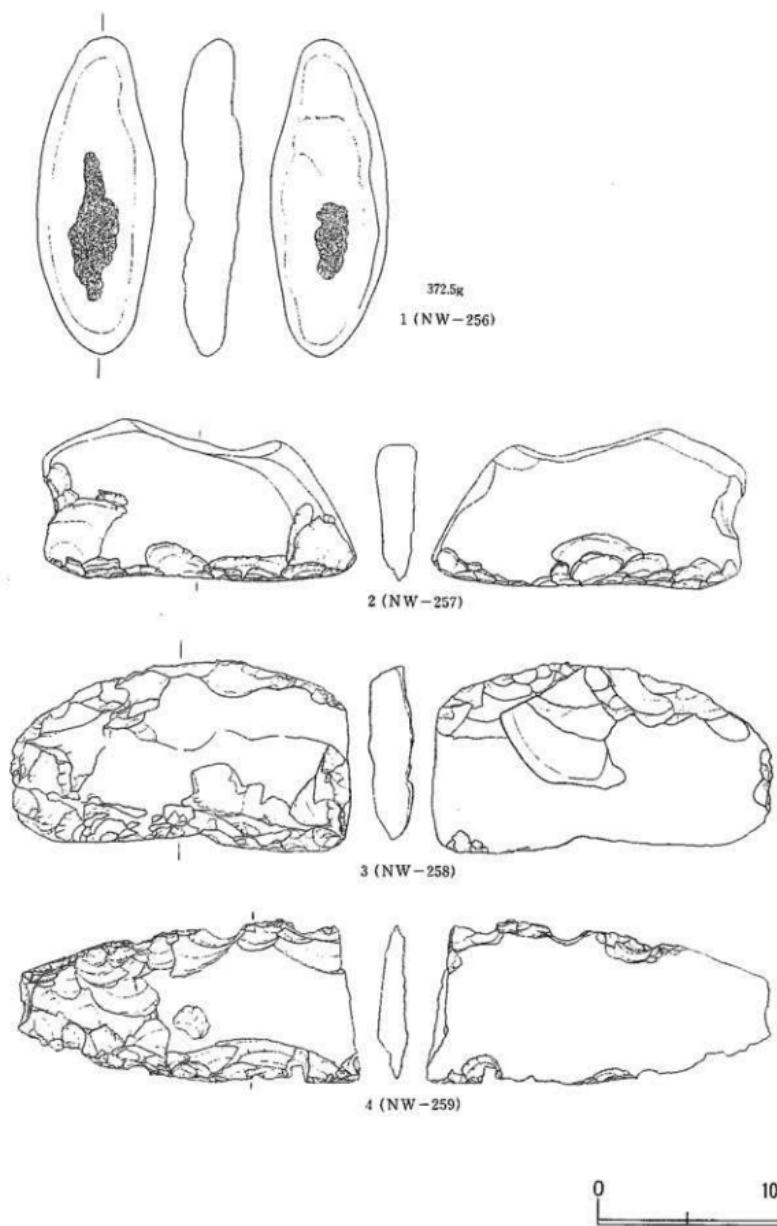
第445図 北西斜面捨て場・I層出土石器（4）



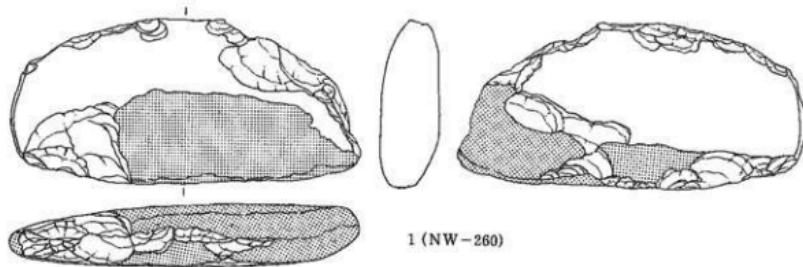
第446図 北西斜面捨て場・I層出土石器(5)



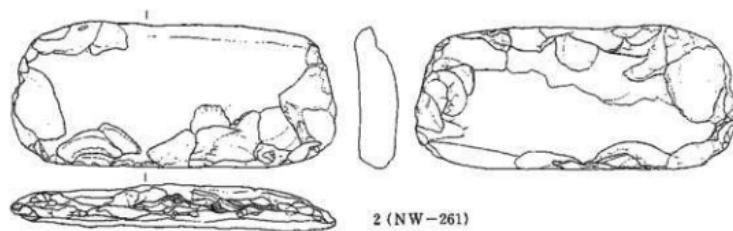
第447図 北西斜面捨て場・I層出土石器（6）



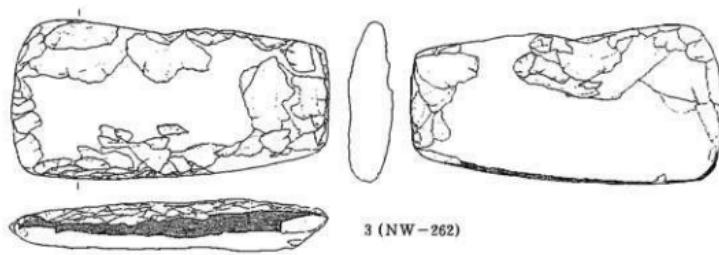
第448図 北西斜面捨て場・I層出土石器（7）



1 (NW-260)



2 (NW-261)

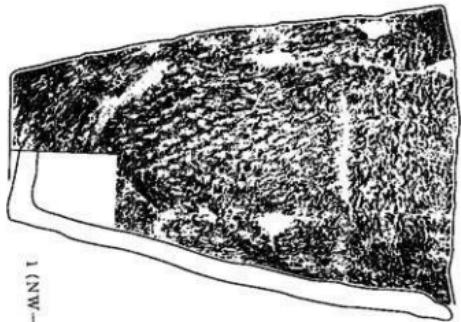


3 (NW-262)

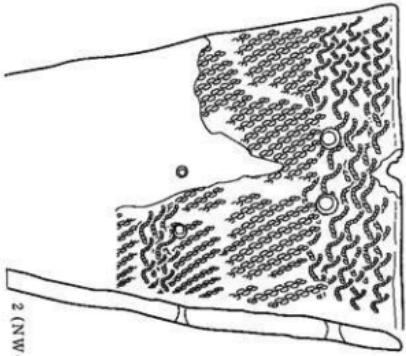


第449図 北西斜面捨て場・I層出土石器（8）

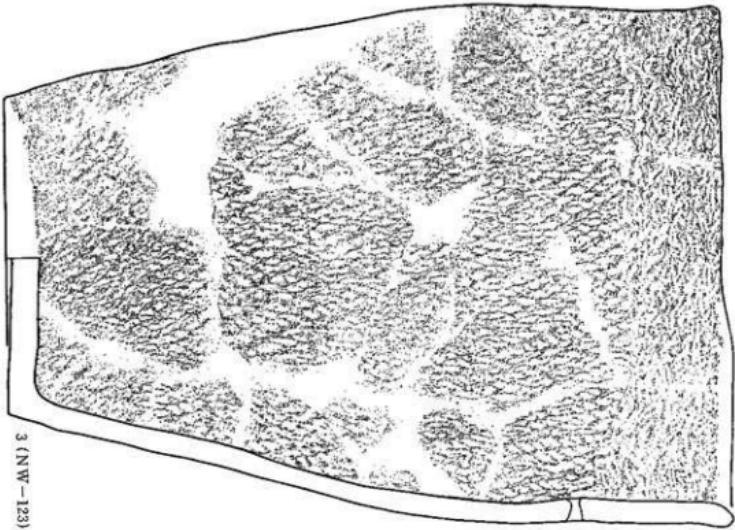
第3節 北西斜面の捨て場



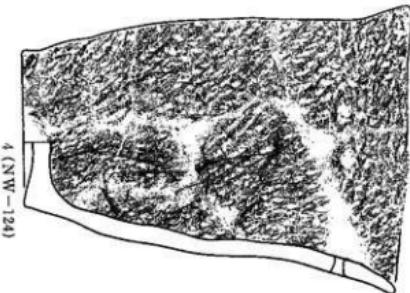
1 (NW-121)



2 (NW-122)



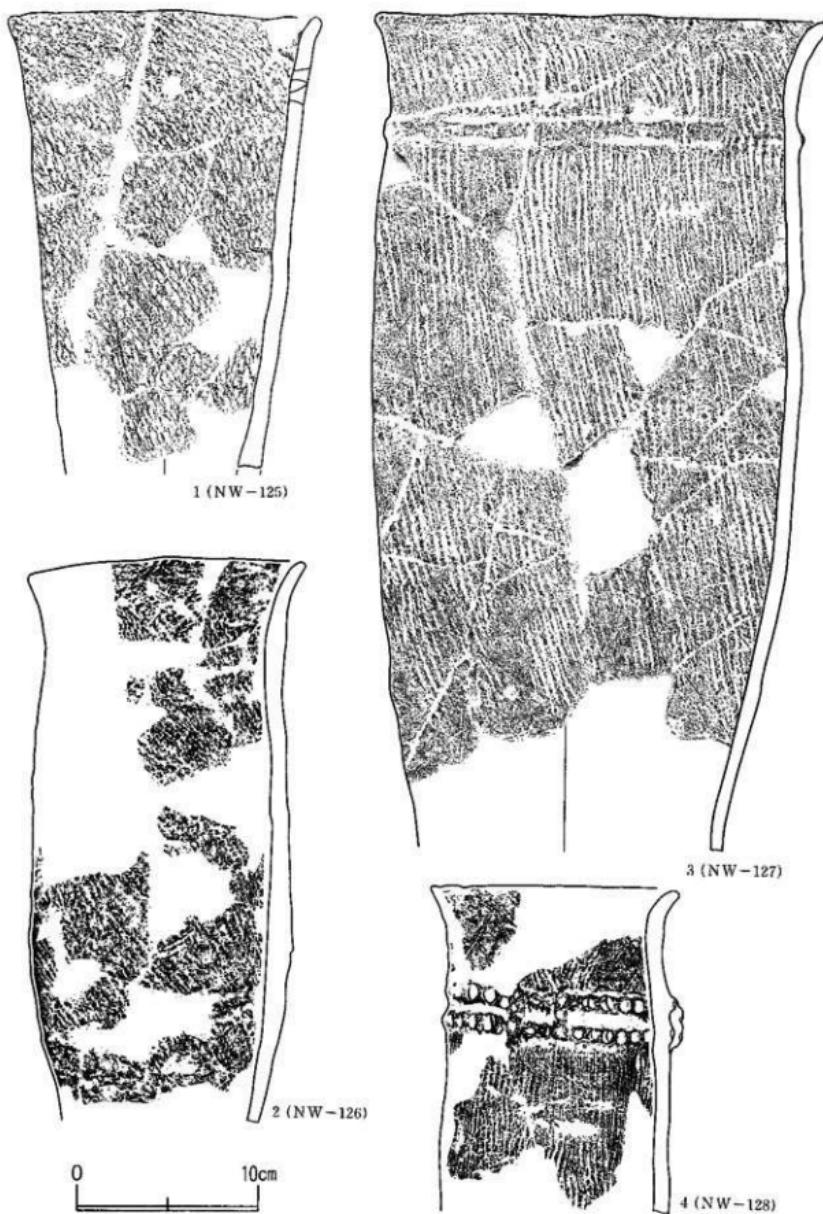
3 (NW-123)



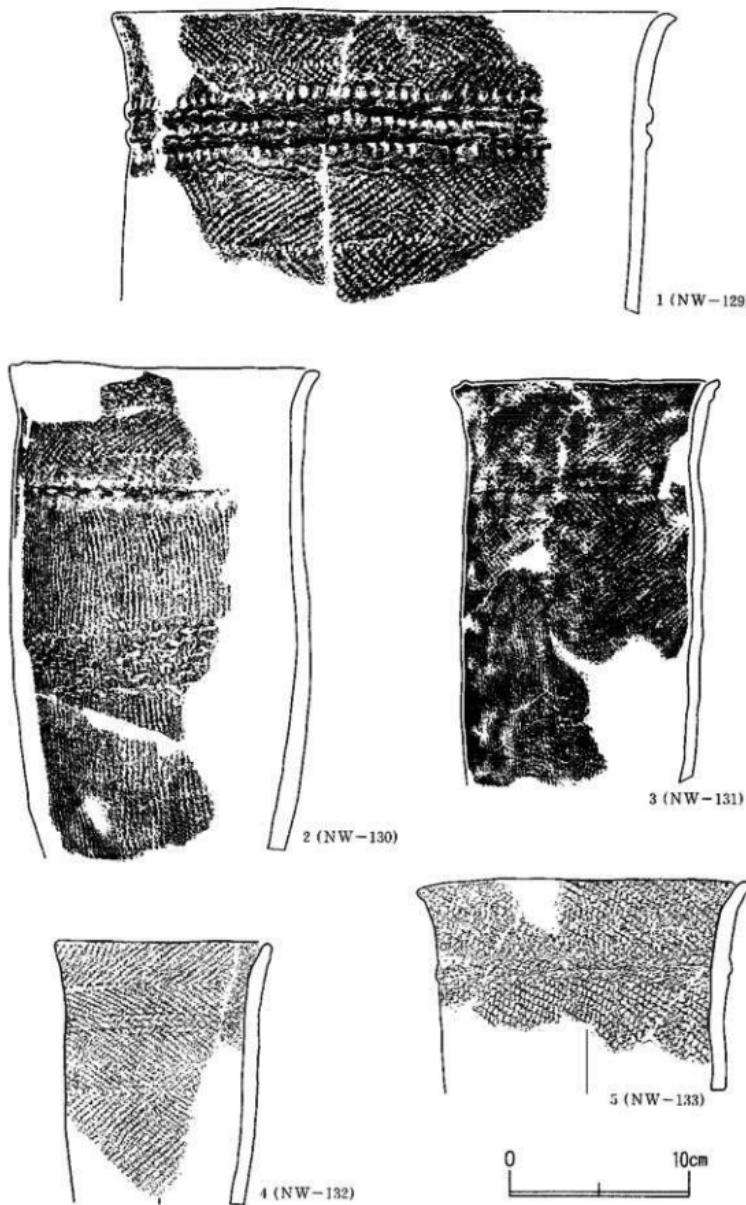
4 (NW-124)

0  
10cm

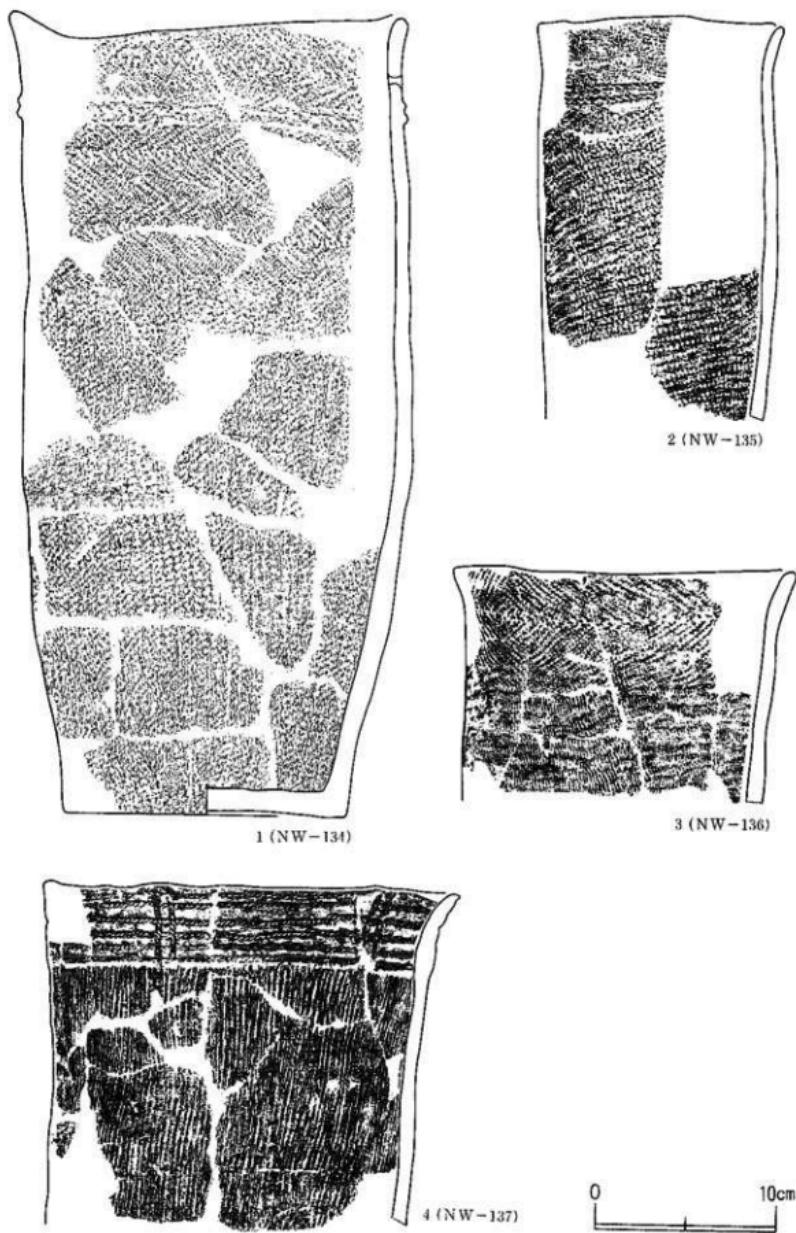
第450図 北西斜面捨て場Ⅱ層出土土器（1）



第451図 北西斜面捨て場Ⅱ層出土土器（2）

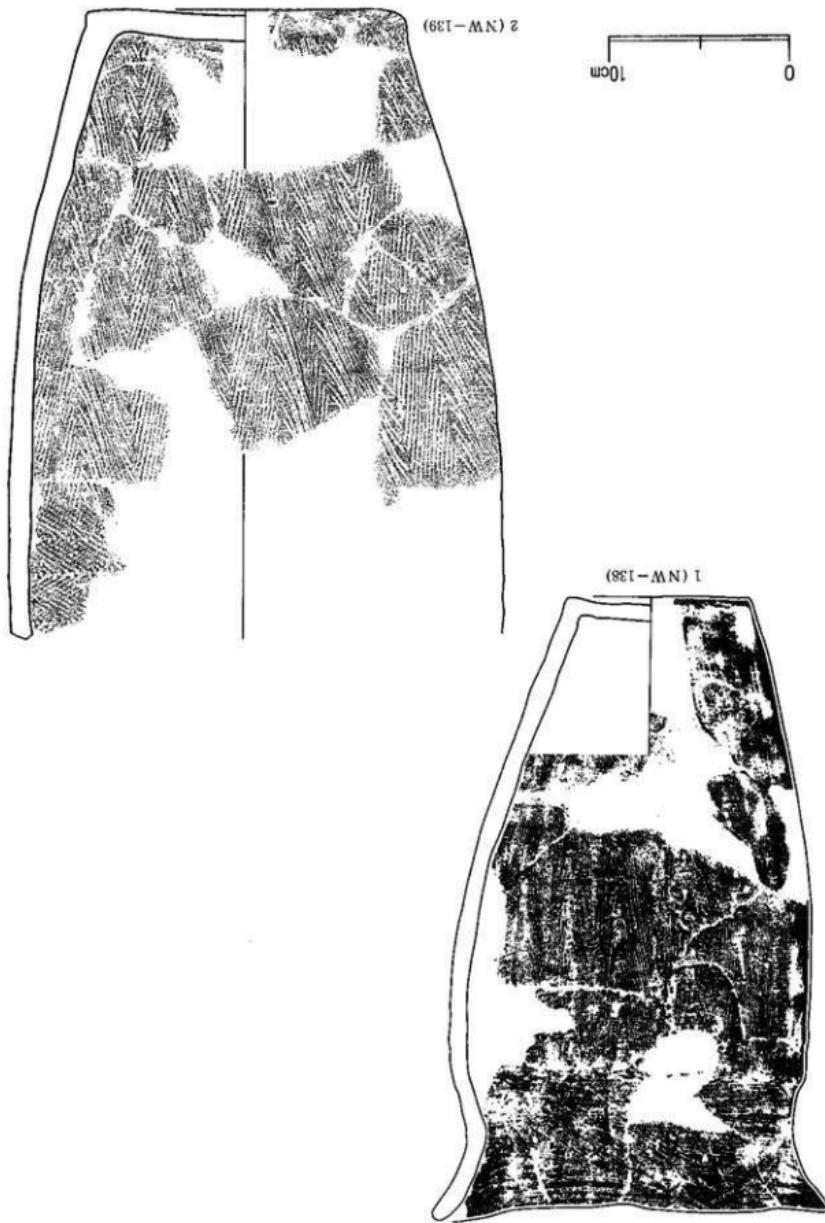


第452図 北西斜面捨て場Ⅱ層出土土器（3）

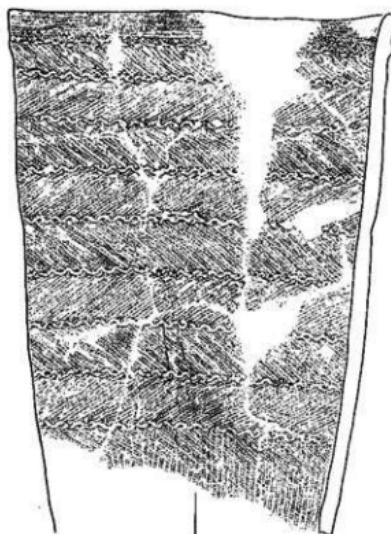


第453図 北西斜面捨て場Ⅱ層出土土器（4）

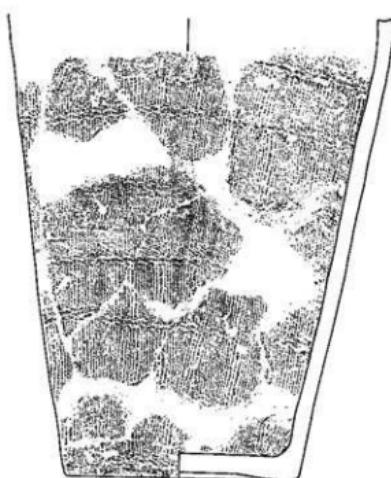
圖454 北西斜面捨(2號)II層出土玉器 (5)



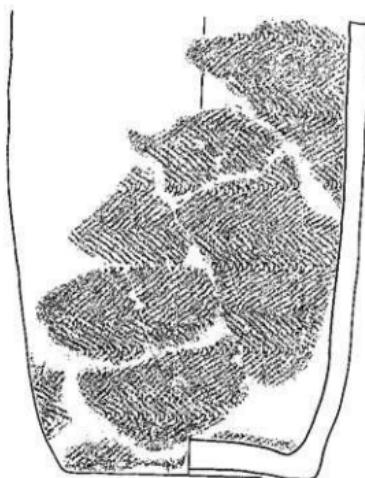
第3期 北西斜面捨(2號)



1 (NW-140)



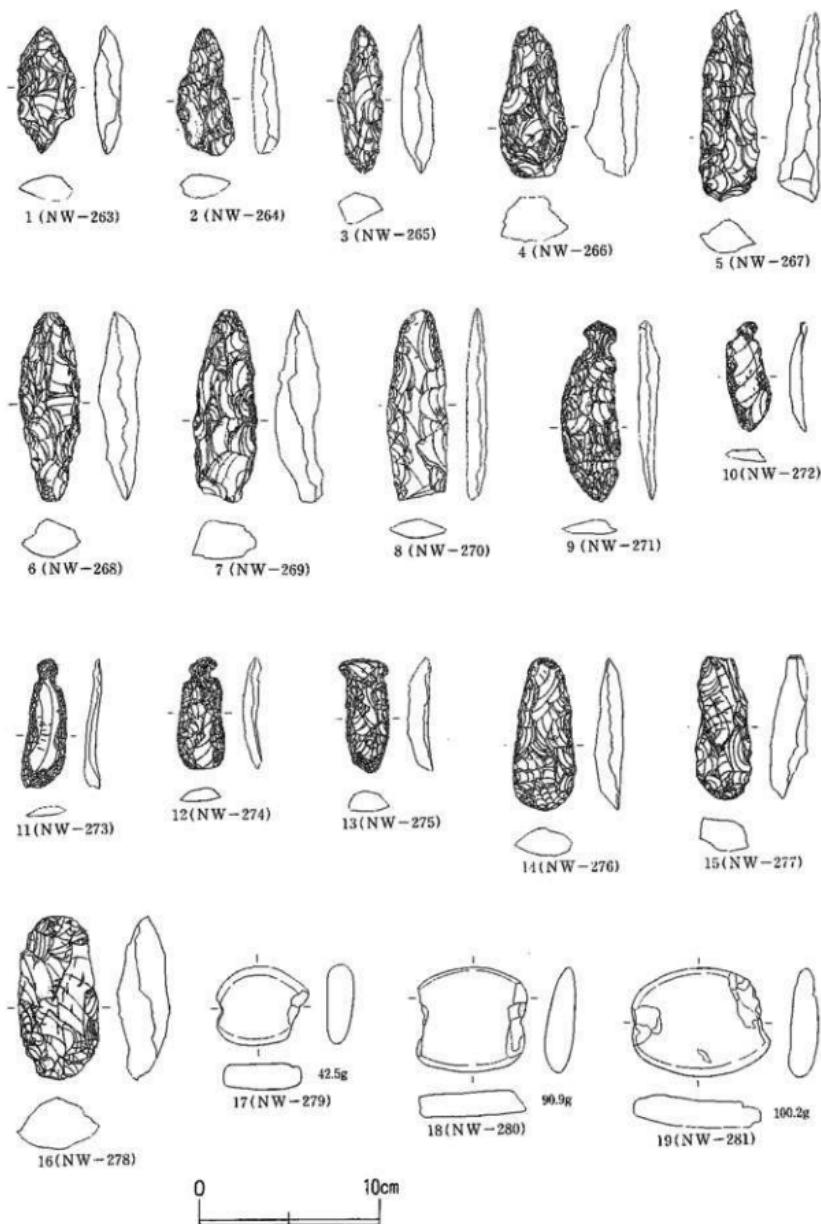
2 (NW-141)



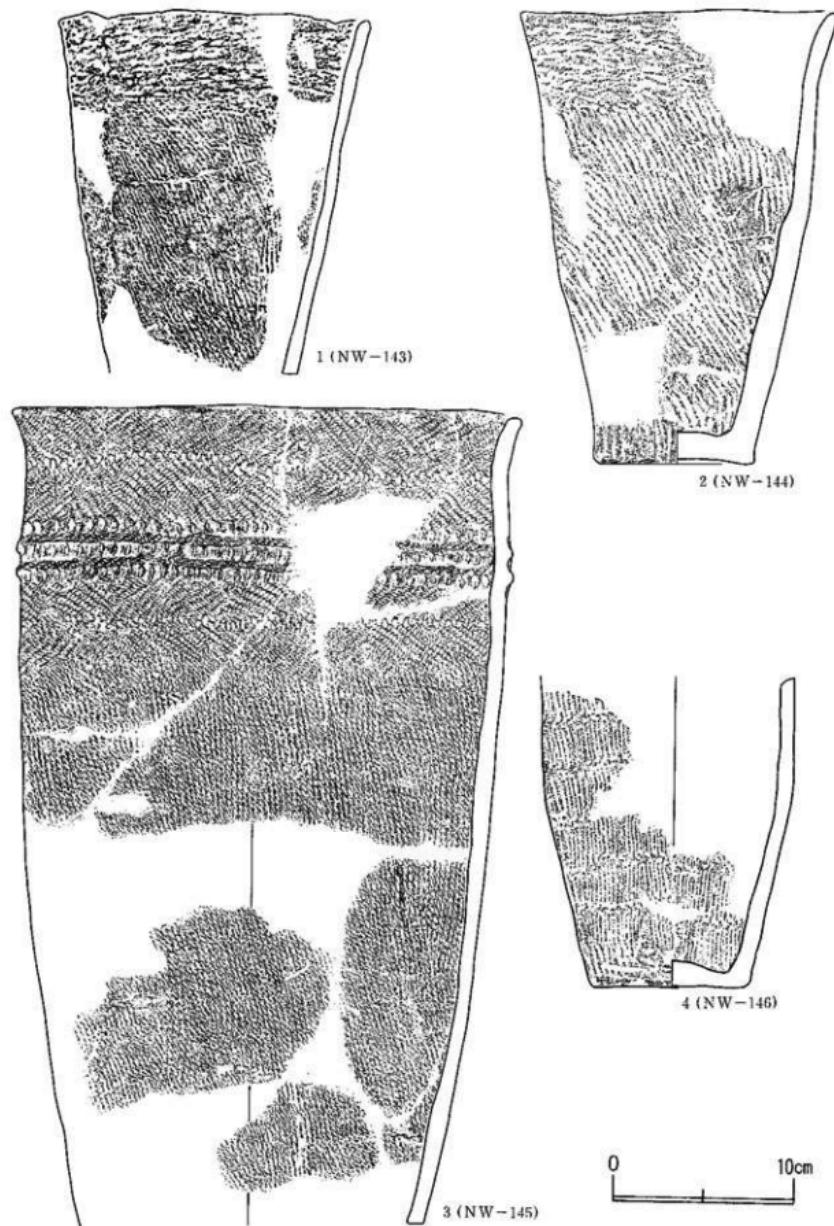
3 (NW-142)



第455図 北西斜面捨て場Ⅱ層出土土器（6）

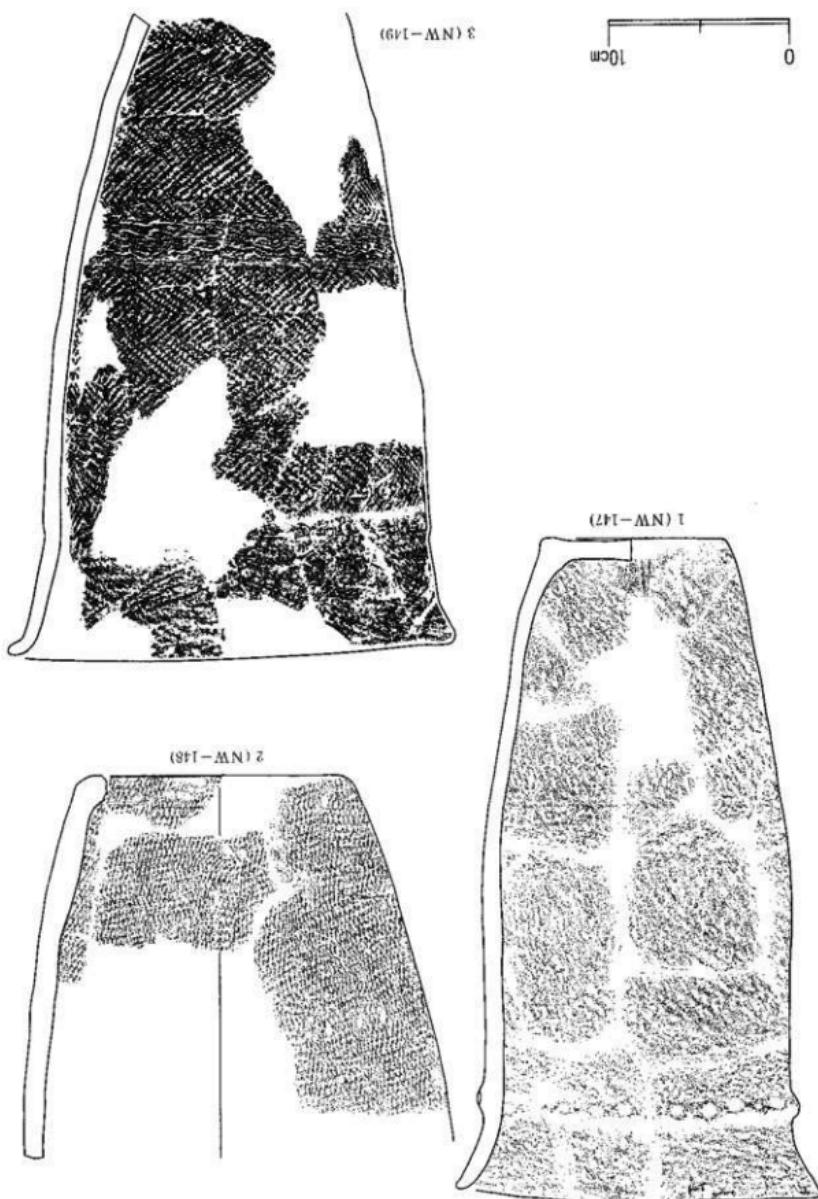


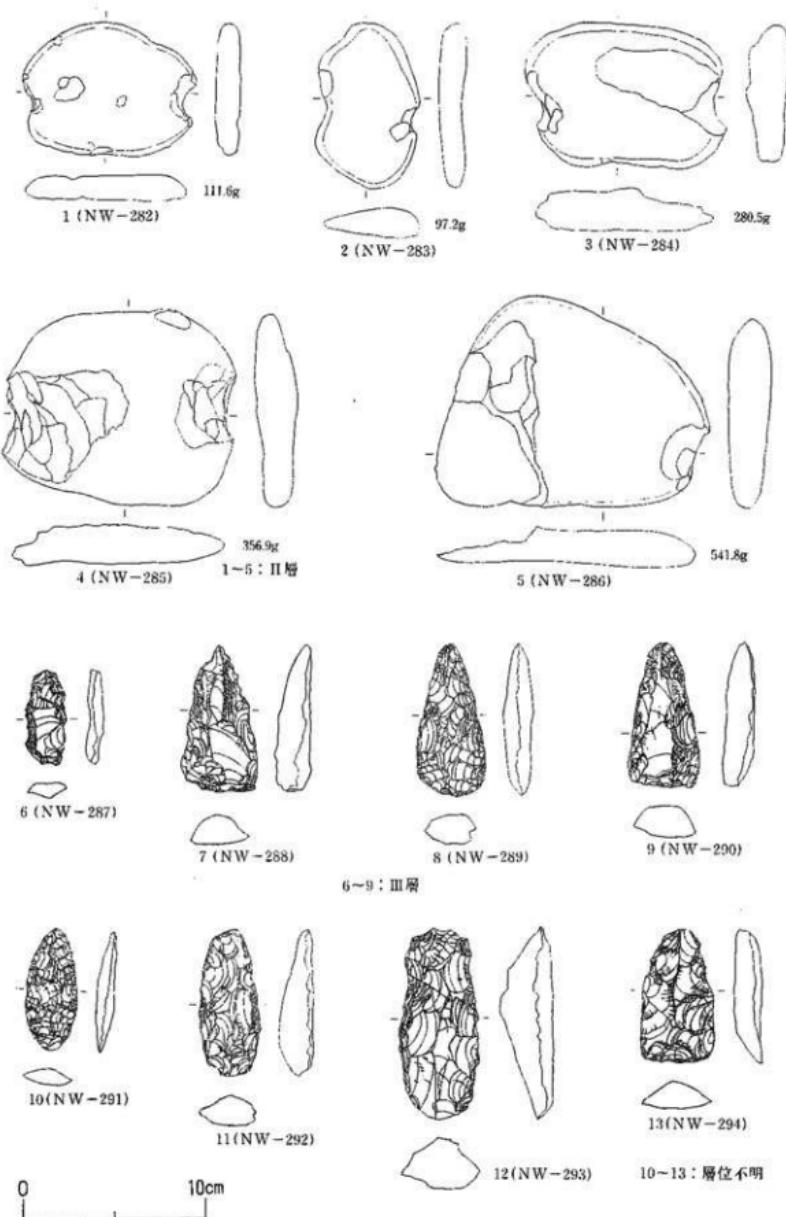
第456図 北西斜面捨て場Ⅱ層出土石器（1）



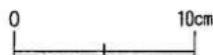
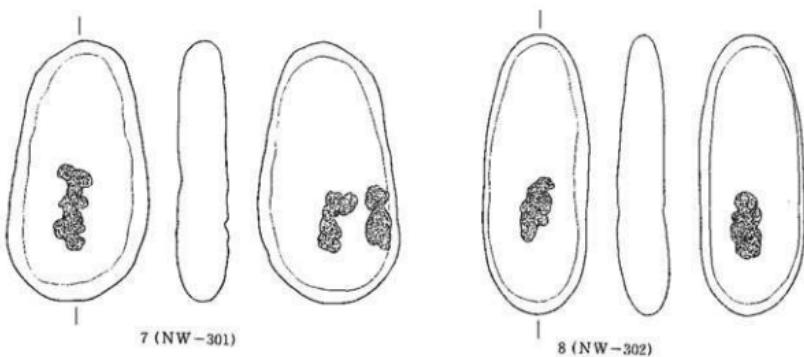
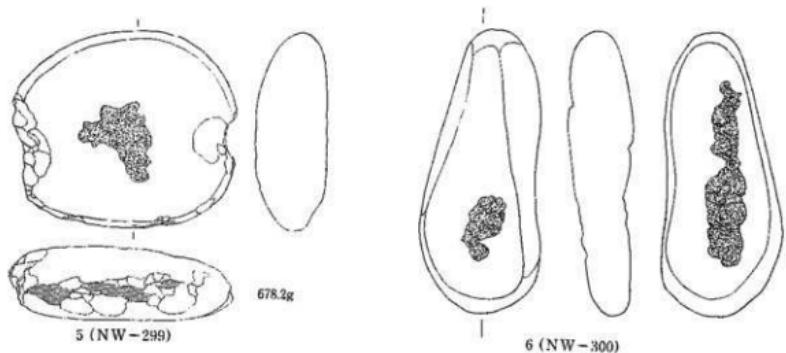
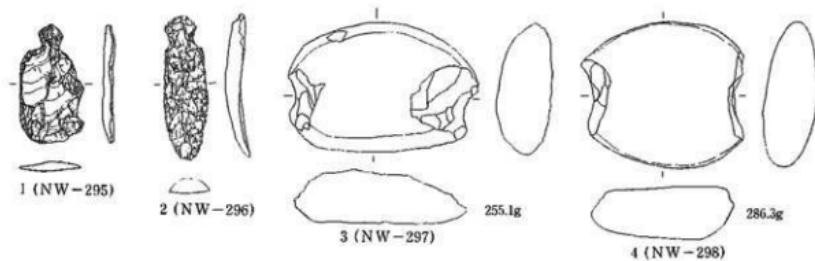
第457図 北西斜面捨て場Ⅲ層出土土器（1）

圖458 北西斜面墻上發現出土器物 (2)

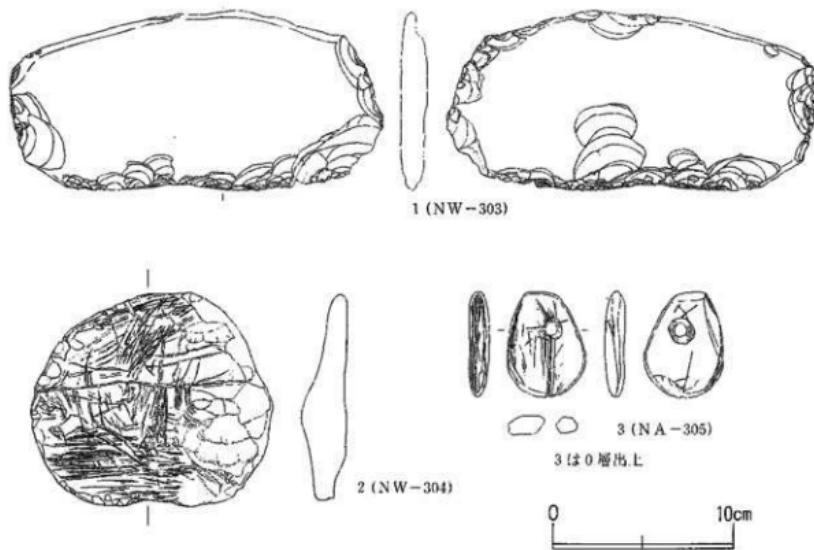




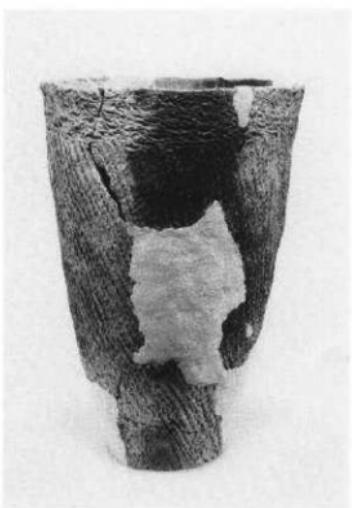
第459図 北西斜面捨て場Ⅱ層・Ⅲ層・層位不明出土石器（1）



第460図 北西斜面捨て場Ⅱ層・Ⅲ層・層位不明出土石器（2）



第461図 北西斜面捨て場 II層・III層・層位不明出土石器（3）



NW-20 (I層)



NW-30 (I層)



NW-123 (II層)



NW-29 (I層)

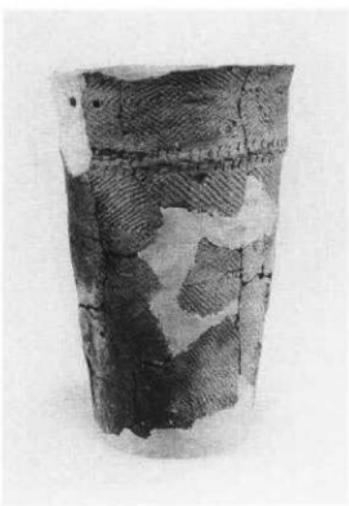
写真7 北西斜面捨て場出土土器



NW-33 (I層)



NW-127 (II層)

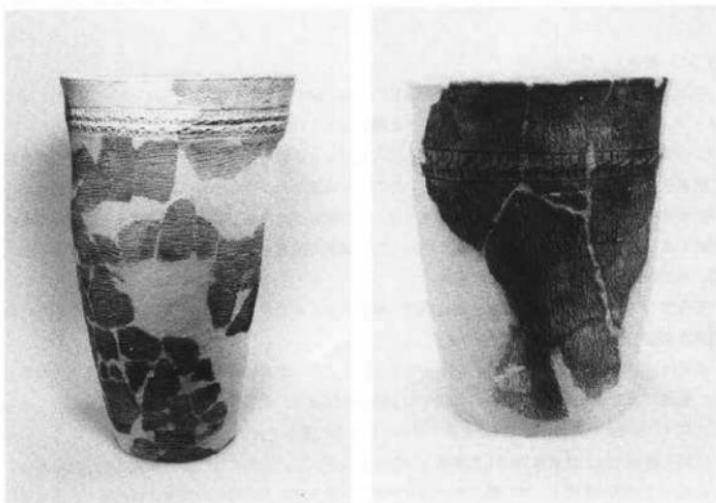


NW-60 (I層)

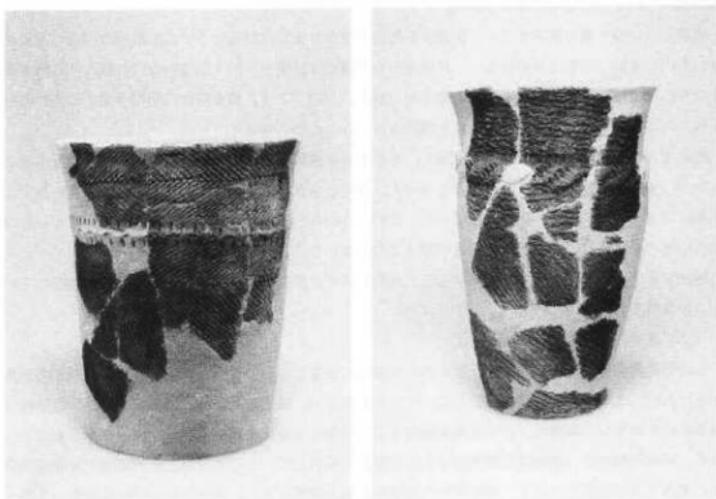


NW-69 (I層)

写真8 北西斜面捨て場出土土器



639-120 (Ⅲ層)



639-111 (Ⅲ層)

639-125 (Ⅲ層)

写真9 S T639谷捨て場出土土器

## 第4節 S T156谷の捨て場

### (1) 概要と土層堆積状況

平成4年度の発掘調査で、台地南西部のME75～78、MF75～81、MG77～81、MH76～79、MI76～79、MJ73～79、MK73・74のグリッドに隠れ谷S T156を検出した。

この隠れ谷は埋没後に古代の竪穴住居跡、柱穴様ピットが構築されており、竪穴住居跡等の精査後に黒褐色土を排除して初めて谷が埋没していたことを確認した。台地の平坦面の表土除去を統いて、斜面部分の表土除去をおこなっていた時点では、木の根による攪乱で黒褐色土が深く入っているとの判断であったとの、次年度調査区にまたがっており遺構の精査を優先せざるを得ない状況であったため、谷であるとの認識が遅れてしまった。

谷全容のプラン確認のないまま土層観察用の横断ベルトを設定したため、縦断ベルトについては調査区南側壁を代用せざるを得なかった。

谷尻は、崩落のため現地表面から約5m下がったところ（標高60m付近）までしか確認できなかつた。確認できた谷の規模は、現在の谷尻での上幅が約16mで、北東側に急上昇して約13m延び、さらに上幅4～5.6mで東北東側に向きを変えて16m緩やかに進んで谷頭となる。

土層の観察では、自然營力による堆積と判断できるが、谷の底面には不自然な大きな凹凸がある。この大きな凹凸の成因として、竪穴住居跡やプラスコ状土坑などが作られ廃棄された後で、雨水等による浸食から南西部側の地山に亀裂があり竪穴住居跡やプラスコ状土坑などの壁面も崩壊し、その一部が遺存したことによると考えられる。

堆積している土層を観察すると、谷頭から屈曲点あたりまでは黒褐色土に地山粒や地山塊の混入が多いだけで遺物の包含は見られない。屈曲点から下流には、焼土・灰・炭化物などの混入する層が多くなり、縄文時代前期中葉の遺物の包含も見られた。このことは、縄文時代の前期中葉には既に谷が形成されていたことと、その後それ以上開拓されなかつたことを示している。

遺物を包含した層は地山に近い堆積層と、その後の堆積層にも縄文時代前中期中葉の遺物の包含はあったが、後世の遺物の包含はほとんどなかつた。また、古代の降下火山灰を混入する層も見られず、上部には古代の竪穴住居が構築されていた。このことから、谷の堆積速度が早く、隠れ谷になったのは火山灰の降下以前、それも縄文時代中期までの間ということになる。

横断する土層断面図A-Bで観察すると、当初に谷の左岸側にあった谷底が、右岸側に移動していくことが解る。

### (2) 遺物の出土状況と取上げ方法

谷内の遺物出土状況図をみると、現在の谷尻部分に密集していることがわかる。台地先端部の崩落がなければ、さらにその範囲が広がっていたかもしれない。流路の変更とは関係なく継続的に遺物の廃棄が行われていた事実は、ここを廃棄場所として使用する世代を超えた了解があつたかとも考えられた。旧流路側では、遺物は谷頭方向から谷尻方向へ傾斜していたのに対し、新流路側では北西方向から南西方向へ傾斜しており、廃棄方向に微妙な差異が認められた。遺物の取上げは堆積層をI層～IV層と大区分したが、I層～III層が新流路堆積層となる。平面図に形を描き、層位を確認してからレベル計測した後、遺物番号を与えて収納した。

## (3) 第Ⅰ層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は56点(156-1~56)である。バケツ形を呈し、全面に縦絡文を施した土器(156-1)。バケツ形を呈し、口縁部に縦絡文を施した土器(156-2~9・12~14)であるが(156-12)は頸部に隆帯を巡らしている。バケツ形あるいはスマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口縁部と胴部中半下位に不整な縦絡文を施した土器(156-10・11・15)。スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、全面に撚糸文を施した土器(156-16~21)であるが原体の回転方向を変え口縁部文様帯を作出したもの(156-17・19)と、頸部に原体押捺(156-18)あるいは隆帯(156-21)で文様帯区画したものがある。(156-16)の口唇には指頭による圧痕が認められる。短い口縁部と頸部に幅が狭く突出する隆帯を巡らした土器(156-22~26)。短い口縁部の形状にはほぼ直立するものと外反するものがあり、また隆帯上の文様にも原体回転と指頭圧痕の2種が認められる。幅広な口縁部文様帯をもち指頭圧痕で飾った隆帯を1~2条巡らした土器(156-27~29)。(156-28)の口縁部文様帯には2条1組の原体による鋸歯文(連続山形文)が付加施文されている。頸部に指頭圧痕文を多段巡らした土器(156-30~32・35)。頸部に竹管文を1~2条巡らした土器(156-33・42)。頸部に爪形文を巡らした土器(156-36~40)。(156-40)は爪形文の上下に沈線を施している。頸部に原体押捺した隆帯を巡らした土器(156-41・44)。撚糸文施文後に口縁部と胴部下半に単節繩文を施した土器(156-43)。口縁部に羽状繩文を施し頸部に削り出しの低い隆帯を巡らした土器(156-45)。口縁部に羽状繩文を施し頸部に低く細い隆帯を巡らした土器(156-46)。口縁部に羽状繩文を施した土器(156-47)。胴部上半に単節繩文、下半に撚糸文を施した土器(156-48)。胴部上半に単節繩文を施文後口縁部に繩文原体を横走させた土器(156-49)。口縁部に回転繩文施文後頸部に単輪絡条体を3条押捺した土器(156-50)。やや広い口縁部文様帯に原体押捺で菱形文様を施した土器(156-51)。胴部に木目状撚糸文を施した土器(156-52~54)。幅の狭い口縁部に繩文原体を横走させ胴部に細かな羽状繩文を施した土器(156-55・56)がある。(156-55)の口縁部文様帯の下端には半截竹管の刺突列、(156-56)では網目状撚糸文の押捺がある。

② 石器 石槍11点(156-150~157)、石錐9点、石匙45点(156-158~165)、箒状石器20点(156-171~187)、削器132点(156-166~195)、搔器19点(156-196~207)、剥片石器20点、磨製石斧8点(156-208)、石鍤31点(156-209~223)、半円状扁平打製石器53点(156-231)、くぼみ石9点(156-224~229)、擦石5点、石皿4点、石棒1点、台石1点の368点が出土した。

③ 石製品等 浮子2点と刻線・点蹠2点(156-232・233)、円盤状石製品6点(156-230)、軟質蹠3点、自然蹠に穴の開いた有孔石3点、有溝蹠2点の18点が出土した。

## (4) 第Ⅱ層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は7点(156-57~63)である。バケツ形を呈し、口唇に指頭圧痕のある幅の狭い口縁部をもち頸部に幅が狭く突出する隆帯を巡らし全面に縦絡文を施した土器(156-57)。幅の狭い口縁部が大きく外反し、指頭圧痕で飾られ突出する1条の隆帯を巡らした土器(156-58)。全面に複節繩文を施した土器(156-59)。全面に撚糸文を施した土器(156-60)。スマートなバケツ風な器形を呈し、口縁部に縦絡文を施した土器(156-61)。スマートな逆ベル・ボトム風の器形で指頭圧痕で飾られ突出する2条の隆帯を巡らし、口縁部と胴部中半に不整な縦絡文を施した土器(156-62)。円筒形を呈し、4つの波状をもつ口縁部に繩文を、胴部には撚糸文を施し、

頸部に突出する細く小さな隆帯がつけられた土器（156-63）がある。

② 石器 石鏃1点、石槍2点（156-235）、石錐3点（156-234）、石匙19点（156-236・237）、箆状石器3点（156-243～245）、削器15点（156-238）、搔器4点（156-239～242）、剥片石器4点、磨製石斧3点（156-246）、石錘1点、半円状扁平打製石器10点、くぼみ石4点（156-247・248）、石皿1点、敲石3点の73点が出土した。

③ 石製品等 刻線礎1点、自然縁に穴の開いた有孔石2点、円盤状石製品1点、石核3点の7点が出土した。

#### （5）第Ⅲ層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は18点（156-64～82）である。回転方向を変えた同一原体で口縁部と胴部の文様帯を作出した土器（156-64～66・68）で、（156-64）は口縁が内湾する。逆ベル・ボトム風の器形を呈し、全面に撚糸文を施文した後口縁部に綾絡文を施文した土器（156-67）。口縁部と胴部中間に不整な綾絡文を施文した土器（156-69～70）。バケツ形を呈し、複節繩文を施文した土器（156-71～73）。スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、全面同一文様の土器（156-74）。胴膨らみで口唇に指頭圧痕の巡り外反する短い口縁部をもち、頸部に繩の押捺された隆帯を巡らした土器（156-75）。頸部に爪形文で飾った隆帯を2条巡らし、その上下、条間にも爪形文を施文した土器（156-76～78）。（156-77）では隆帯上に横方向の爪形文を充填している。幅の狭い口縁部を横走する押捺繩文で飾った土器（156-77）。胴部下半に網目状撚糸文を施文した土器（156-80）。スマートなバケツ形を呈し、細かい羽状繩文を施文した土器（156-81）。口縁部に羽状繩文その下位に繩を1条押捺施文した土器（156-82）がある。

② 石器 石槍8点（156-249～256）、石錐6点、石匙30点（156-257～259）、箆状石器6点（156-260～263）、削器26点（156-264～271）、搔器5点、剥片石器1点、磨製石斧3点、石錘8点（156-272～277）、半円状扁平打製石器19点、くぼみ石7点（156-278～284）、石皿1点、ベンガラの付着した礎3点の123点が出土した。

③ 石製品等 円盤状石製品2点が出土した。

#### （6）第Ⅳ層から出土した遺物

① 土器 復元できた土器は21点（156-83～104）である。バケツ形を呈し、無文の土器（156-83）。バケツ形あるいは円筒形を呈し、口縁部に綾絡文を施文した土器（156-84～90・92）。全面撚糸文を施文し胴部上半に2条の刺突痕列のある土器（156-91）。底部外面に繩の圧痕がある。回転方向を変えた同一原体で口縁部と胴部の文様帯を作出した土器（156-93）。バケツ形あるいは逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口縁部と胴部中半下位に不整な綾絡文を施文した土器（156-94～97）。（156-94）には底辺部にも綾絡文の施文が見られる。スマートなバケツ形を呈し、全面に単節繩文を施文し、口辺に2条の繩の押捺が見られる土器（156-98）。スマートな逆ベル・ボトム風の器形を呈し、口唇を指頭圧痕で飾り、単節繩文の施文されている底辺部を除き撚糸文を施文した土器（156-99）。胴部のやや膨らむ逆ベル・ボトム風の器形を呈し、頸部に指頭圧痕で飾った低い隆帯を1～2条巡らした土器（156-100～101）。頸部に指頭圧痕で飾った隆帯を2条巡らし、その上下、条間にも指頭圧痕を施文した土器（156-102）。短い口縁部が大きく外反し、頸部に指頭圧痕で飾った低く突出する隆帯が1条巡る土器（156-103）。幅の広い口縁部をもち幅広く低い陸帯が巡る土器（156-104）。

② 石器 石鏃1点(156-285)、石槍7点(156-286~299)、石錐9点(156-300~303)、石匙20点(156-304~307)、範状石器3点(156-312~315)、削器36点(156-310・311)、搔器4点(156-308~309)、剥片石器1点(156-316)、磨製石斧2点、石錘17点(156-321~332)、半円状扁平打製石器17点(156-333)、くぼみ石7点(156-319・320・331複合石器)、擦石2点(156-317・318)、石皿2点、敲石1点(156-317複合石器)の130点が出土した。

③ 石製品等 刻線礫1点、軟質礫1点、自然礫に穴の開いた有孔石1点が出土した。

(7) 土層ベルトで層位毎に採取した遺物

第5層出土 削器1点。

第9層出土 石錘1点(156-344)。

第10層出土 土器(156-105)はバケツ形を呈し、全面燃糸文の土器。石匙2点。搔器1点(156-342)。石錘1点(156-344)。半円状扁平打製石器1点。

第11層出土 土器(156-106)はバケツ形を呈し、口縁部に羽状繩文、胸部に燃糸文を施文した土器。搔器1点。削器1点(156-334)。磨製石斧1点。石皿1点。

第12層出土 半円状扁平打製石器1点。

第16層出土 石匙1点。

第19層出土 剥片石器1点。磨製石斧1点。

第20層出土 石匙1点。

第21層出土 石槍1点。削器1点(156-337)。

第22層出土 削器1点。

第23層出土 石匙1点。

第24層出土 削器1点。

第25層出土 土器(156-107)は口縁部に単節繩文、胸部に燃糸文を施文した浅鉢形土器。

第28層出土 石槍1点。

第29層出土 石匙1点。

第32層出土 石匙1点。

第35層出土 削器1点。

第40層出土 石匙1点。

第42層出土 土器(156-108)は頸部に指頭圧痕で飾った低い隆帯が1条巡り、幅広な口縁部には羽状繩文、胸部には燃糸文を施文した土器。石匙1点(156-337)。半円状扁平打製石器1点。

第45層出土 削器1点。半円状扁平打製石器1点。

第46層出土 削器1点。半円状扁平打製石器2点。

第47層出土 土器(156-109)は頸部に低い隆帯が巡り、幅広な口縁部には単節繩文、胸部には燃糸文を施文した土器。搔器1点。

第48層出土 土器(156-110)は円筒形を呈し、外反する口縁部と胸部下半には綾絡文、胸部上半には燃糸文を施文した土器。削器1点。

第49層出土 削器1点。

第48+51層出土 土器(156-111)はスマートなバケツ形を呈し、頸部に細く低い2条の隆帯を巡

らし、隆帯の上下と条間に爪形文を施文した土器で、外反する口縁部と胴部上半には羽状繩文、以下には撲糸文を施文している。

第53層出土 土器（156-112）はスマートなバケツ形を呈し、口唇に刻み目をもつ口縁部には羽状繩文、胴部には撲糸文を施文した土器。（156-113）はスマートなバケツ形を呈し、頸部に細く低い2条の隆帯を巡らし、隆帯の上下と条間に爪形文を施文した土器で、外反する口縁部と胴部上半には羽状繩文、以下には撲糸文を施文している。第48+51層出土の土器（156-111）と同一器形・同一文様構成である。半円状扁平打製石器1点。

第54層出土 篦状石器1点。

第55層出土 石槍2点（156-340）。石匙1点。篦状石器1点（156-338）。削器3点。剥片石器1点。石錘1点（156-347）。くぼみ石1点（156-350）。半円状扁平打製石器1点（156-351）。

第56層出土 削器2点。剥片石器1点。半円状扁平打製石器1点。

第57層出土 くぼみ石1点。

第60層出土 半円状扁平打製石器1点。

第61層出土 石匙2点。削器1点（156-336）。

第64層出土 土器（156-114）はスマートなバケツ形を呈し、口縁部に綾格文、胴部に撲糸文を施文した土器。石匙1点。削器2点。

第65層出土 土器（156-115）はスマートなバケツ形を呈し、口縁部に単節繩文、胴部に撲糸文を施文した土器。削器1点。磨製石斧1点。石皿1点。軟質礫1点。自然礫に穴を開いた有孔石1点。半円状扁平打製石器2点。

第68層出土 土器（156-116～118）は口縁部に綾格文、胴部に撲糸文を施文した土器である。石錐1点。篦状石器1点（156-339）。削器8点。搔器2点（156-341・343）。石錘1点（156-346）。くぼみ石1点（156-349）。半円状扁平打製石器1点。敲石1点。円盤状石製品1点（156-354）。軟質礫1点。

第69層出土 石槍1点。削器1点。半円状扁平打製石器1点。

第70層出土 削器1点。半円状扁平打製石器2点（156-352）。

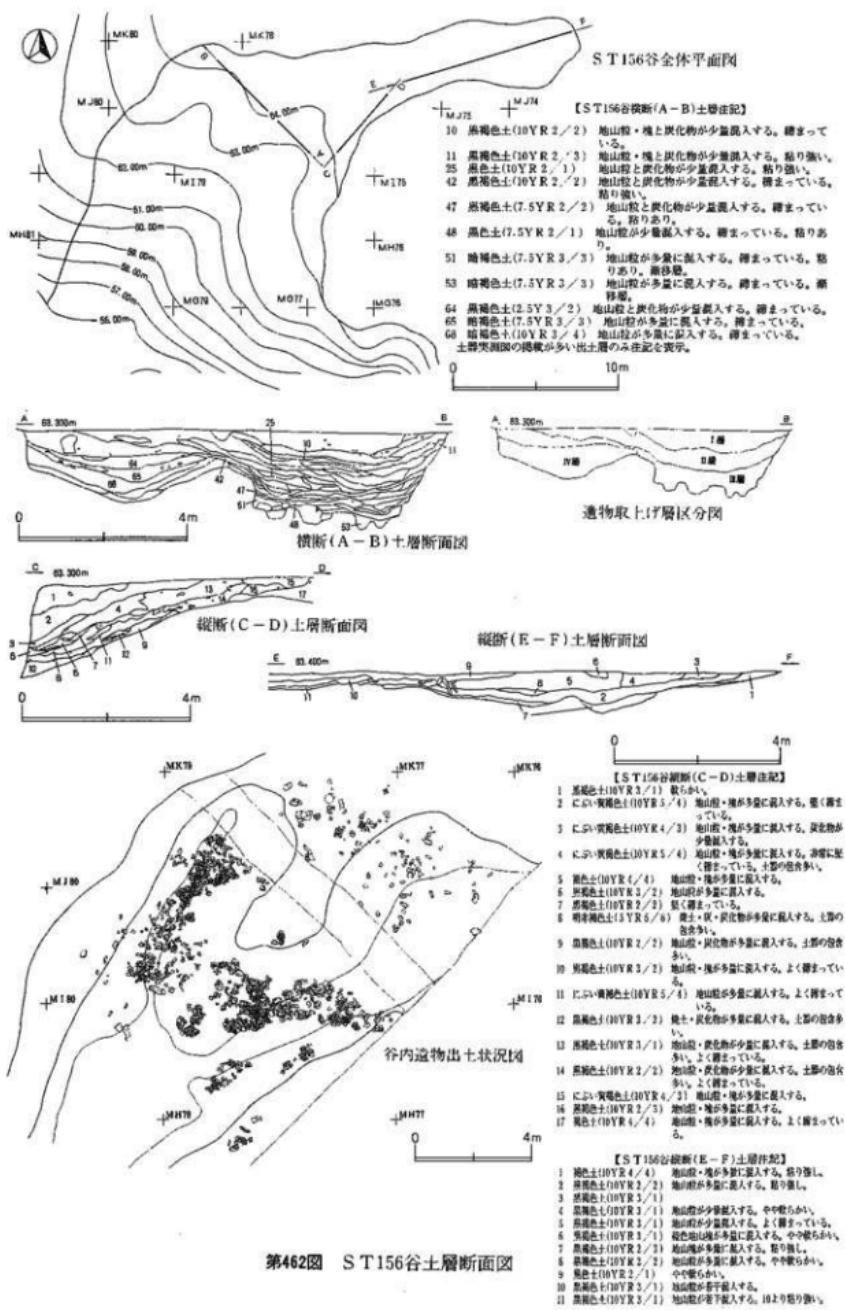
#### （8）一括採取（層位不明）の出土遺物

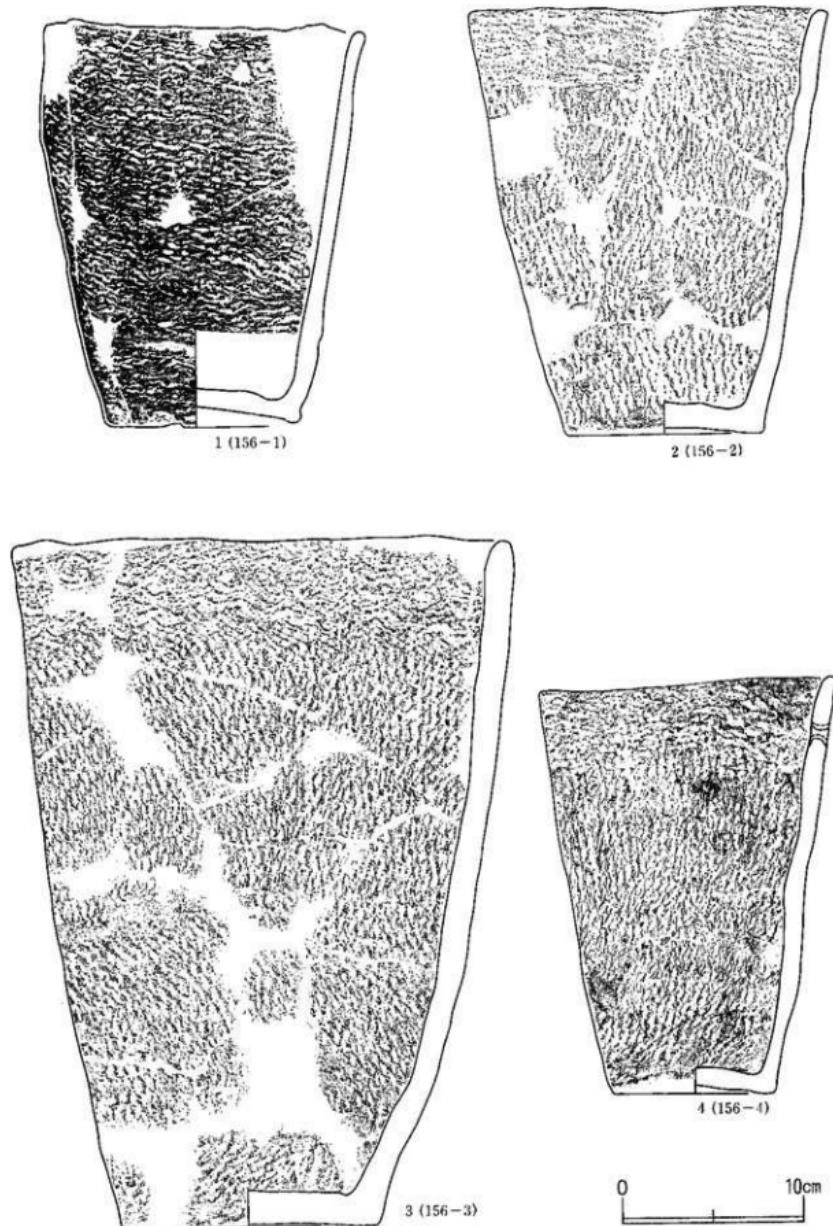
① 土器 復元できた土器は29点（156-119～148）である。バケツ形あるいは円筒形を呈し、口縁部に綾格文、胴部に単節繩文を施文した土器（156-119）。（156-119）は口唇に刻み目をもつ。口縁部に綾格文、胴部に撲糸文を施文した土器（156-120～124・128）。（156-120）の底部外面には縄の圧痕が見られる。円筒に近いバケツ形あるいは円筒形を呈し、全面に撲糸文を施文した土器（156-125～127・129・133）。胴の膨らむ円筒形を呈し、口縁部と底辺部に綾格文、胴部に撲糸文を施文した土器（156-130）。胴の膨らむスマートな円筒形を呈し、口縁部と胴部中半下位に綾格文、胴部に撲糸文を施文した土器（156-130）。胴の膨らむスマートな円筒形を呈し、口縁部に楕円形の押捺（刺突）列文、胴部に撲糸文を施文した土器（156-132）。バケツ形あるいは円筒形を呈し、回転方向を変えた同一原体で口縁部と胴部の文様帶を作出した土器（156-134・135）。幅の狭い口縁部が大きく外反し頸部に指頭圧痕で飾った太く突出する隆帯が1条巡る土器（156-136）。頸部に、横走する爪形文で飾った細く低い1条の隆帯を巡らして文様区画し幅広い口縁部には単節繩文、胴部には撲

糸文を施文した土器（156-137）。隆帯の上下にも爪形文を施文している。幅の狭い口縁部がわずかに外傾し、頸部に3段の指頭圧痕で飾った隆帯が1条巡る土器（156-136）。口縁部と胴部中半に不整な綾絡文を施文している。頸部に、爪形文で飾った細く突出する1条の隆帯を巡らし全面に単節繩文を施文した土器（156-139）。条間と上下を爪形文で飾った2条の細く低い隆帯を頸部に巡らし口縁部と胴部上半には羽状繩文、以下には撚糸文を施文した土器（156-140）。上下と上部を爪形文で飾った低い隆帯を頸部に巡らし口縁部に綾絡文、胴部に撚糸文を施文した土器（156-141）。頸部に3条の繩の押捺で飾った低い隆帯を巡らし、全面に単節繩文を施文した土器（156-142）。胴の膨らむ逆ベル・ボトム風の器形で幅の広い口縁部が外傾し、頸部に繩を押捺した太く突出する隆帯を1条巡らした土器（156-143）で、口縁部と隆帯下方および胴部中半下位に綾絡文を、胴部には撚糸文を施文している。スマートな逆ベル・ボトム風の器形で、幅の狭い口縁部が外反し頸部に撚糸文で飾った太く低い隆帯を1条巡らした土器（156-143）で、口縁部と胴部中半および底辺部に綾絡文を、胴部には撚糸文を施文している。円筒形を呈し、全面に撚糸文を施文したあと口縁部に2条の繩の側面圧痕を施文した土器（156-145）。円筒形を呈し、頸部に繩の側面圧痕を施文した隆帯を1条巡らした土器（156-146）で、口縁部に綾絡文を、胴部には撚糸文を施文している。円筒形を呈し、頸部に細く突出する隆帯が1条巡り、幅の広い口縁部には数条横走する繩の圧痕と垂下する3条の繩の圧痕が施文されている土器（156-148）で、胴部には単節繩文を施文している。

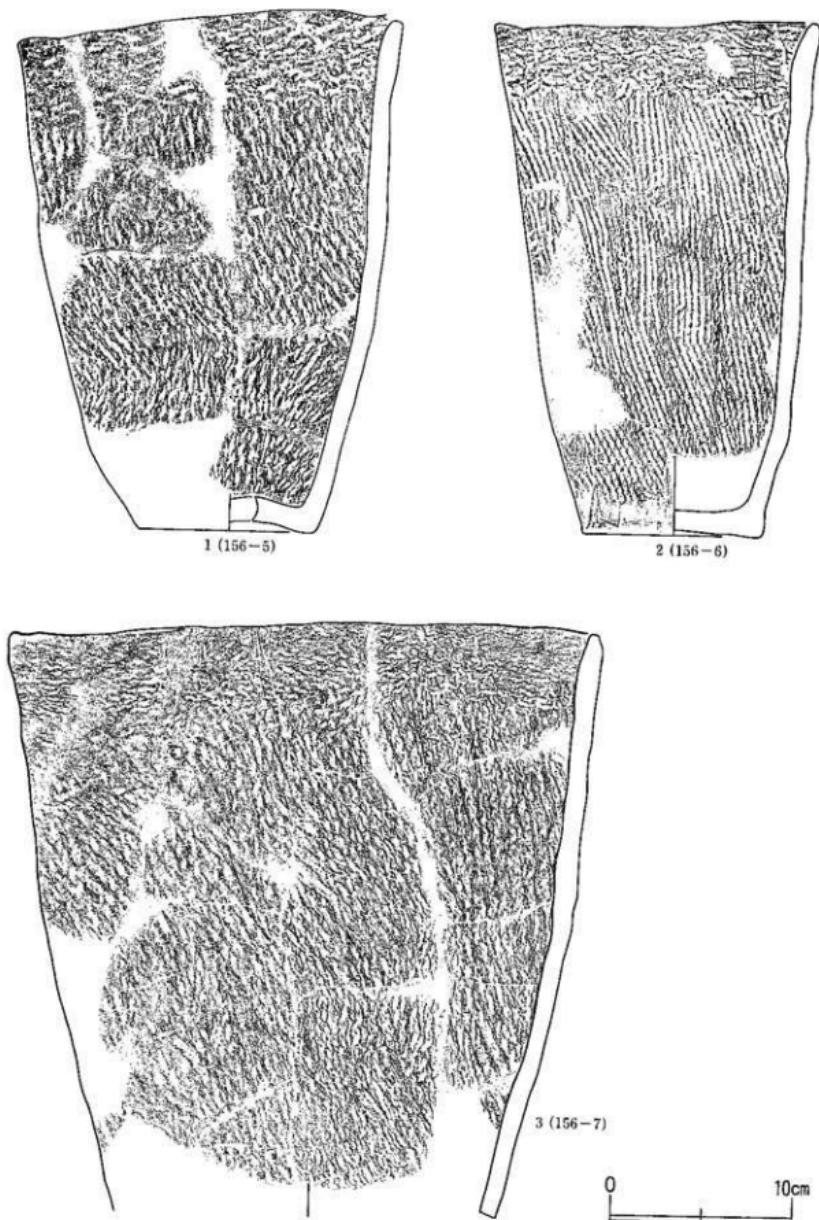
② 石器 石鏃2点、石槍1点、石錐5点、石匙5点、寬状石器1点、削器15点、搔器3点、剥片石器1点、磨製石斧5点、石錘5点、半円状扁平打製石器20点、くぼみ石2点、石皿2点、敲石3点、台石1点が出土した。

③ 石製品等 浮子3点と刻線礫5点、軟質礫6点、円盤状石製品2点が出土した。





第463図 ST156谷 I 層出土土器 (1)



第464図 ST156谷I層出土土器（2）

圖465 S T156各I層出土土器 (3)

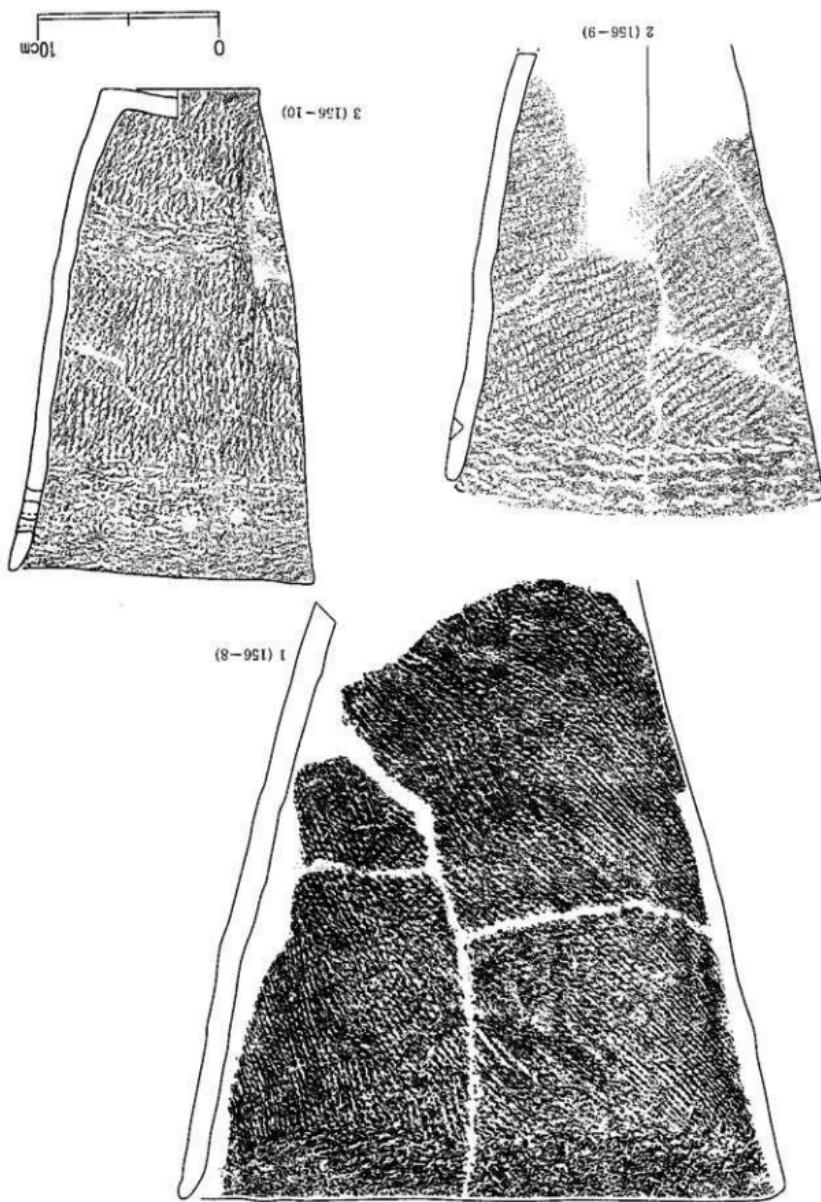
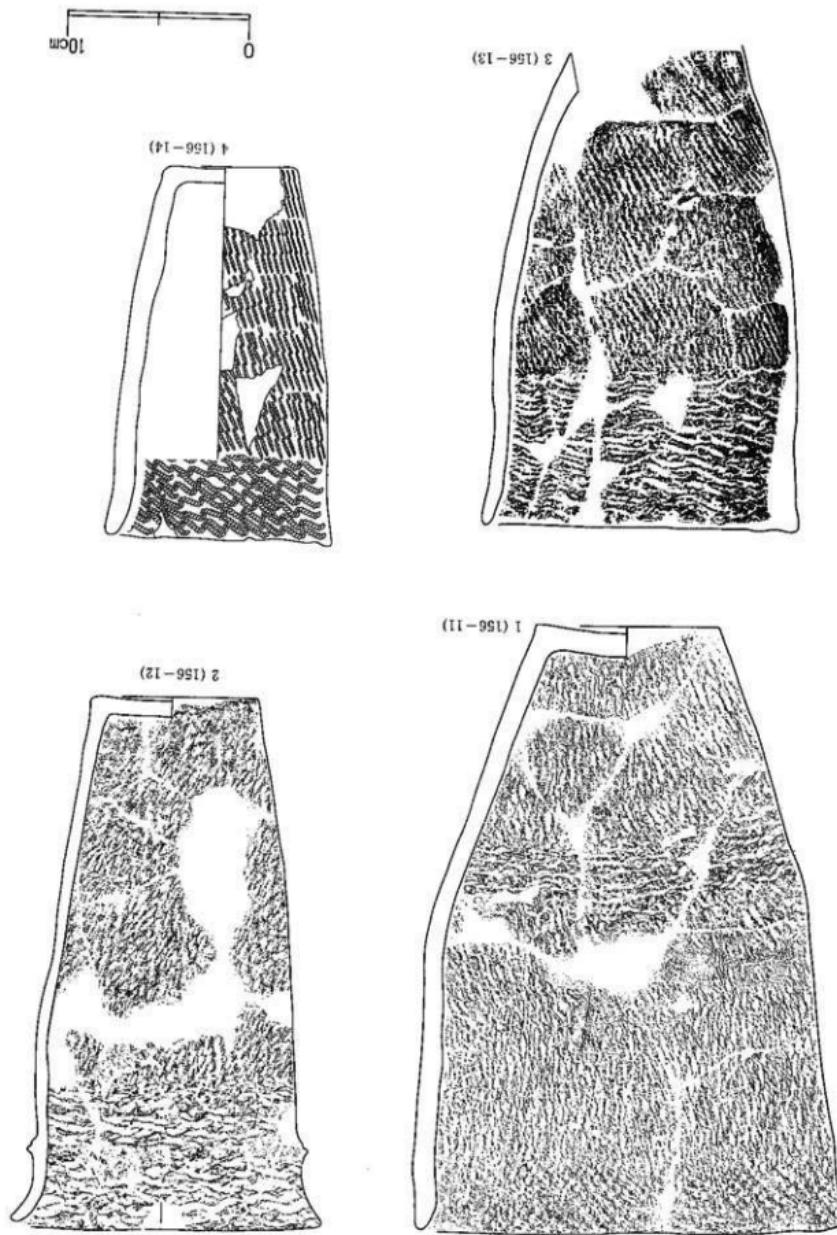


圖466 S T156各I層出土陶器

第466圖 S T156各I層出土土器(4)



第467圖 ST156号 I層出土土器 (5)

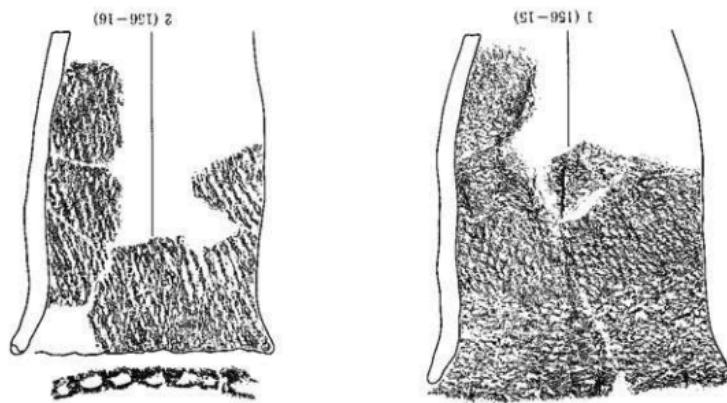
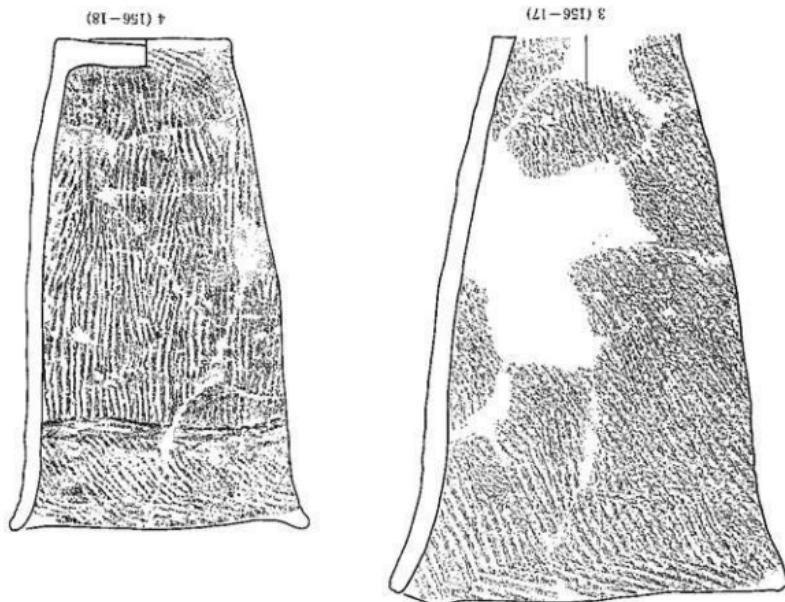
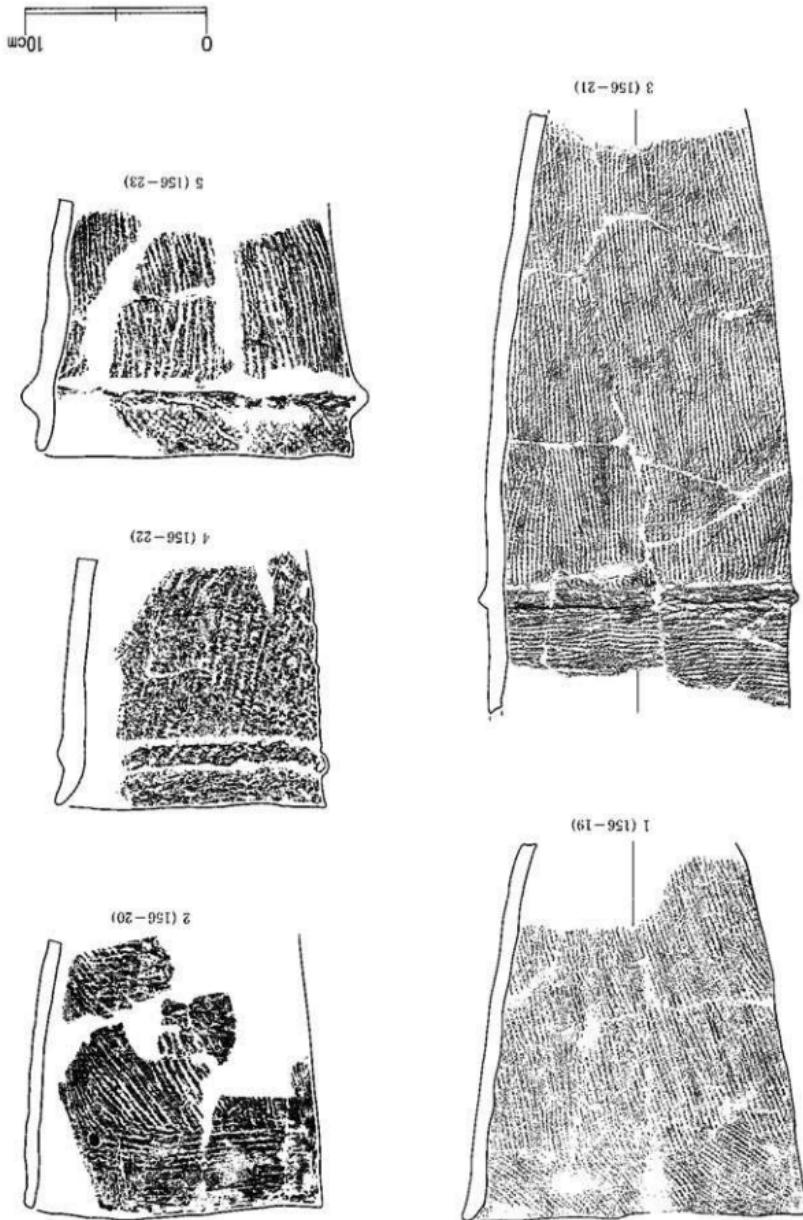
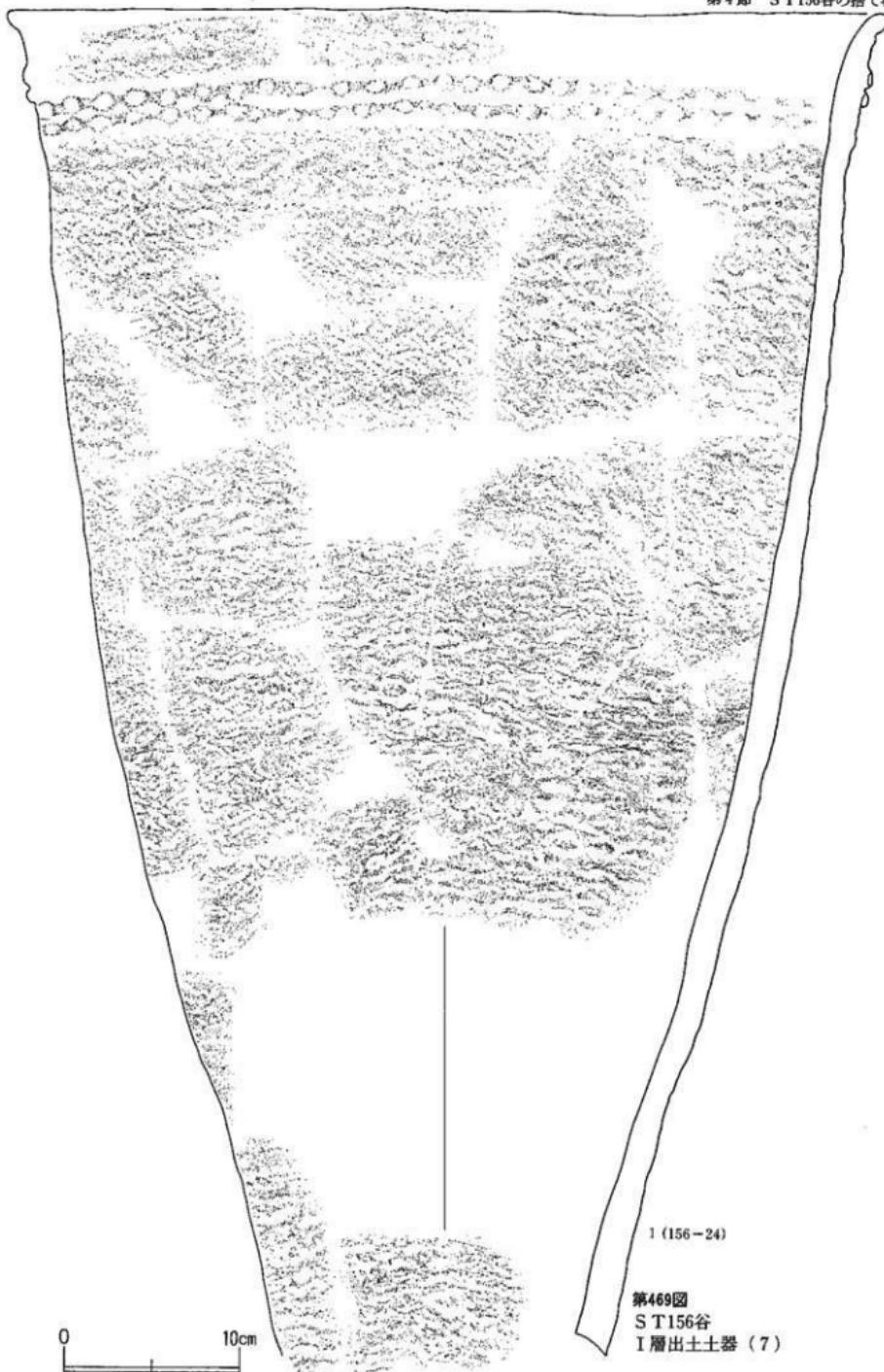
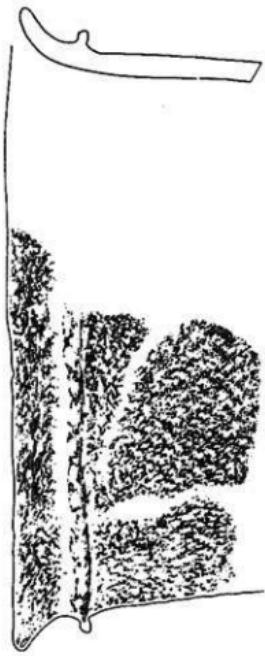


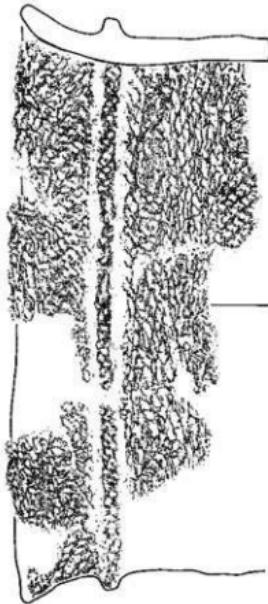
圖468 圖 ST156件 I層出土土器 (6)



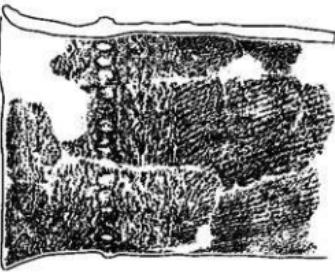




1 (156-25)



2 (156-26)



3 (156-27)

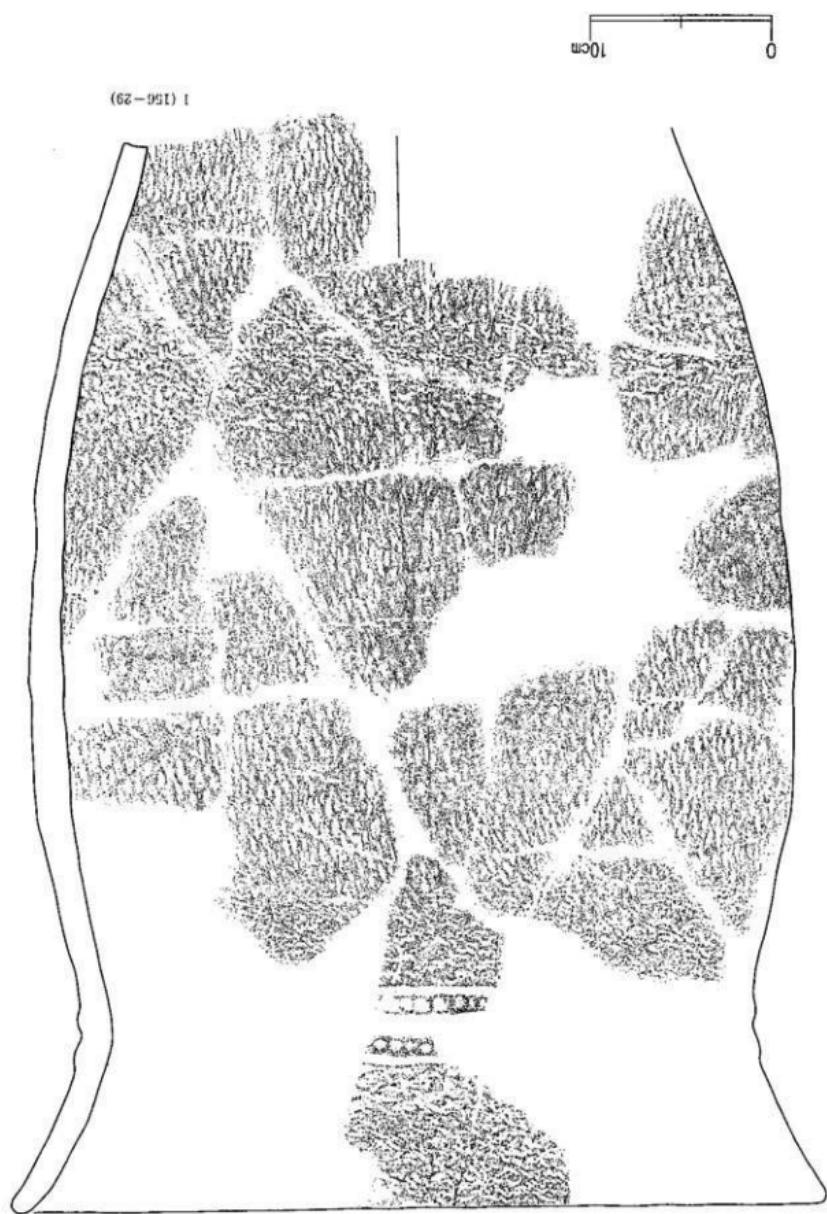


4 (156-28)



第470図 ST156谷Ⅰ層出土土器 (8)

第471圖 ST156号 I型出土玉器 (6)



第472圖 ST156号 I型出土玉器 (7)

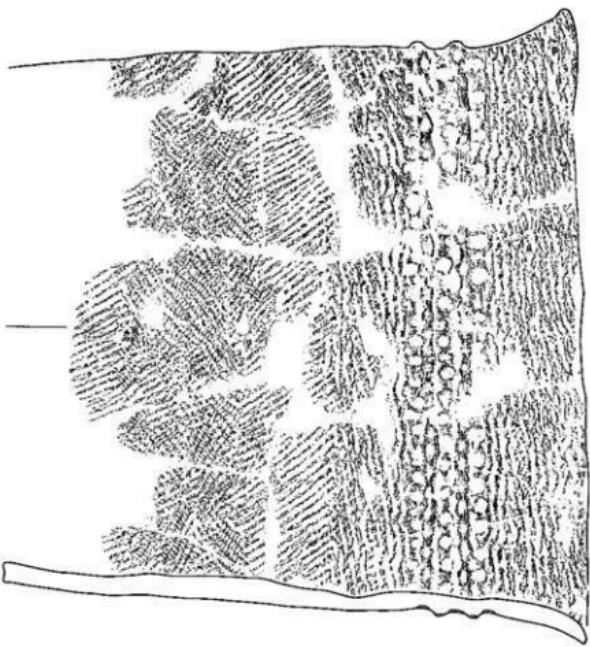
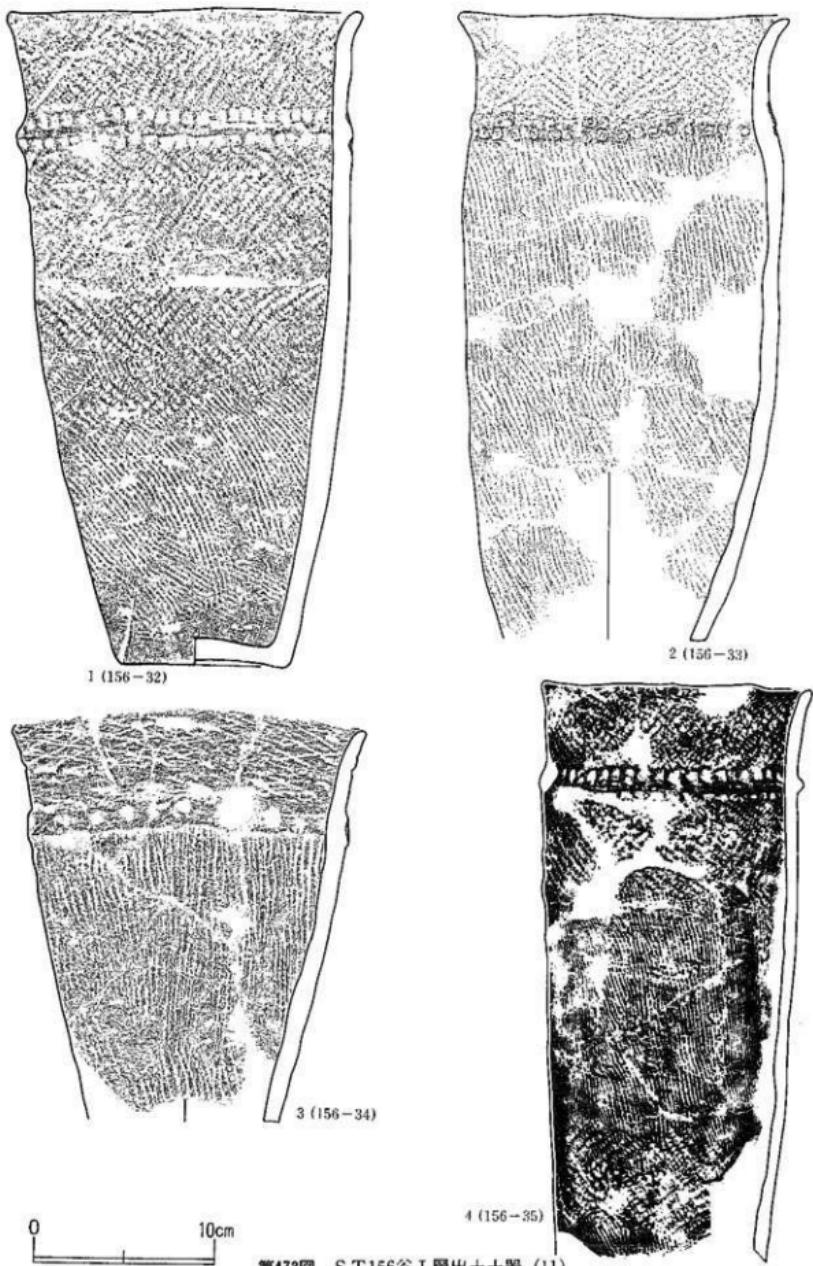
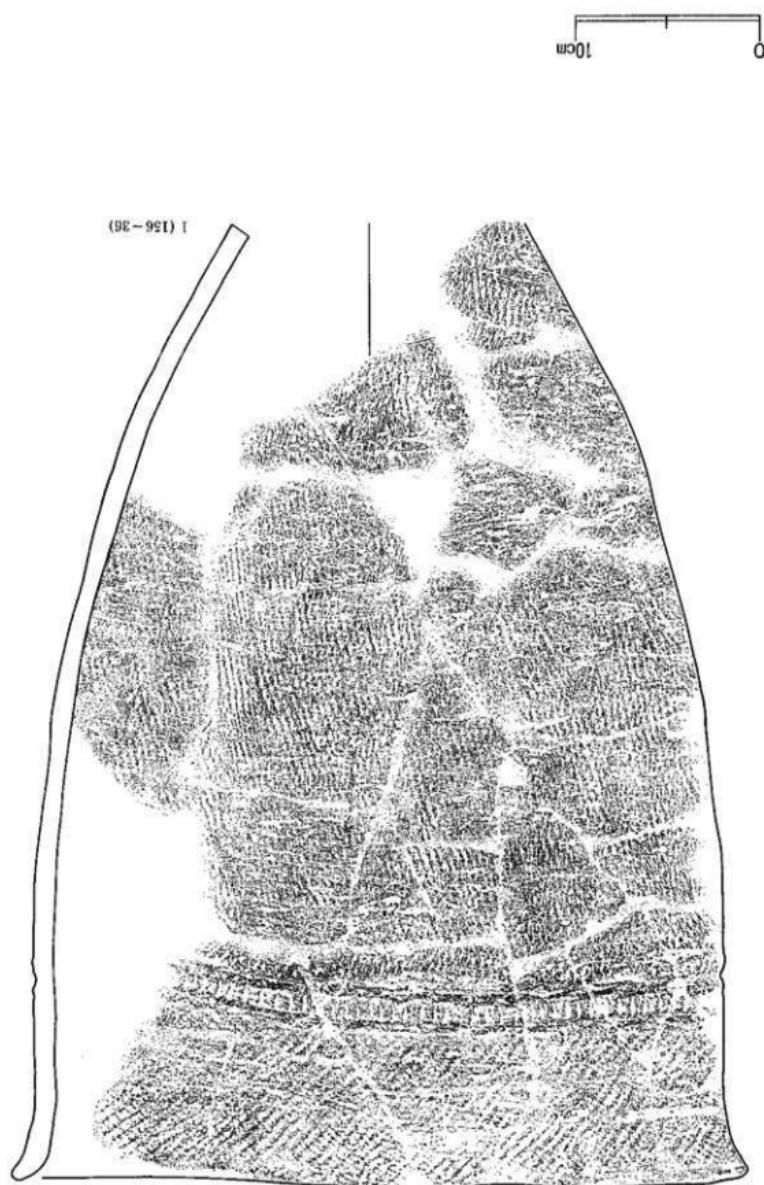


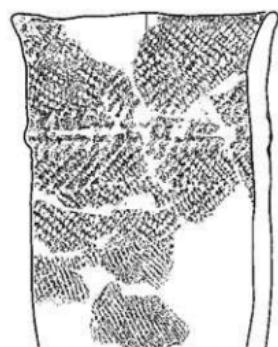
図472 ST156谷I層出土土器 (10)



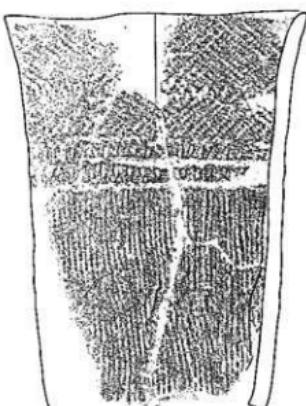
第473図 ST156谷 I 層出土土器 (11)

第474図 ST156号 I層出土土器 (12)

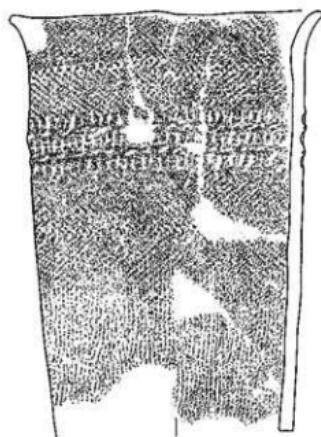




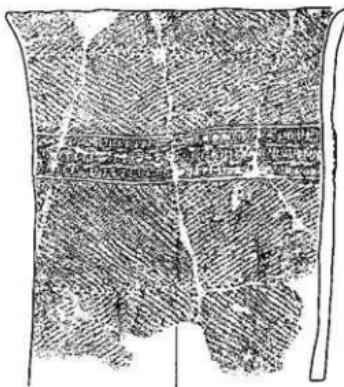
1 (156-37)



2 (156-38)



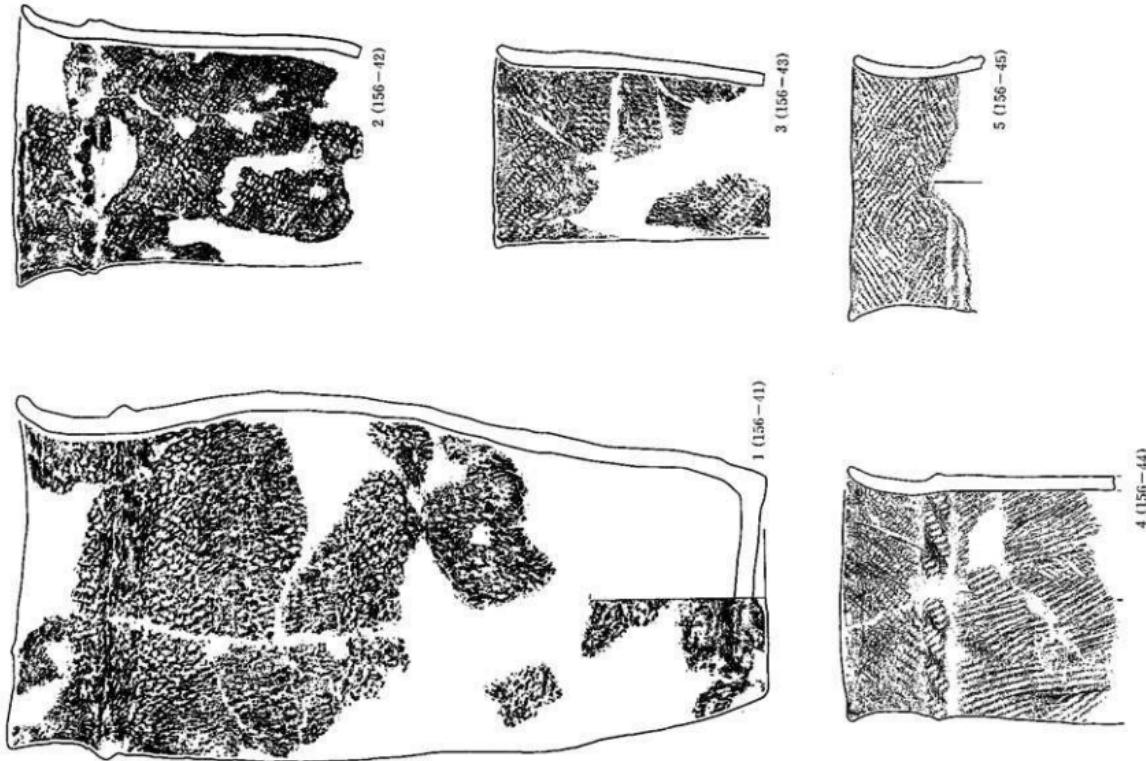
3 (156-39)



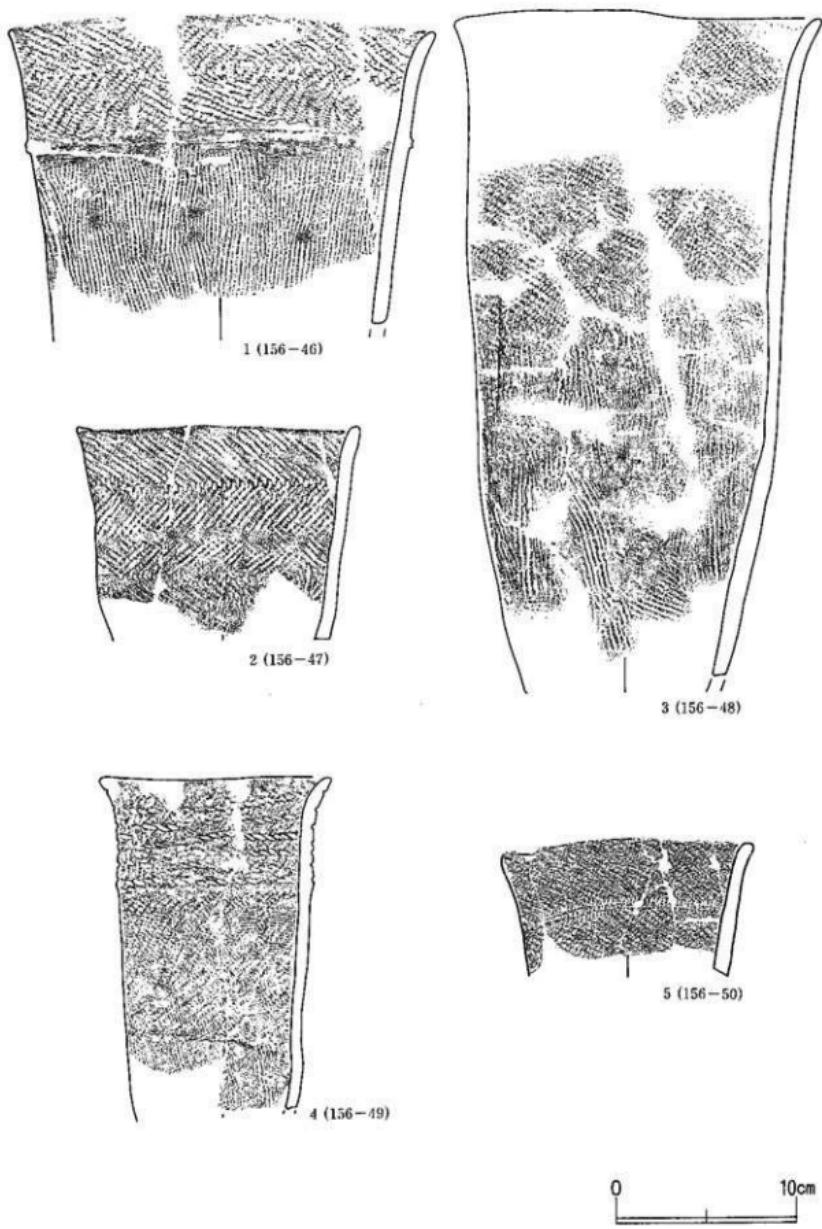
4 (156-40)



第475図 ST156谷 I層出土土器 (13)

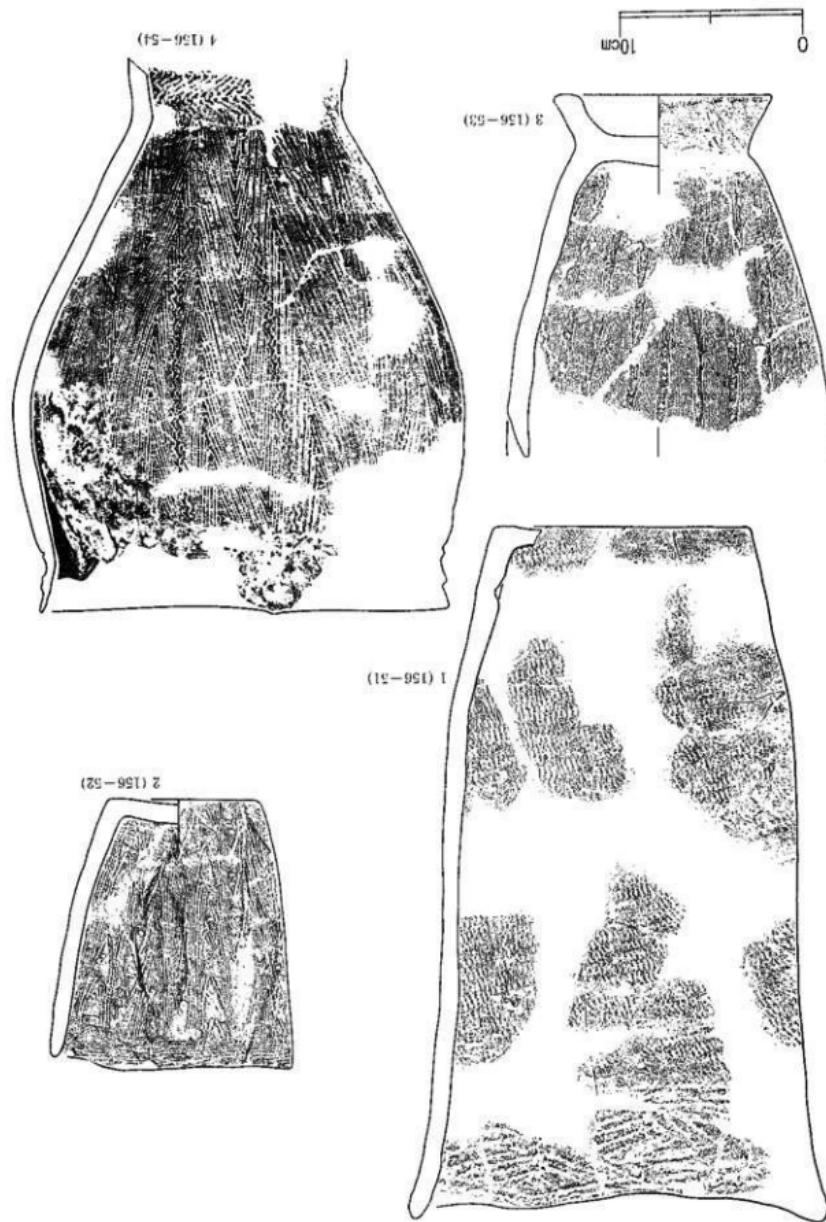


第476図 ST 156谷 I 層出土土器 (14)



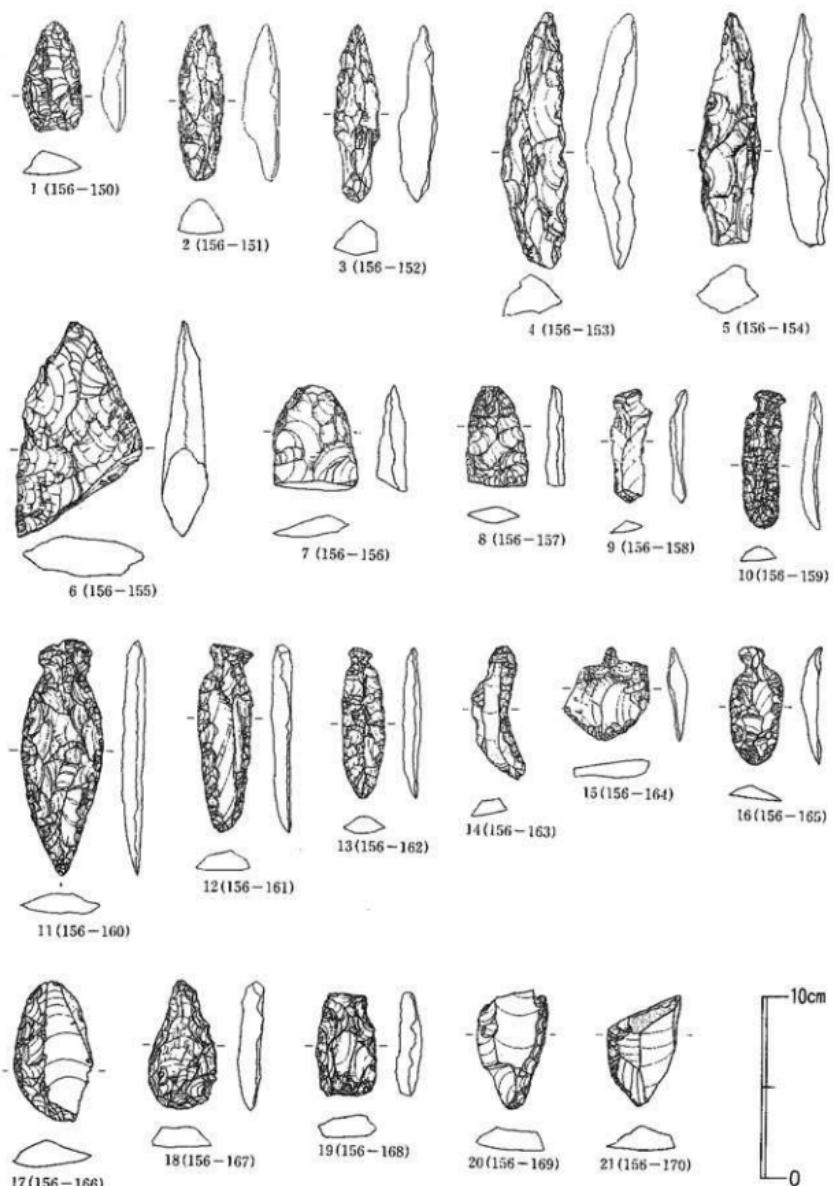
第477図 ST156谷 I層出土土器 (15)

第478圖 ST156号1層出土土器 (16)

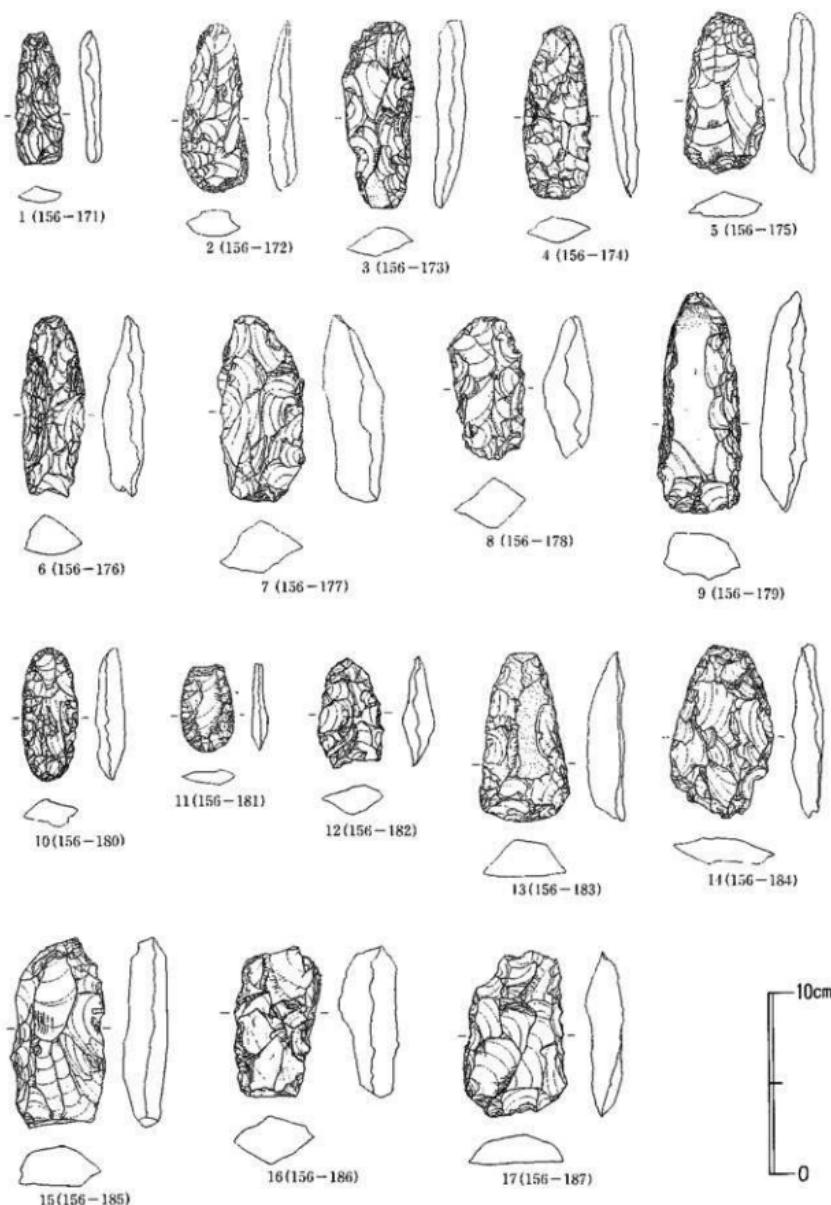




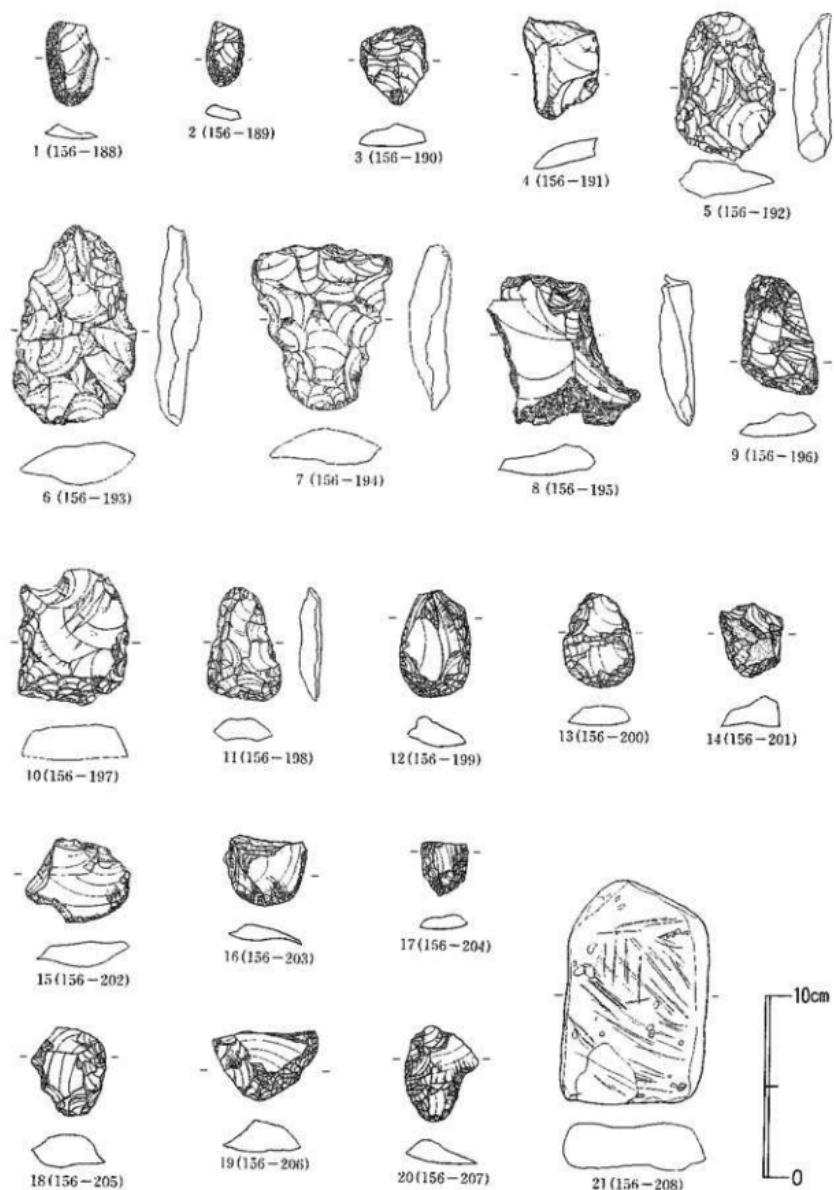
第479図 S T156谷 I層出土土器 (17)



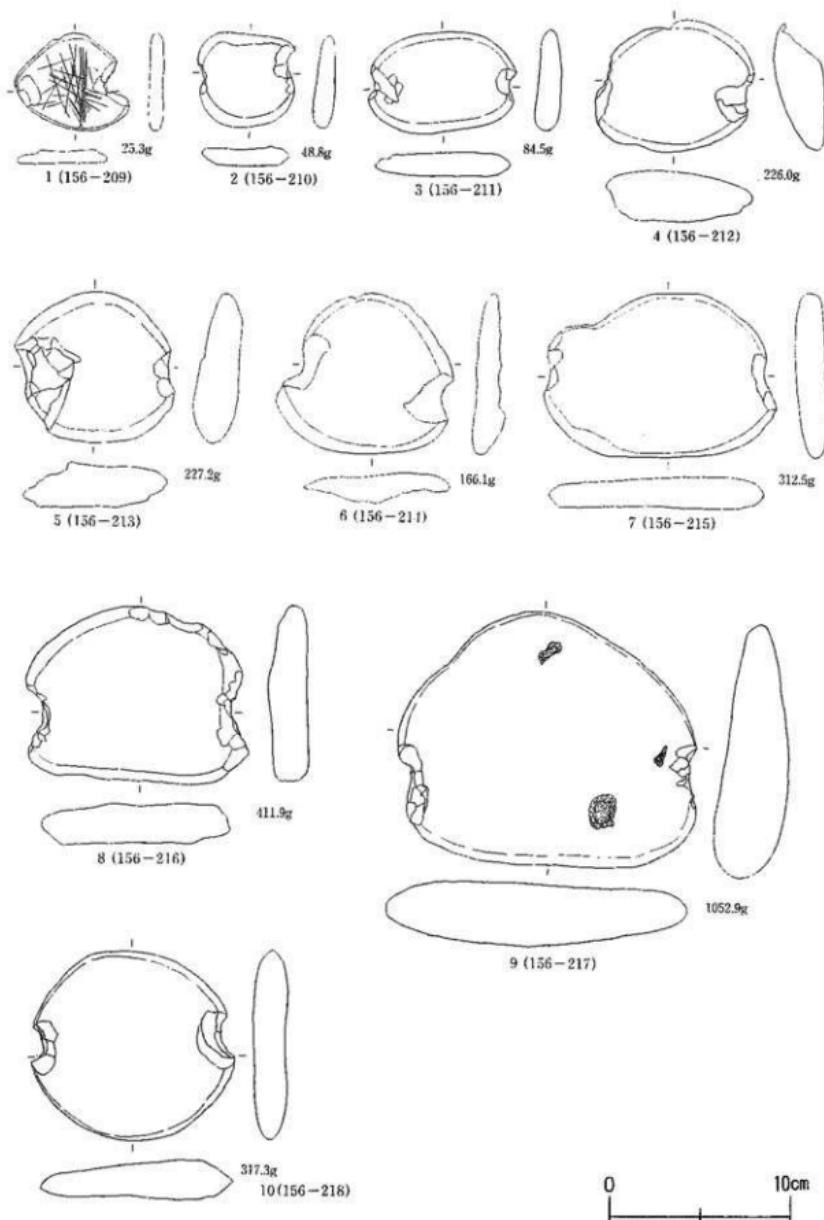
第480図 S T 156谷 I 層出土石器 (1)



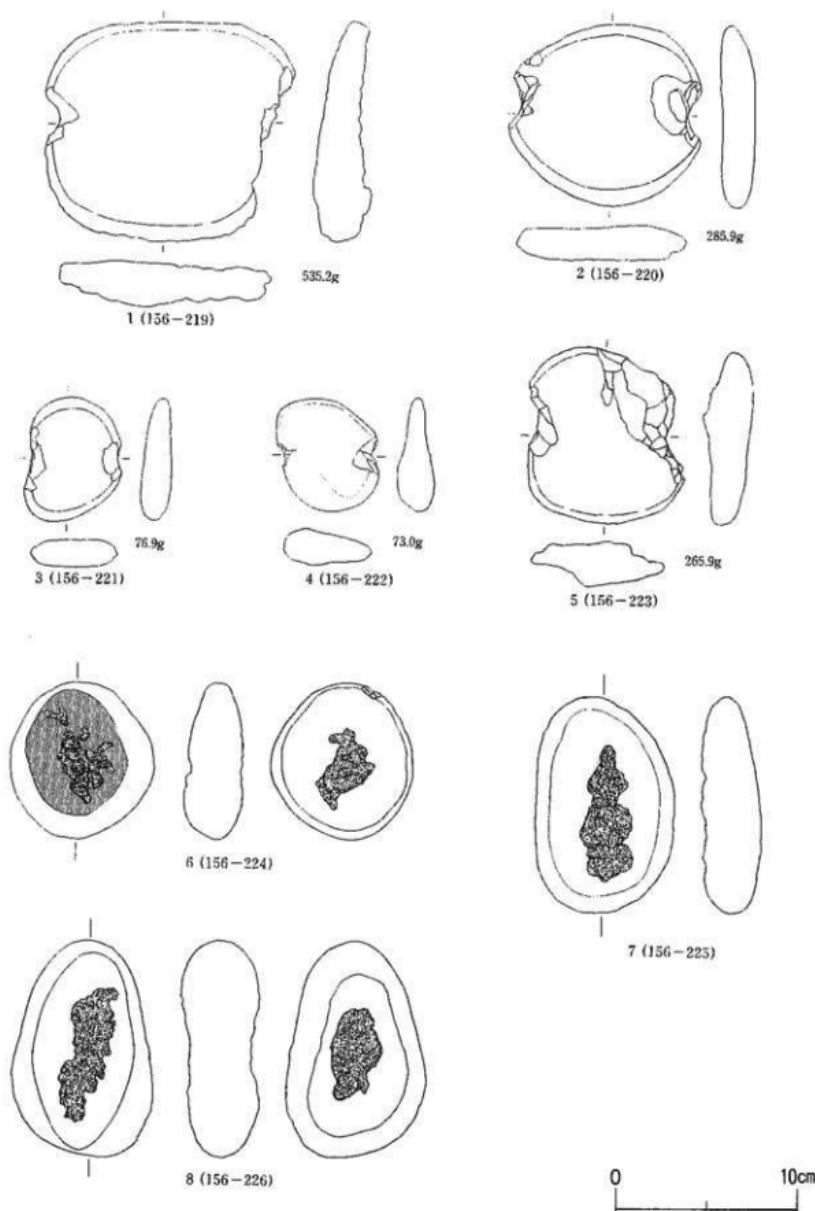
第481図 S T156谷 I 層出土石器 (2)



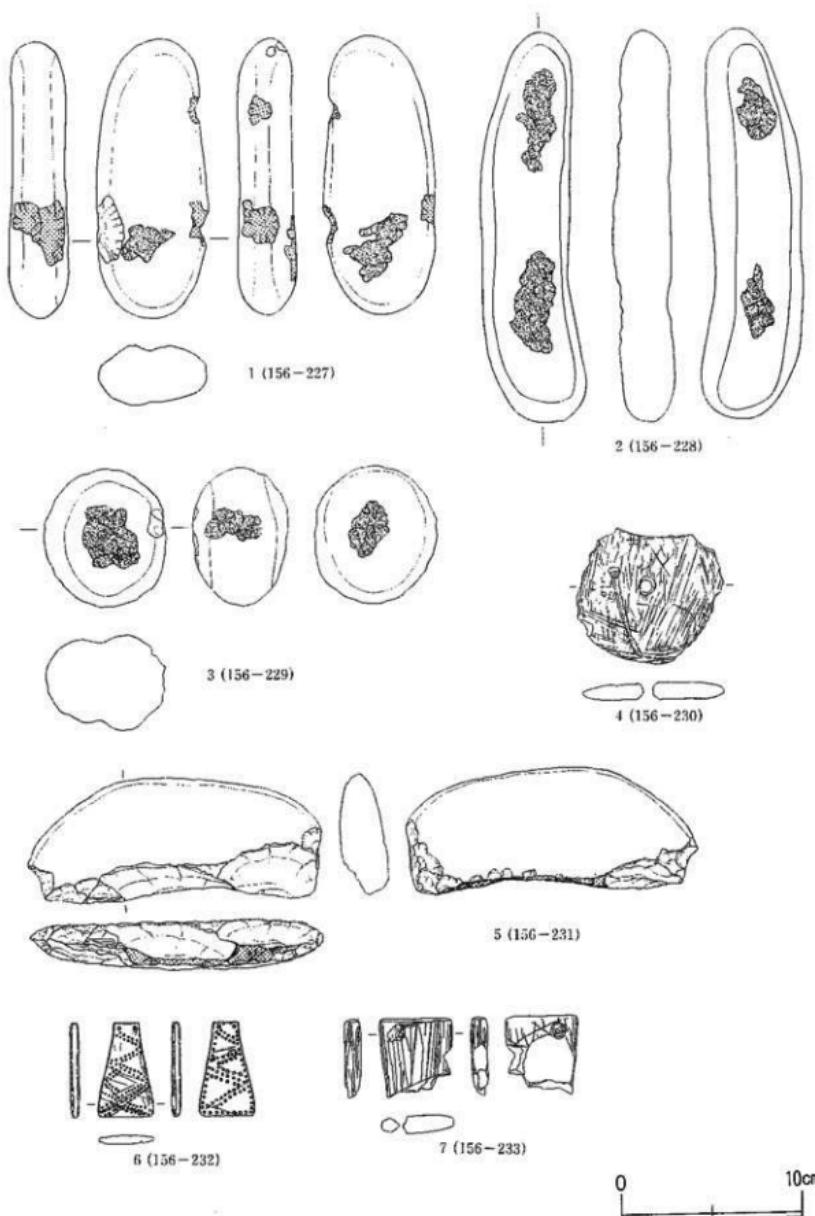
第482図 S T156谷 I層出土石器 (3)



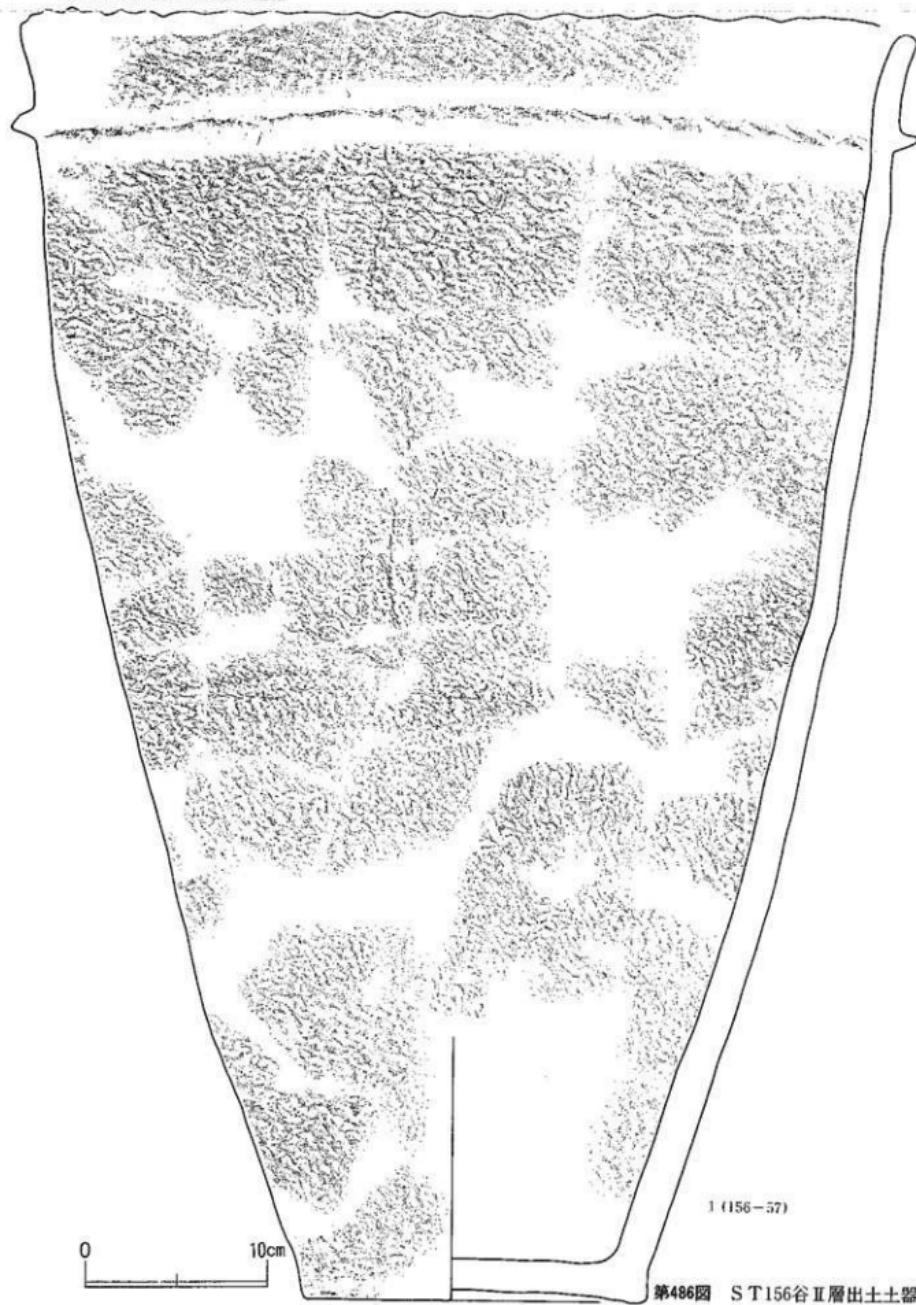
第483図 ST156谷I層出土石器(4)



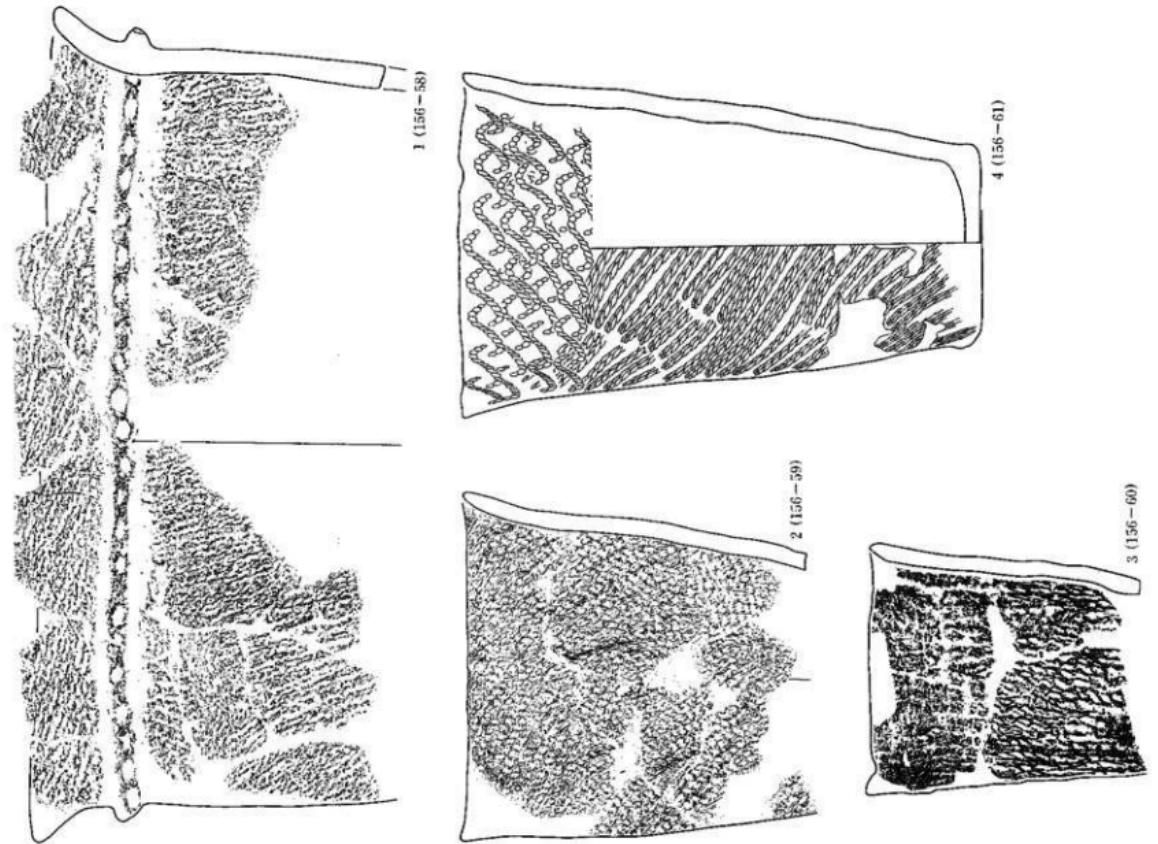
第484図 S T156谷 I層出土石器 (5)



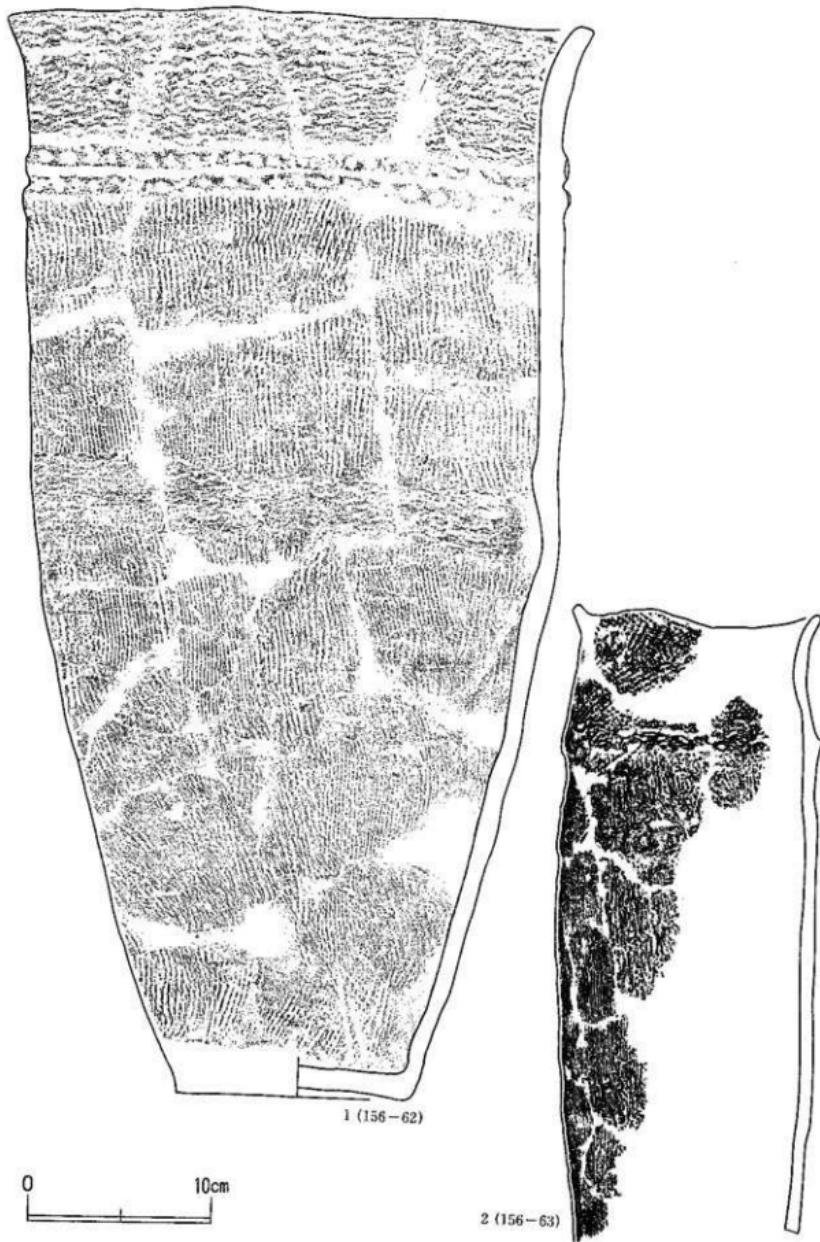
第485図 ST156谷 I 層出土石器 (6)



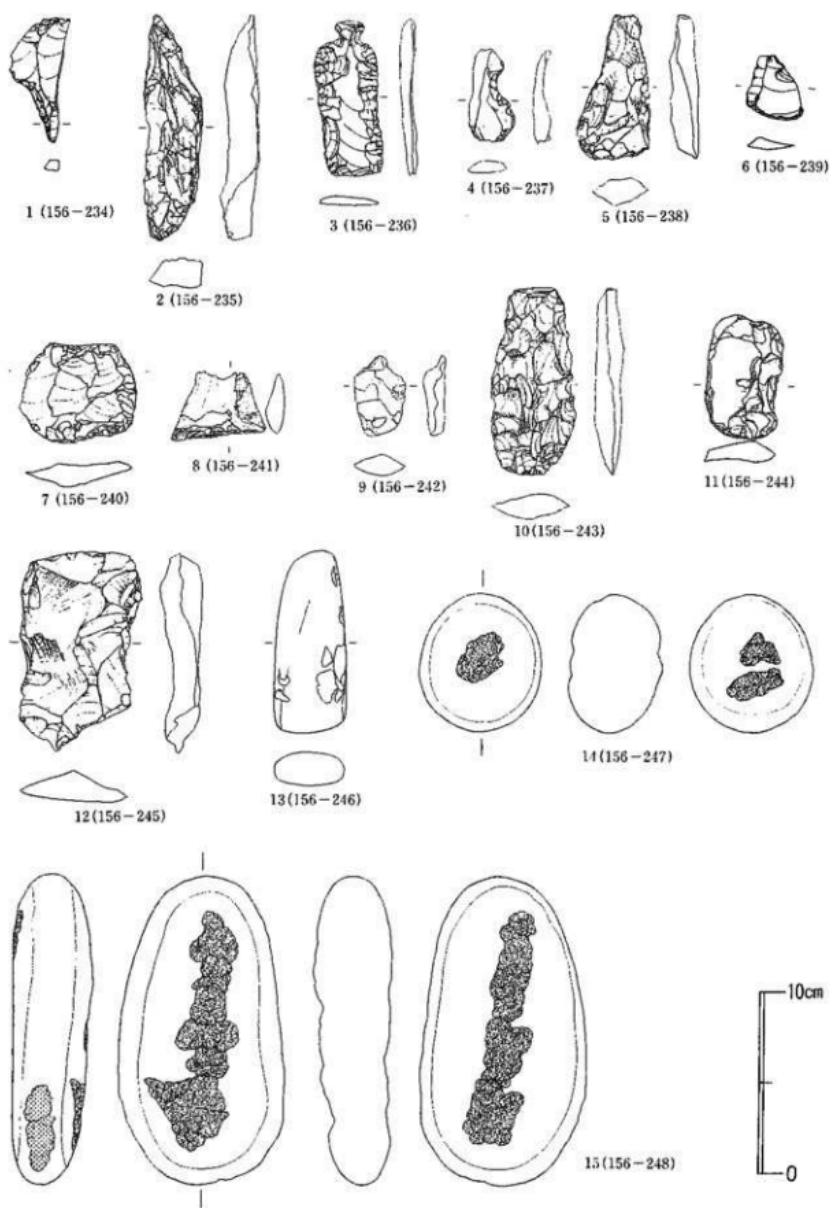
第486図 ST156谷Ⅱ層出土土器（1）



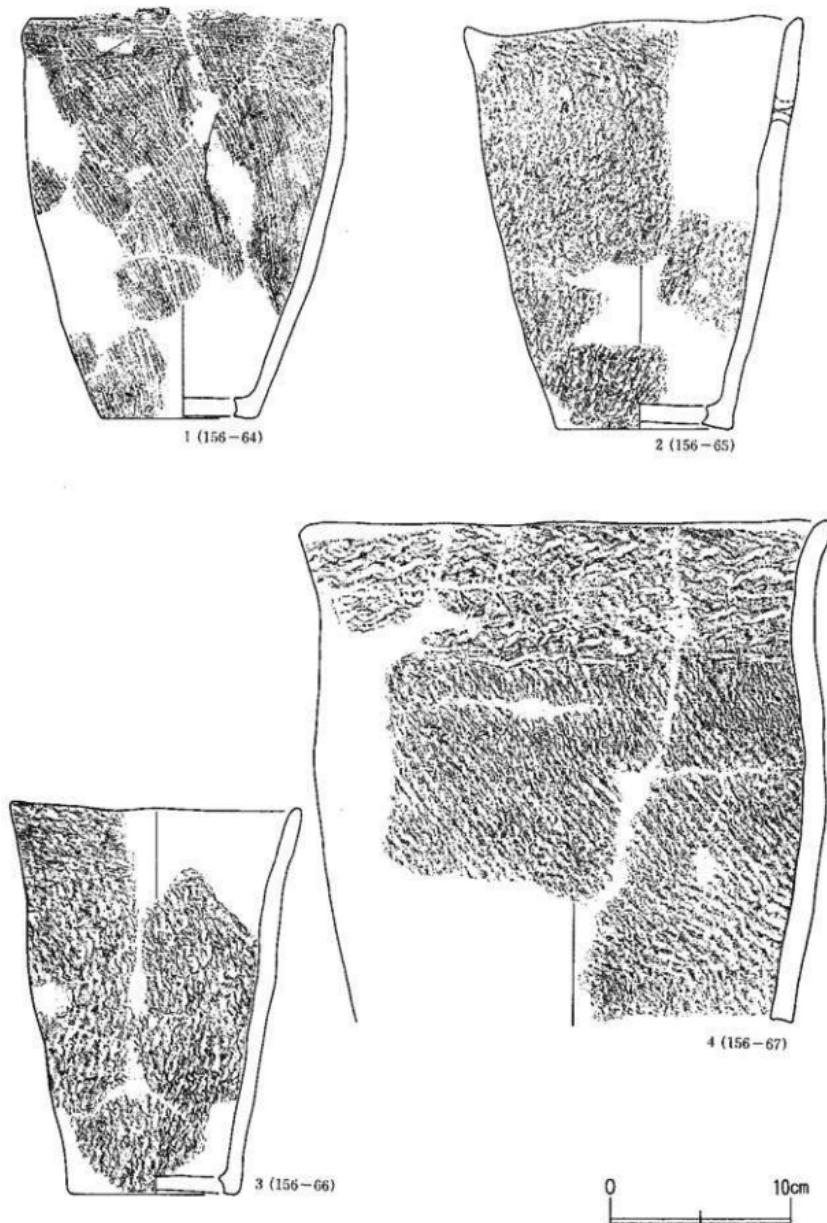
第487図 ST156谷II層出土土器（2）



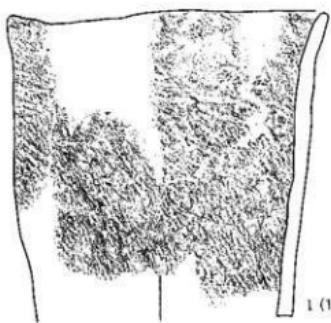
第488図 S T156谷Ⅱ層出土土器（3）



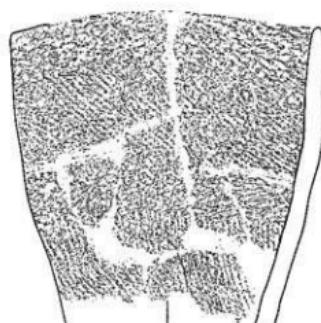
第489図 S T156谷Ⅱ層出土石器



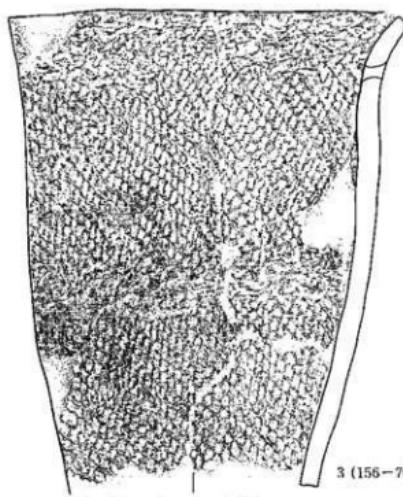
第490図 S T156谷Ⅲ層出土土器（1）



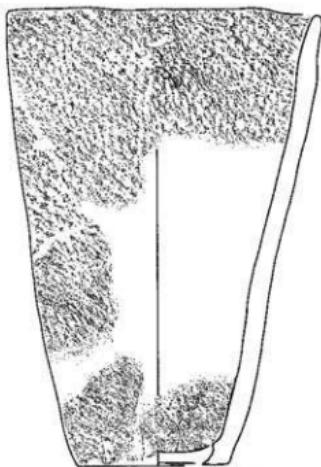
1 (156-68)



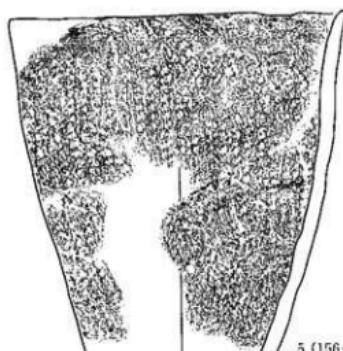
2 (156-69)



3 (156-70)



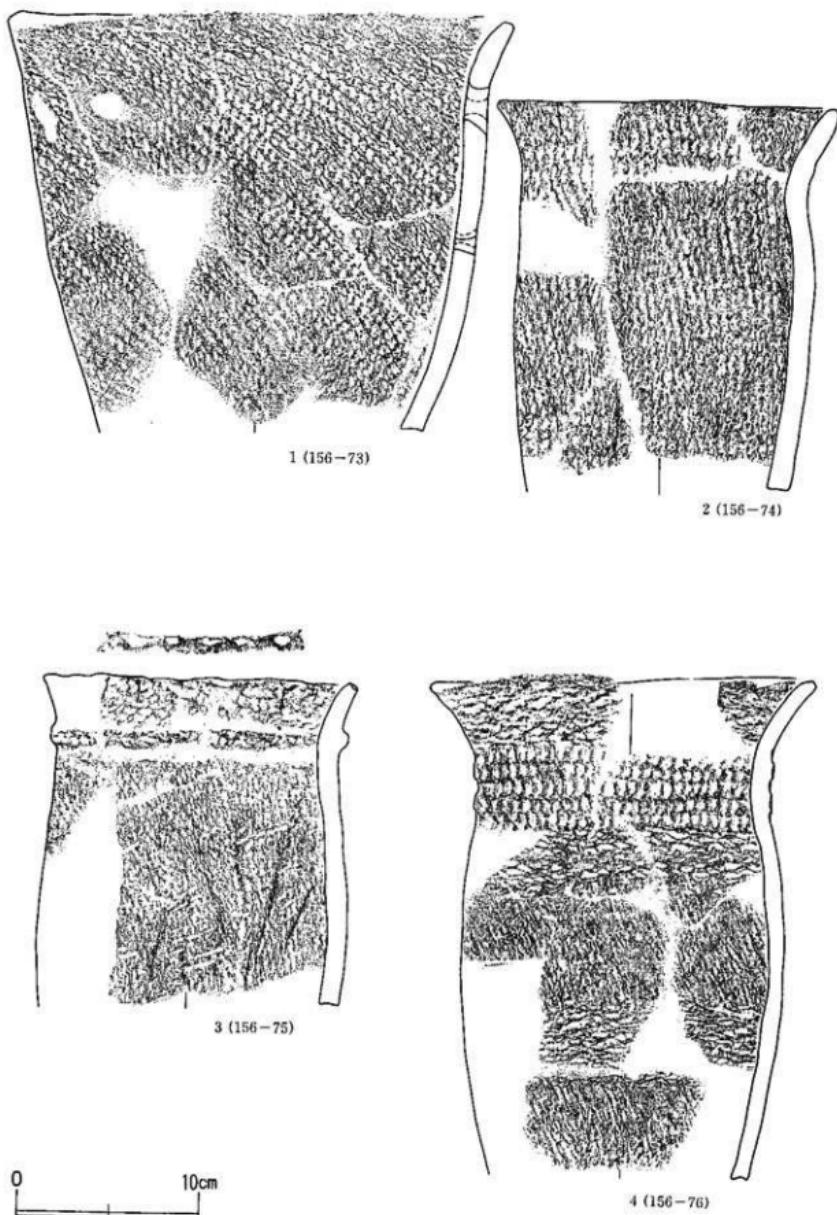
4 (156-71)



5 (156-72)



第491図 ST156谷Ⅲ層出土土器（2）



第492図 S T156谷Ⅲ層出土土器（3）

圖493 S T156各Ⅲ層出土土器 (4)

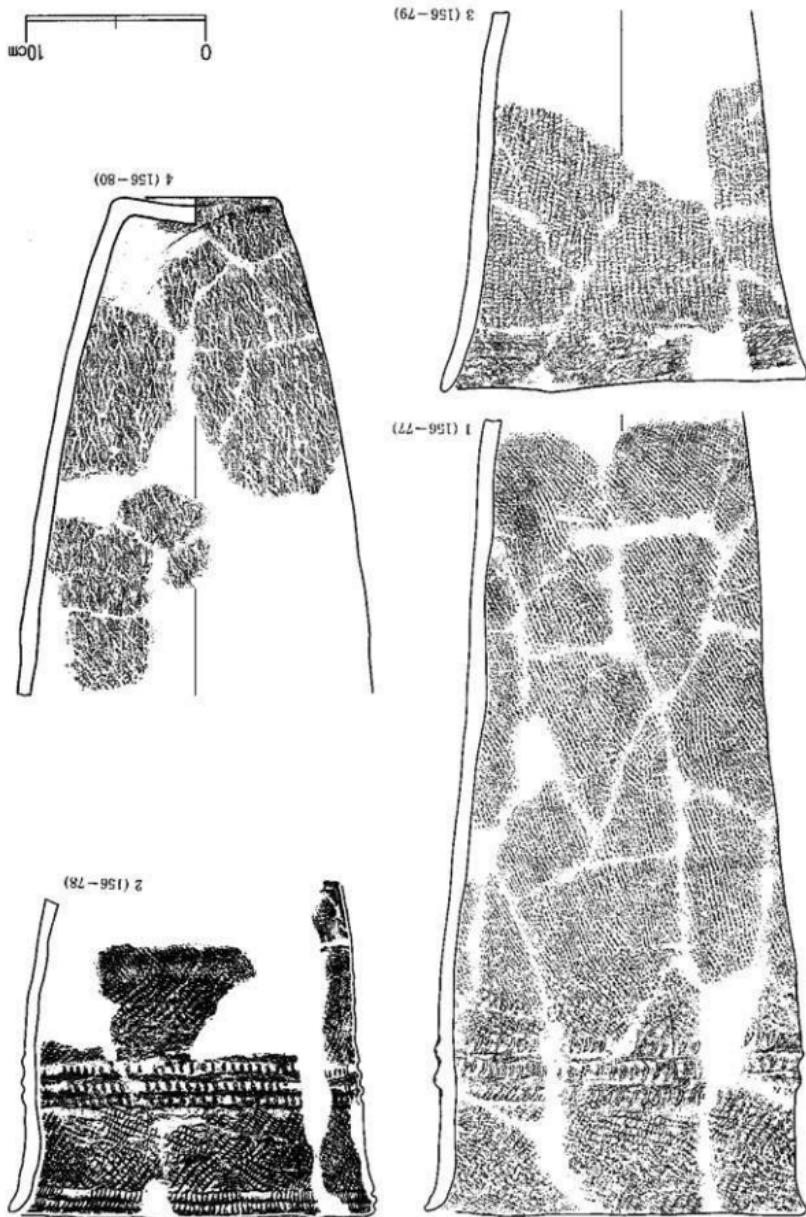
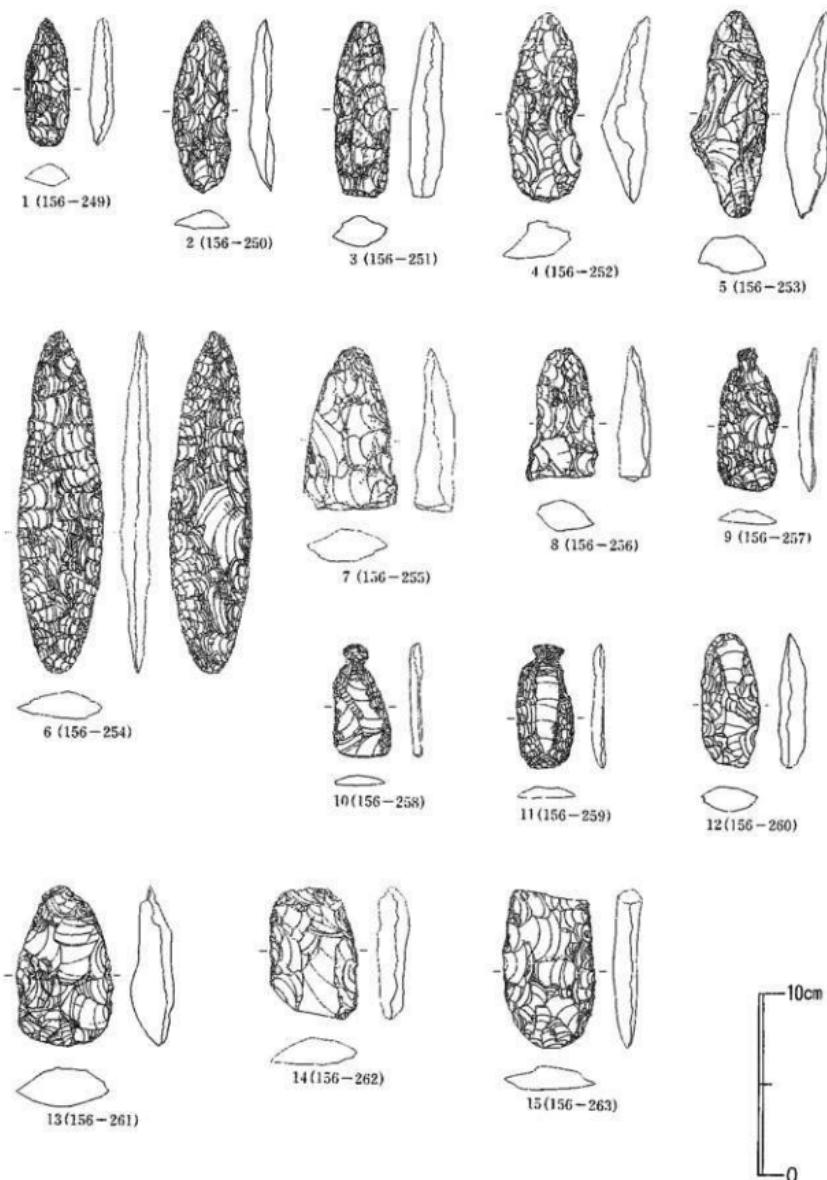


圖494 S T156各Ⅲ層出土陶器



第494図 S T156谷Ⅲ層出土石器（1）

圖455 圖 S T156各層出土石器 (2)

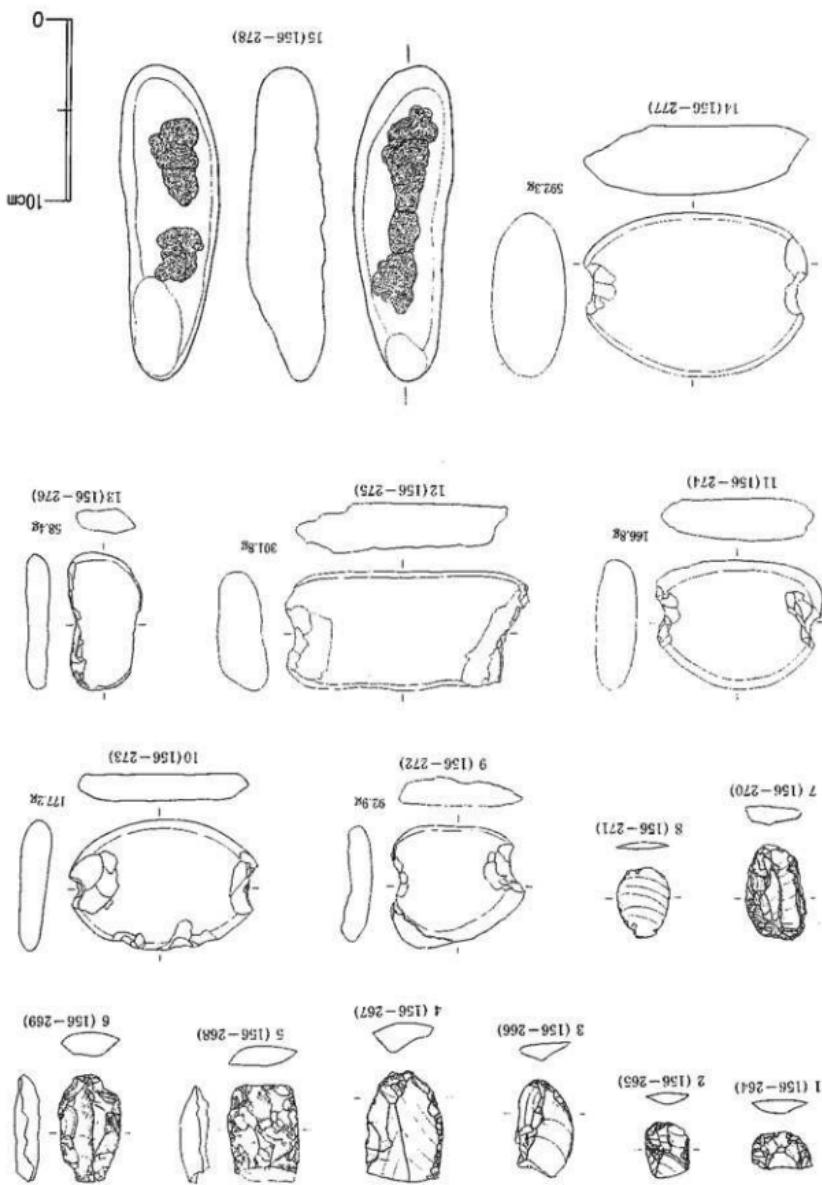
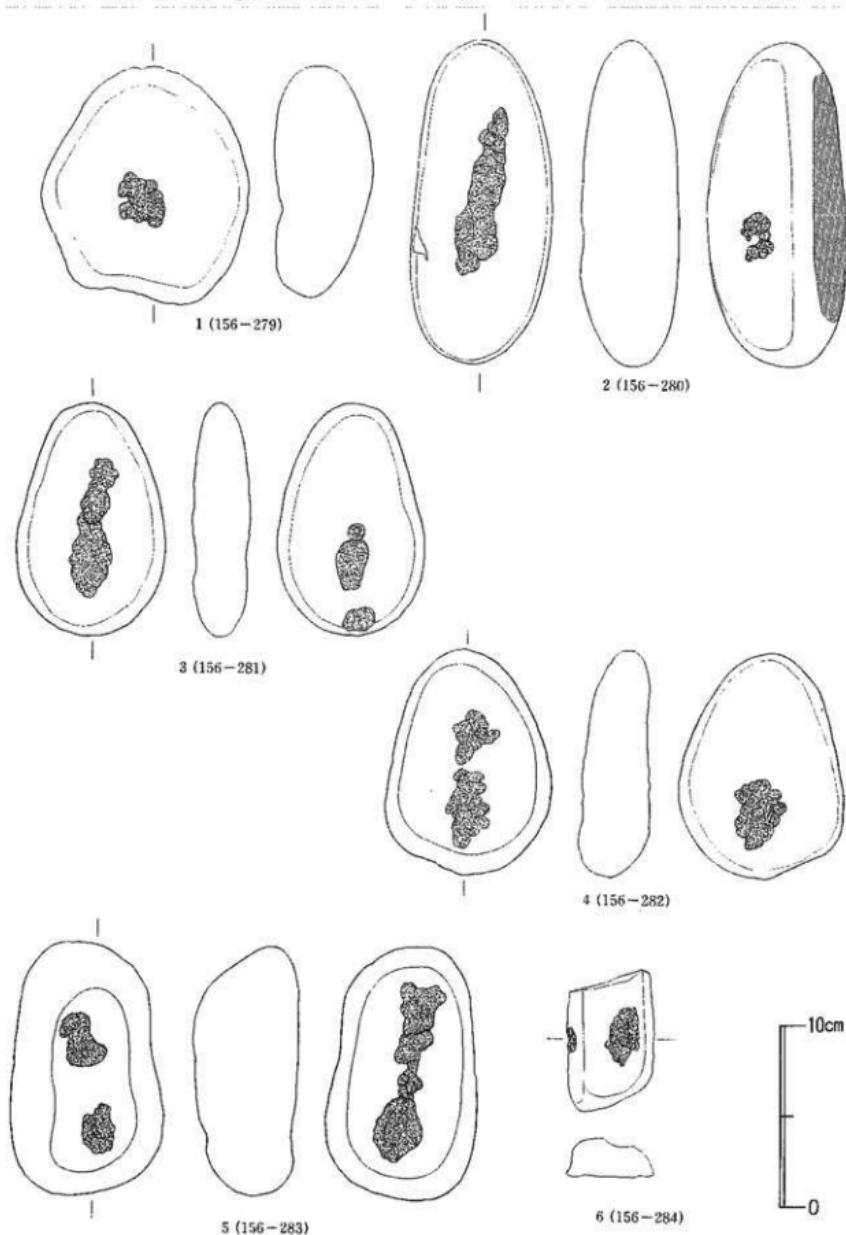
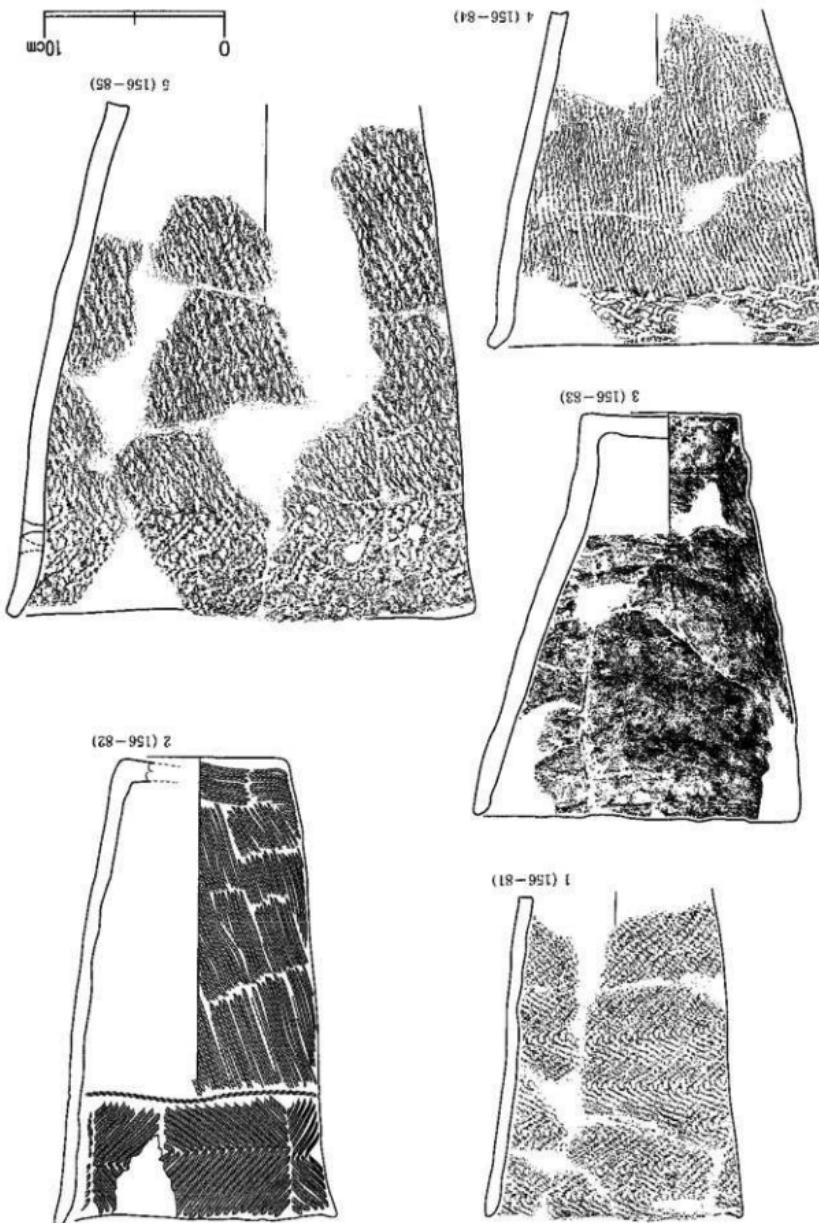


圖456 圖 S T156各層出土石器 (2)



第496図 S T156谷Ⅲ層出土石器（3）

第49圖 ST156号之三層・W層出土土器(1)



第49圖 ST156号之三層・W層

圖498 圖 ST156号T型器出土土器 (2)

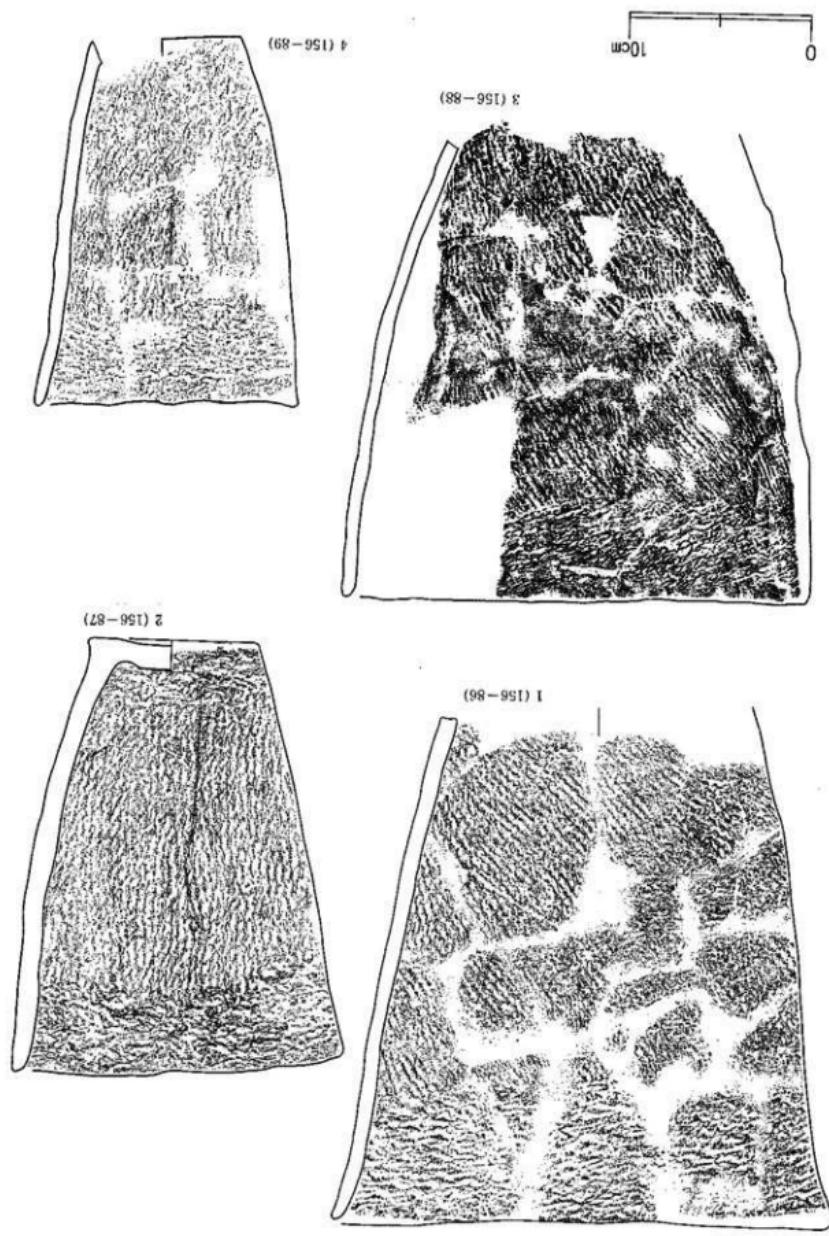


圖499 S T156各V層出土土器 (3)

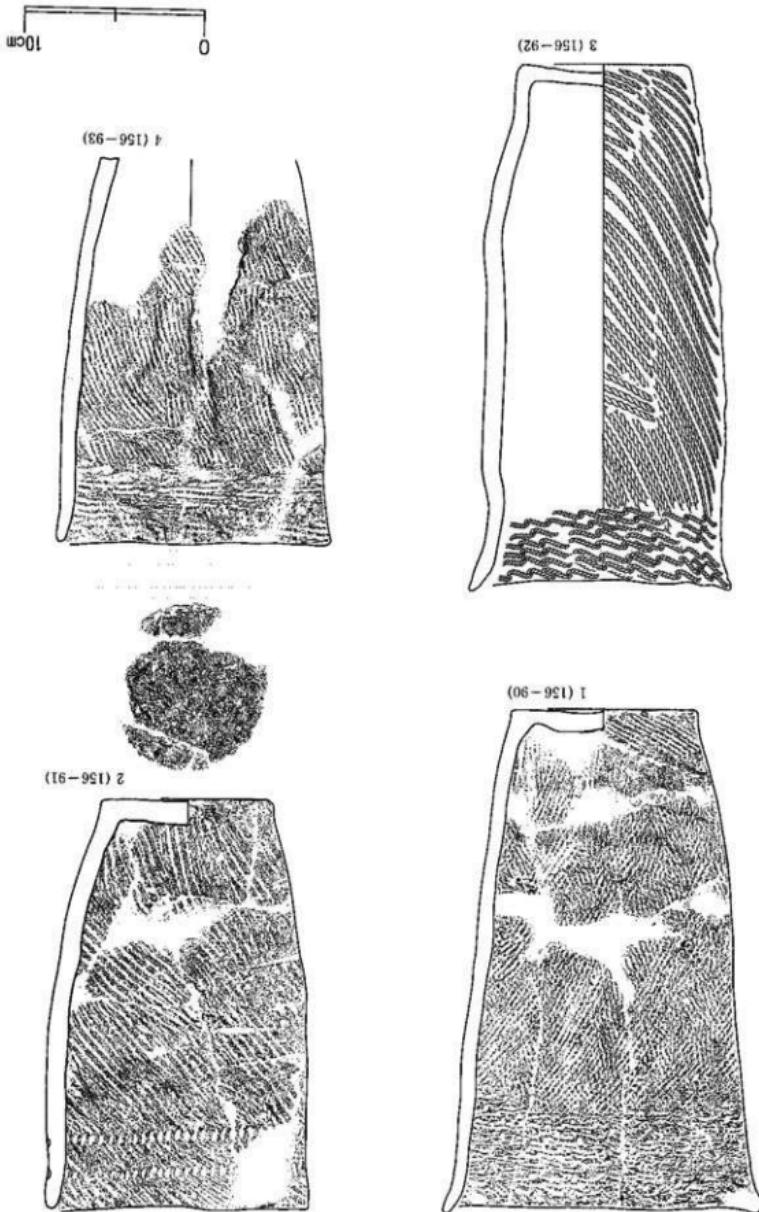
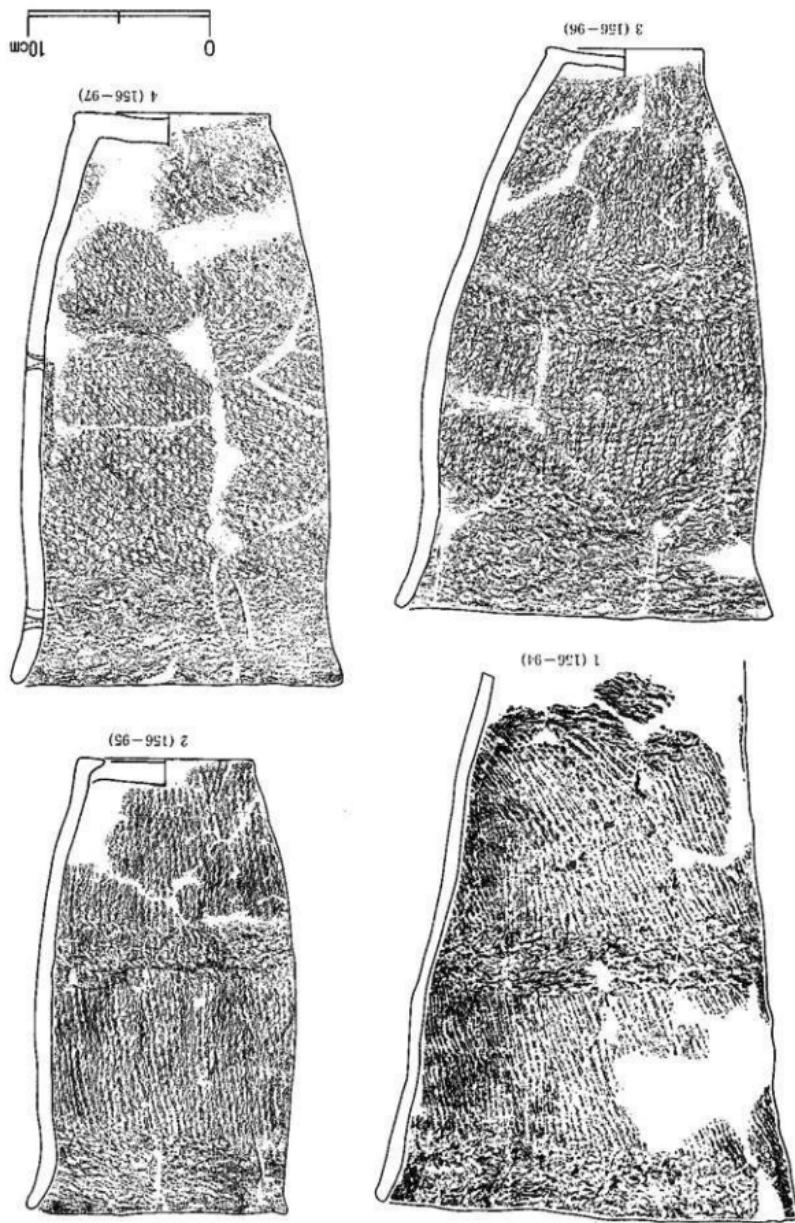
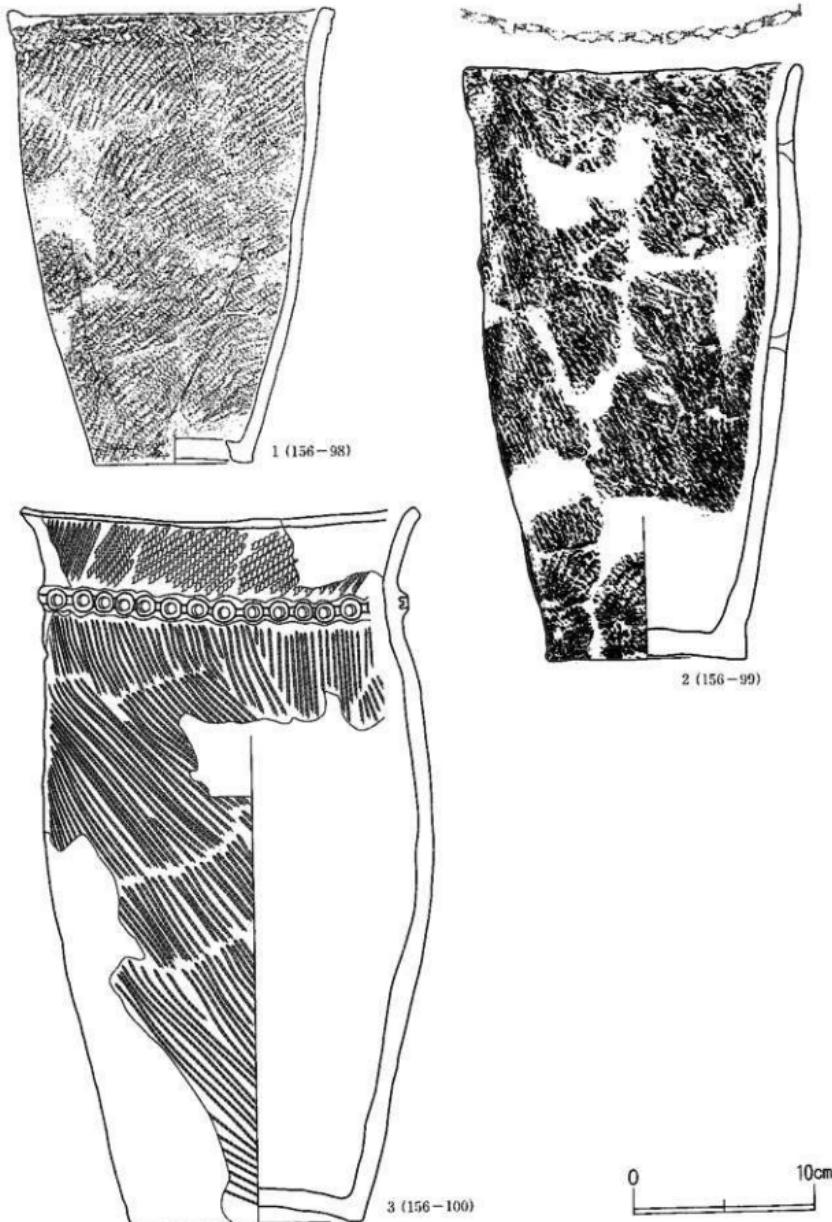


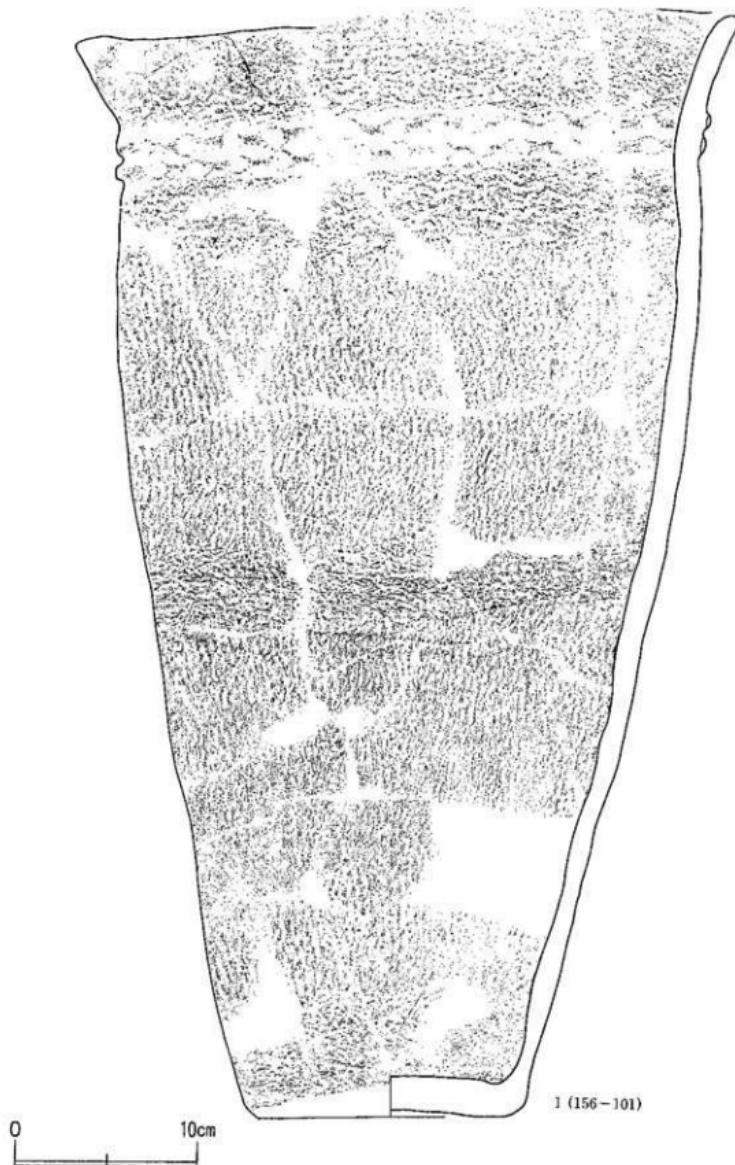
圖499 S T156各V層出土土器

第500圖 ST156号V型出土土器 (4)

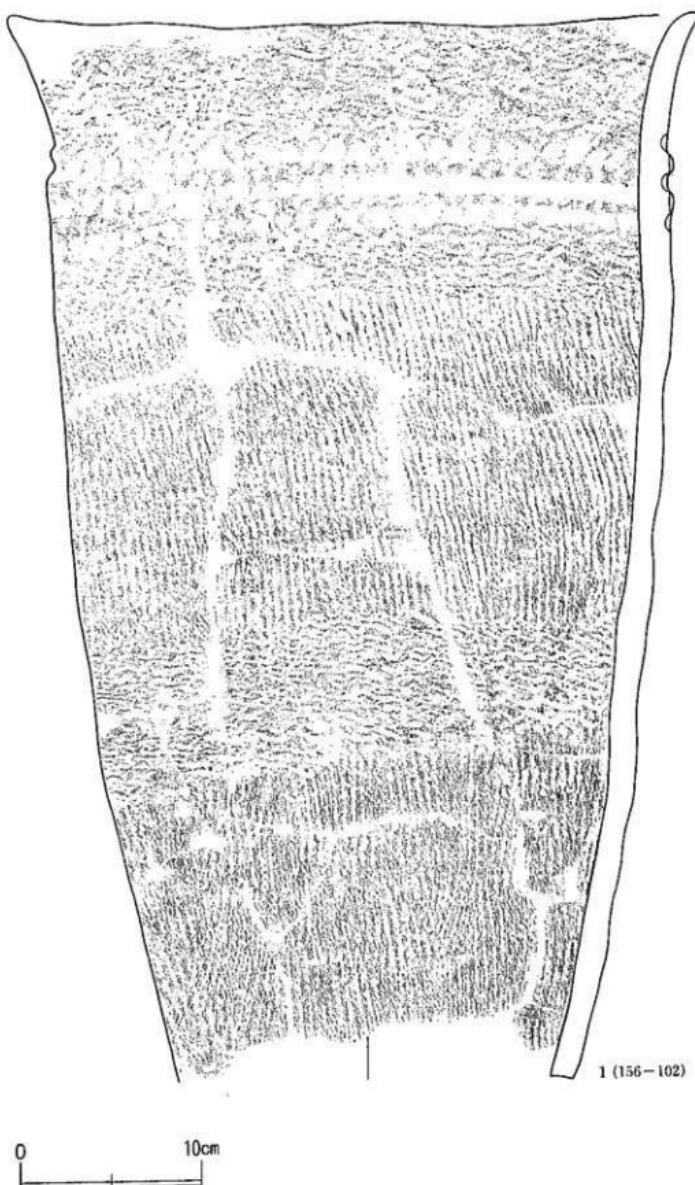




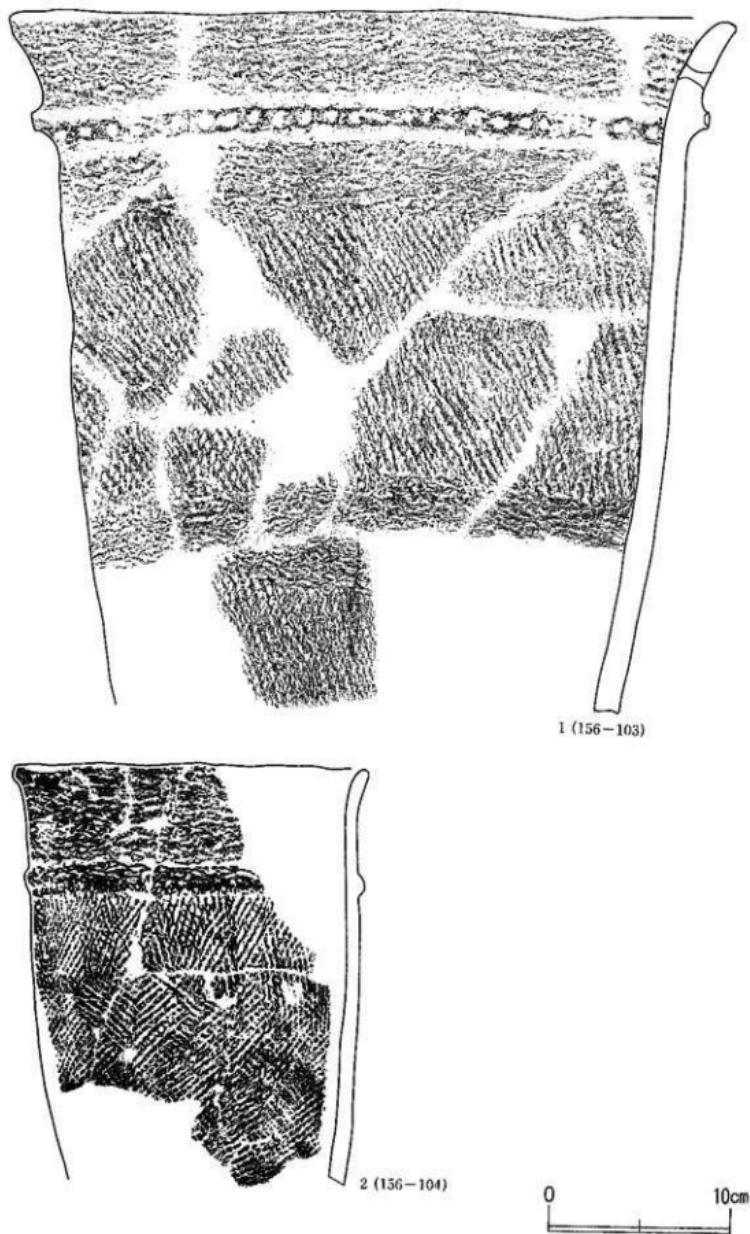
第501図 ST156谷Ⅳ層出土土器（5）



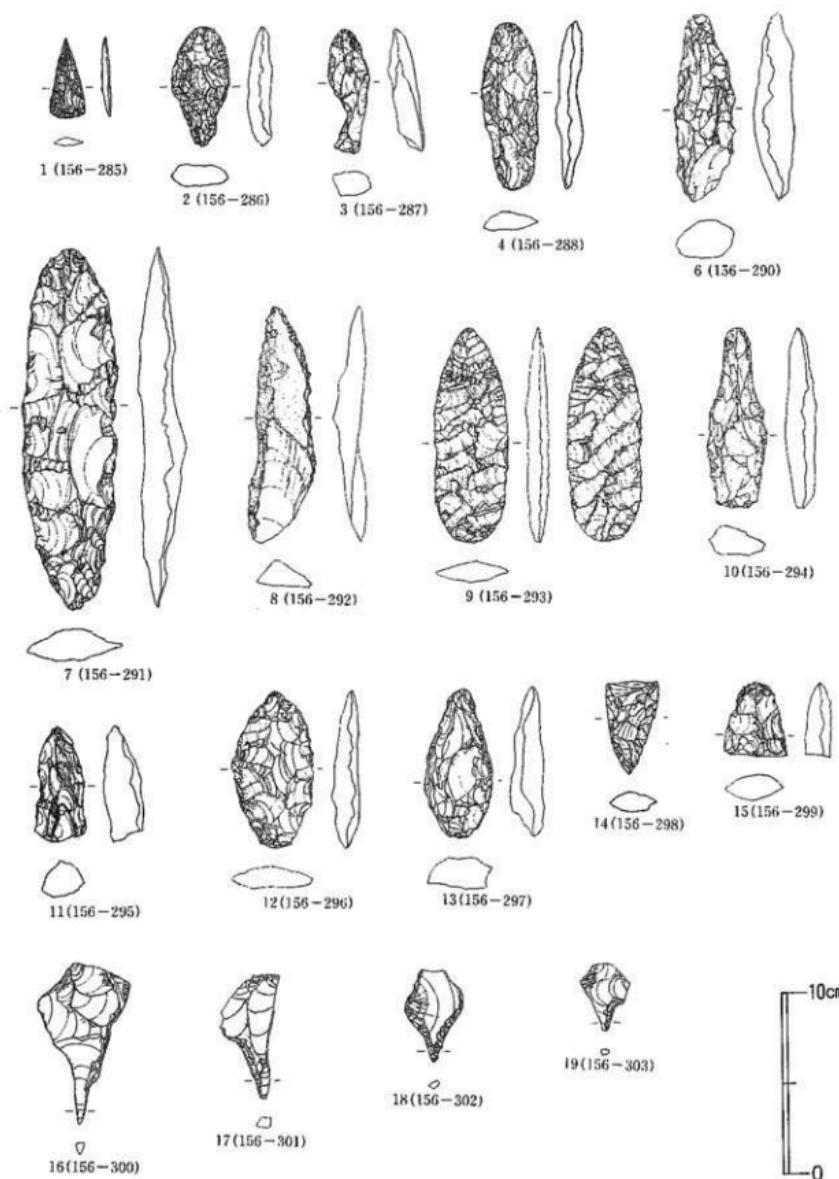
第502図 S T 156谷N層出土土器（6）



第503図 ST156谷IV層出土土器（7）

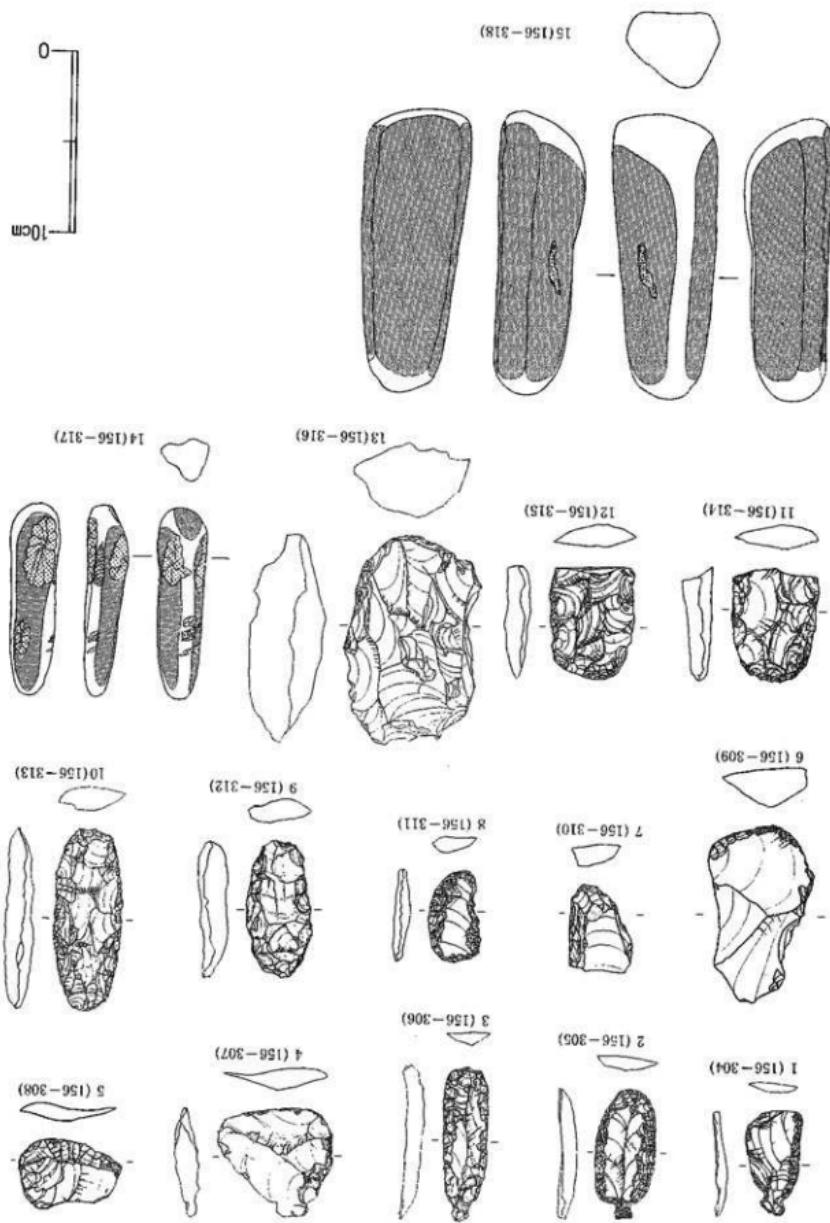


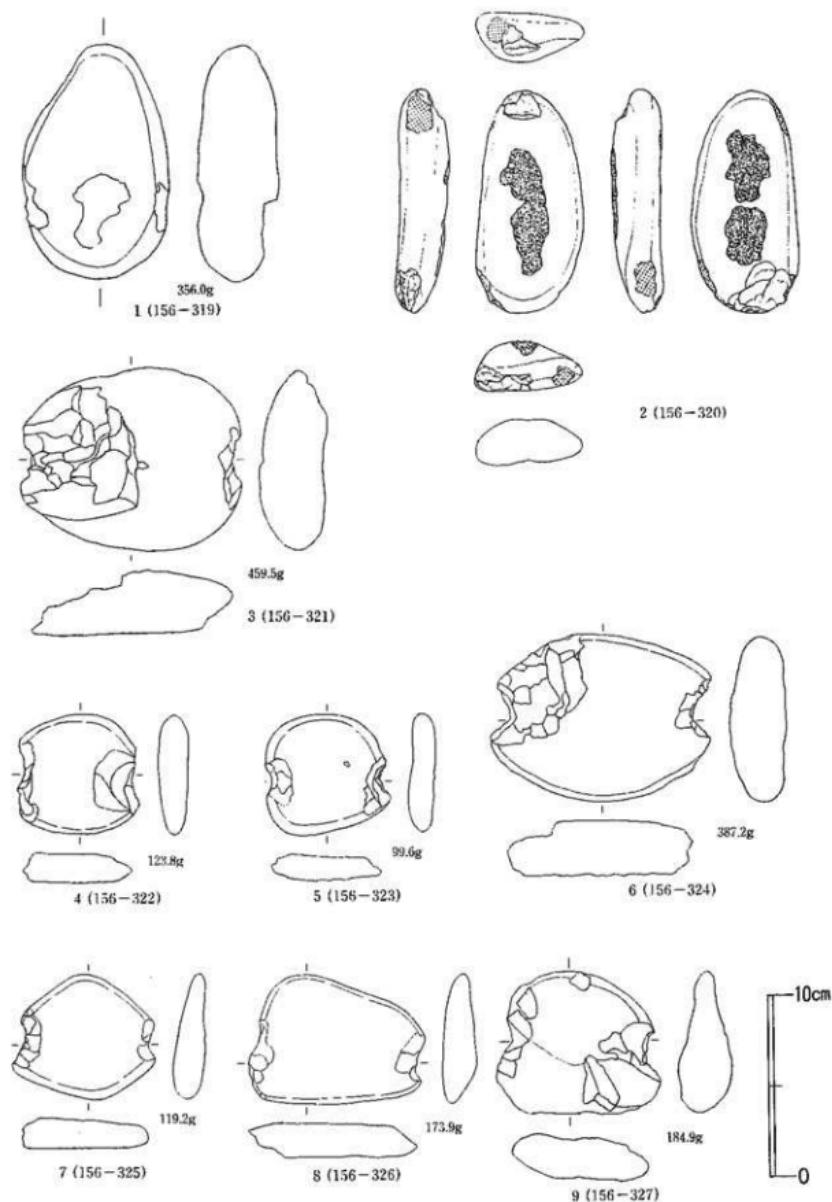
第504図 S T 156谷N層出土土器 (8)



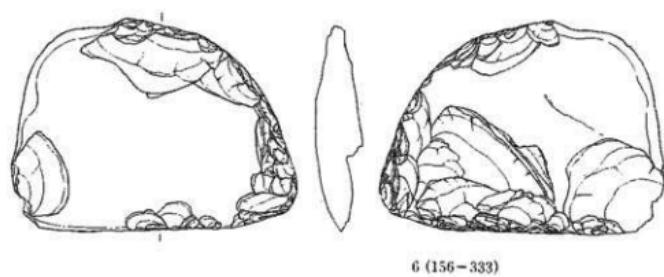
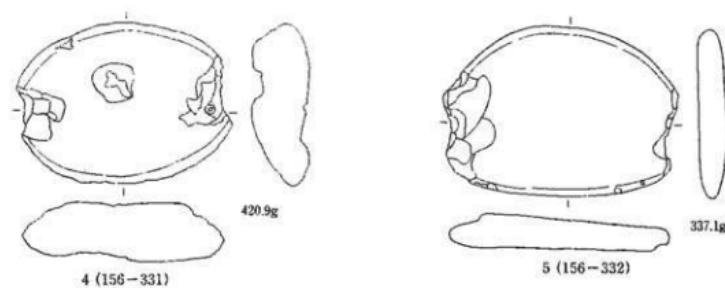
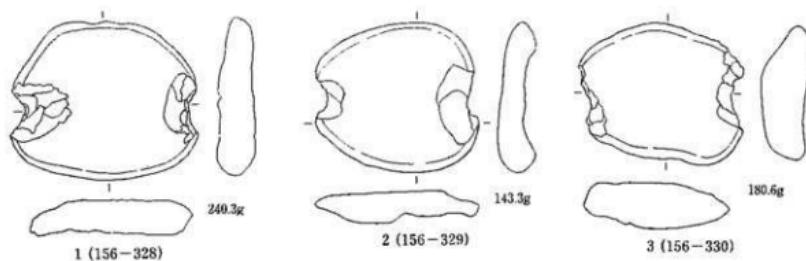
第505図 S T156谷Ⅳ層出土石器(1)

第506圖 ST156号W墓出土石器(2)





第507図 ST156谷IV層出土石器（3）



第508図 S T156谷IV層出土石器（4）